

故郷は夢に

福岡、鹿兒島、中国上海・青島

軍国主義の中の青春

14歳で飛行兵に志願し、激動の時代を生きた夫の手記



著者

川島謙二

昭和九年〜平成十一年

元日本海軍飛行兵

故郷は夢に

【目次】

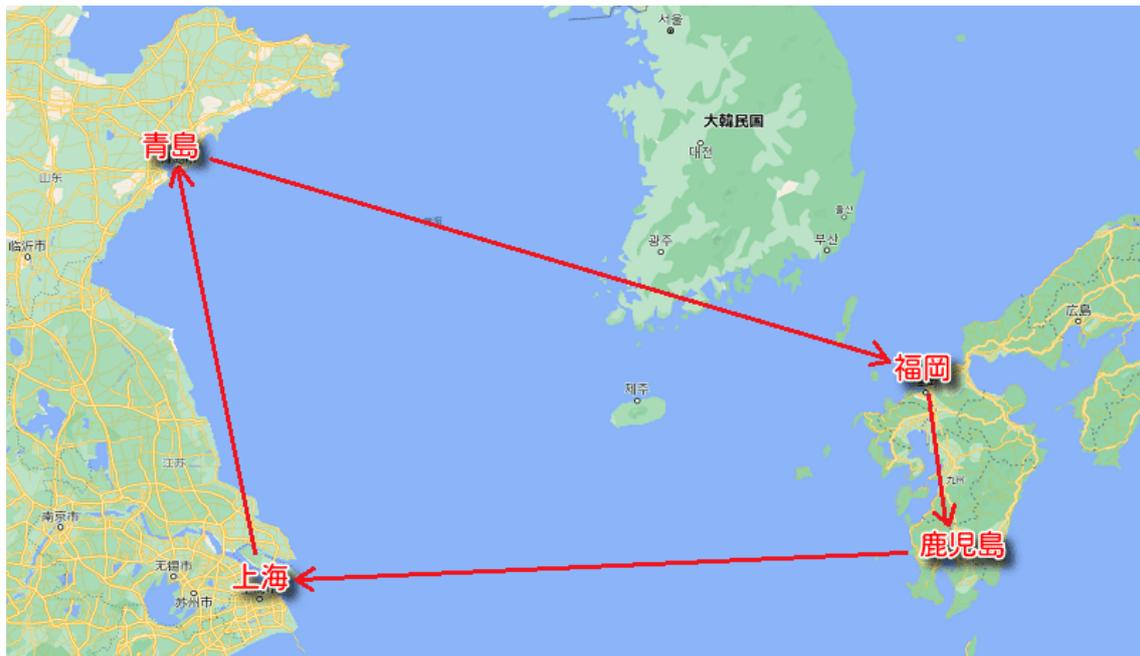
| | |
|---------------------------|----|
| ごあいさつ | 10 |
| 「故郷は夢に」デジタル版について | 11 |
| はじめに | 13 |
| 戦前の社会情勢 | 15 |
| 明治以降現在までの財閥の考え方 | 17 |
| 学校制度 | 19 |
| 教育勅語（現代かなづかいによる読み方） | 21 |
| 小学校時代 | 22 |
| 出征兵士見送り | 23 |
| 中学時代 | 24 |
| 中学一年 | 24 |
| 中学二年 昭和十六年（一九四一年） | 25 |
| 第二次世界大戦勃発 | 26 |
| 活動写真（映画） | 28 |
| 中学四年時代 | 31 |
| 甲種飛行予科練習生を志願した理由 | 31 |
| 入隊案内 | 33 |
| 海軍甲種飛行豫科練習生志願書等 | 42 |

| | |
|-------------------------------|-----|
| 予科練日記..... | 56 |
| 軍機保護法..... | 57 |
| 今は亡き人に捧げる..... | 58 |
| 現在「予科練」と聞いた人の感じ方..... | 59 |
| 旧海軍の制裁について..... | 60 |
| 入隊直後の訓練と軍人精神注入棒(バッター)の恐怖..... | 60 |
| 日記の前に..... | 73 |
| 予科練の門出 事業服(上一枚)不足..... | 73 |
| 入室(病気のため医務室に治療に行くこと)..... | 76 |
| 一九四三年十一月..... | 79 |
| 一九四三年十二月..... | 92 |
| 一九四四年一月..... | 103 |
| 一九四四年二月..... | 122 |
| 一九四四年三月..... | 137 |
| 一九四四年四月..... | 154 |
| 一九四四年五月..... | 165 |
| 一九四四年六月..... | 173 |
| 鹿児島海軍航空隊・甲種飛行予科練習生卒業..... | 180 |
| 上海・青島へ..... | 185 |
| 築城航空隊仮入隊..... | 185 |
| 上海行路..... | 188 |
| 上海海軍航空隊..... | 190 |

| | |
|-----------------------|-----|
| 上海海軍航空隊飛行練習生訓練内容..... | 195 |
| 上海から青島へ..... | 202 |
| 青島海軍航空隊..... | 204 |
| 青島海軍根拠地隊第三中隊..... | 207 |
| 青島司令部 終戦..... | 213 |
| 骸炭工場(コークス工場)..... | 215 |
| 福岡に帰る..... | 216 |
| 帰国..... | 216 |
| 再会..... | 217 |
| 帰国後の道..... | 219 |
| 佐久間潔班長の思い出..... | 219 |
| 終わりに..... | 225 |
| 軍人勅諭..... | 226 |
| 終わりに..... | 231 |

故郷は夢に

【著者の移動した場所】



福岡→鹿児島(220km):1943年9月

鹿児島→上海(830km):1944年8月

上海→青島(560km):1945年1月

青島→福岡(970km):1945年11月

【「故郷は夢に」年表】

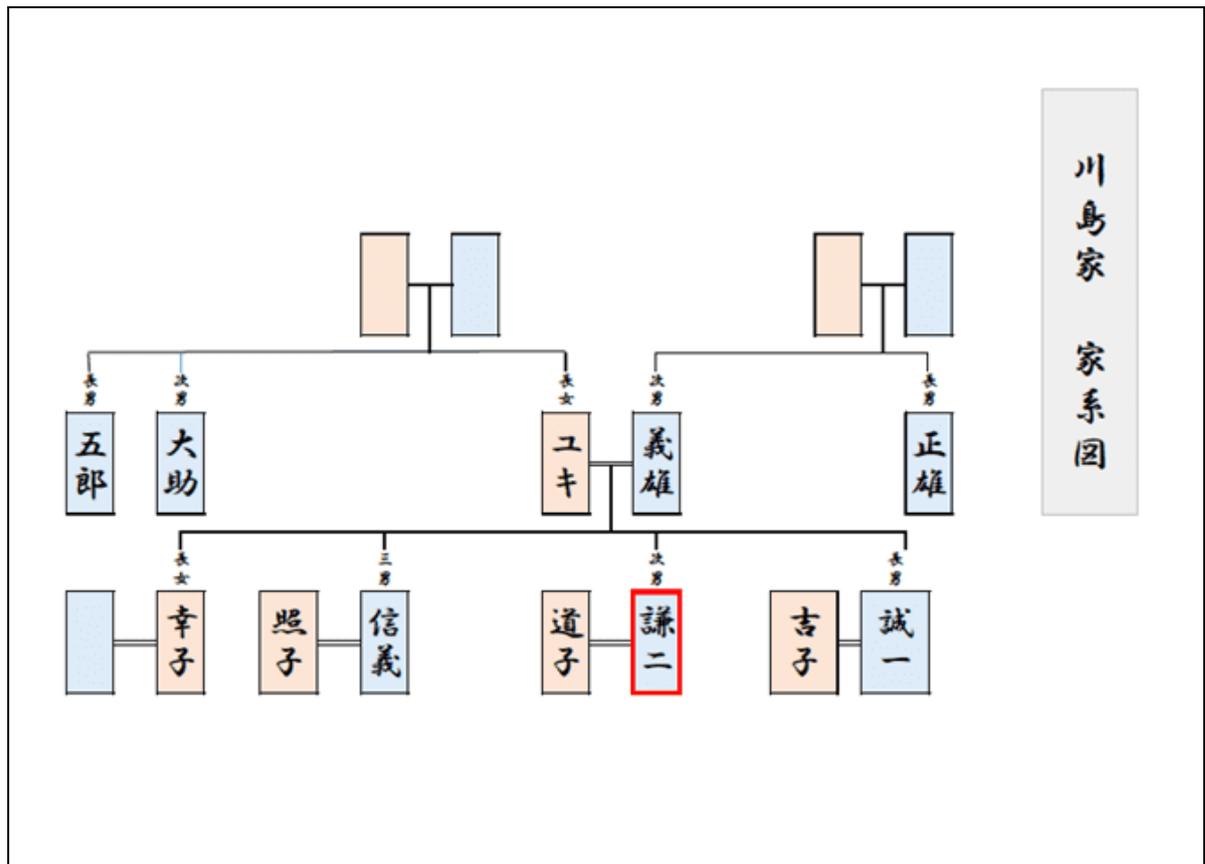
| 西暦 | 昭和 | 月 | 出来事 | 筆者の出来事 |
|-------|----|-----|------------------|-----------------------|
| 1928年 | 3 | | 張作霖爆殺事件・特別高等警察設置 | 2月4日簗子町(福岡市中央区大手門)で生誕 |
| 1929年 | 4 | | 世界恐慌・ムッソリーニ政権掌握 | 1歳 |
| 1930年 | 5 | | ロンドン海軍軍縮会議 | 2歳 |
| 1931年 | 6 | | 満州事変 | 3歳 |
| 1932年 | 7 | | 五・一五事件・満州国独立 | 4歳 |
| 1933年 | 8 | | 国際連盟脱退・ヒトラー独裁政権 | 5歳 |
| 1934年 | 9 | | 「のらくろ一等兵」公開 | 6歳・西新尋常小学校入学 |
| 1935年 | 10 | | ドイツ再軍備宣言 | 7歳 |
| 1936年 | 11 | | 二・二六事件・スペイン内戦 | 8歳 |
| 1937年 | 12 | | 盧溝橋事件・支那事変 | 9歳 |
| 1938年 | 13 | | 国家総動員法公布 | 10歳 |
| 1939年 | 14 | | ノモンハン事件 | 11歳 |
| 1940年 | 15 | | 仏印進出・日独伊三国同盟 | 12歳 |
| 1941年 | 16 | 1月 | 東條陸相が戦陣訓を通達 | |
| | | 2月 | 治安維持法改正 | 13歳 |
| | | 3月 | | |
| | | 4月 | 国民学校令 | 西南学院中学入学 |
| | | 5月 | 重慶爆撃 | |
| | | 6月 | ドイツ、ソビエト侵攻 | |
| | | 7月 | 南部仏印進駐 | |
| | | 8月 | 米、石油の対日輸出全面禁止 | |
| | | 9月 | 開戦決定の御前会議 | |
| | | 10月 | 東條内閣 | |
| | | 11月 | | |
| | | 12月 | 真珠湾攻撃 | |
| 1942年 | 17 | 1月 | 塩通帳配給 | |
| | | 2月 | シンガポール陥落 | 14歳 |
| | | 3月 | | |
| | | 4月 | ドーリットル空襲 | |
| | | 5月 | | |
| | | 6月 | ミッドウェー海戦 | |
| | | 7月 | ガダルカナル島の闘い開始 | |
| | | 8月 | | |
| | | 9月 | | |
| | | 10月 | | |
| | | 11月 | ドイツ、フランス占領 | 予科練制服に「七つボタン」採用 |

| | | | | |
|-------|----|-----|-------------------|------------------------|
| | | 12月 | スターリンググラード戦開始 | |
| 1943年 | 18 | 1月 | ポスター「撃ちてしまむ」 | |
| | | 2月 | ガダルカナル島撤退 | 15歳 |
| | | 3月 | 建物疎開実施 | |
| | | 4月 | 山本元帥戦死 | |
| | | 5月 | アッツ島守備隊全滅(玉砕初出) | |
| | | 6月 | | |
| | | 7月 | 国民徴用令 | |
| | | 8月 | 上野動物園猛獣処分 | |
| | | 9月 | 勤労挺身隊(25歳未満女子)の動員 | |
| | | 10月 | 学徒出陣壮行会举行 | 第13期甲種飛行予科練習生(鹿児島) |
| | | 11月 | | |
| | | 12月 | 学童疎開 | |
| 1944年 | 19 | 1月 | ベルリン空襲 | |
| | | 2月 | | 16歳 |
| | | 3月 | インパール作戦 | |
| | | 4月 | | |
| | | 5月 | | |
| | | 6月 | ノルマンディー上陸 | |
| | | 7月 | サイパン陥落 | 築城航空隊仮入隊→上海海軍航空隊入隊 |
| | | 8月 | 対馬丸撃沈、パリ解放 | |
| | | 9月 | 空襲が激しくなる | |
| | | 10月 | レイテ沖海戦(初特攻) | |
| | | 11月 | 東京初空襲 | |
| | | 12月 | 昭和東南海地震 | |
| 1945年 | 20 | 1月 | アウシュヴィッツ強制収容所解放 | |
| | | 2月 | 硫黄島の戦い・ヤルタ会談 | 17歳 |
| | | 3月 | 沖縄戦開始・東京大空襲 | 青島海軍根拠地隊へ移動 |
| | | 4月 | ヒトラー自殺・初の原爆実験 | |
| | | 5月 | ドイツ降伏 | 海軍二等飛行兵曹に進級 |
| | | 6月 | 沖縄戦終結 | |
| | | 7月 | ポツダム会談 | |
| | | 8月 | 終戦 | 青島海軍根拠地隊で終戦 |
| | | 9月 | 降伏文書調印 | |
| | | 10月 | GHQ設置 | |
| | | 11月 | ニュルンベルク裁判開廷 | 中国青島から佐世保に復員 |
| | | 12月 | | |
| 1946年 | 21 | | 公職追放令、昭和南海地震 | 18歳 |
| 1947年 | 22 | | 日本国憲法施行 | 19歳 |
| 1948年 | 23 | | ベルリン封鎖 | 20歳 |
| 1949年 | 24 | | 湯川秀樹、ノーベル賞受賞 | 21歳 |
| 1950年 | 25 | | 朝鮮戦争 | 22歳、久留米高等専門学校(久留米高専)入学 |

| | | | |
|-------|----|-------------------|---------------------------|
| 1951年 | 26 | サンフランシスコ講和会議 | 23歳 |
| 1952年 | 27 | エリザベス2世即位 | 24歳 |
| 1953年 | 28 | ローマの休日 | 25歳、久留米高専卒業、上山田炭鉱(嘉麻市)に就職 |
| 1954年 | 29 | 洞爺丸台風 | 26歳 |
| 1955年 | 30 | 高度経済成長の始期 | 27歳、曾じいちゃん事故死、炭鉱退職 |
| 1956年 | 31 | 水俣病(公害)発生 | 28歳、福岡市役所就職 |
| 1957年 | 32 | コカ・コーラ発売 | 29歳、お見合い |
| 1958年 | 33 | 東京タワー完成、チキンラーメン発売 | 30歳、結婚、長男義幸誕生 |
| 1959年 | 34 | 伊勢湾台風 | 31歳 |
| 1960年 | 35 | ベトナム戦争開始 | 32歳、次男二郎誕生 |
| 1961年 | 36 | ボストーク1号人類初の有人宇宙飛行 | 33歳 |
| 1962年 | 37 | キューバ危機 | 34歳 |
| 1963年 | 38 | ケネディ大統領暗殺 | 35歳 |
| 1964年 | 39 | 東京オリンピック | 36歳 |
| 1965年 | 40 | 中国文化大革命 | 37歳 |
| 1966年 | 41 | 国際連合に加盟 | 38歳、グッピー(熱帯魚)飼育を始める |
| 1967年 | 42 | 公害対策基本法 | 39歳 |
| 1968年 | 43 | メキシコオリンピック | 40歳 |
| 1969年 | 44 | アポロ11号月面着陸 | 41歳 |
| 1970年 | 45 | 日本万国博覧会(大阪万博)が開催 | 42歳 |
| 1971年 | 46 | 沖縄返還協定調印 | 43歳 |
| 1972年 | 47 | 沖縄返還、ウォーターゲート事件 | 44歳、交通事故で2ヶ月入院、グッピー飼育をやめる |
| 1973年 | 48 | オイルショック | 45歳 |
| 1974年 | 49 | ニクソン米大統領が辞職 | 46歳、 |
| 1975年 | 50 | ベトナム戦争終結、沖縄海洋博 | 47歳、沖縄海洋博出張 |
| 1976年 | 51 | ロッキード事件 | 48歳 |
| 1977年 | 52 | チャールズ・チャップリン死去 | 49歳、オモト(万年青)を始める? |
| 1978年 | 53 | 日中平和友好条約調印 | 50歳 |
| 1979年 | 54 | 第二次オイルショック | 51歳 |
| 1980年 | 55 | モスクワオリンピック開催 | 52歳 |
| 1981年 | 56 | 初のAIDS患者発見 | 53歳 |
| 1982年 | 57 | フォークランド紛争 | 54歳 |
| 1983年 | 58 | 任天堂が初のファミコンを発売 | 55歳 |
| 1984年 | 59 | 日本人の平均寿命が男女世界一に | 56歳 |
| 1985年 | 60 | 日本航空123便墜落事故 | 57歳 |
| 1986年 | 61 | チェルノブイリ原子力発電所事故 | 58歳、自宅建て替え |
| 1987年 | 62 | バブル景気 | 59歳 |
| 1988年 | 63 | 青函トンネルが開業、東京ドーム開場 | 60歳、福岡市を定年退職、肝炎発覚、大濠花壇就職 |

| | | | |
|-------|-----|------------------|----------------------|
| 1989年 | 平成1 | ベルリンの壁崩壊 | 61歳 |
| 1990年 | 2 | ドイツ再統一 | 62歳 |
| 1991年 | 3 | 湾岸戦争、ソビエト連邦崩壊 | 63歳 |
| 1992年 | 4 | 欧州連合(EU)発足 | 64歳 |
| 1993年 | 5 | レインボーブリッジが開通 | 65歳 |
| 1994年 | 6 | 松本サリン事件発生 | 66歳 |
| 1995年 | 7 | 阪神淡路大地震、地下鉄サリン事件 | 67歳 |
| 1996年 | 8 | 原爆ドームが世界遺産に登録 | 68歳 |
| 1997年 | 9 | トヨタ・プリウスが発売 | 69歳 |
| 1998年 | 10 | 長野オリンピック | 70歳、肝臓がん手術(福岡医療センター) |
| 1999年 | 11 | 東海村JCO 臨界事故 | 71歳、愛知県・碧南市の病院に入院、逝去 |

【川島家家系図】



ごあいさつ

夫が亡くなって25年経ちます。

14歳の遊び盛りの年に戦争のために予科練を志願して苦しい時期を過ごした夫には青春という時期はありませんでした。戦後その予科練時代の体験を振り返り、二度と起きてはならない戦争への思いを病をおして書き上げた予科練での日記手記記録、「故郷は夢に」が息子や孫達の手で電子書籍になりました。

すべて自筆で作られた本は散逸して1冊しか残っていません。

夫が過ごした時代の記録を詠んでいただくことで、この世から戦いが少しでもなくなることを願って、夫が苦しい病のもと綴った思いが伝われば家族として嬉しく有難いです。

この書籍は息子・川島義幸、孫のお嫁さんである川島梨花、孫の田中めいの3氏の努力あってこそこの世に再現できました。

3人の努力に心から感謝しています。

2024年12月22日

川島謙二の妻・川島道子

「故郷は夢に」デジタル版について

本誌「故郷は夢に」は著者・川島謙二が戦争中、予科練で禁じられながら密かに綴っていた手帳の日記が基になりました。

手帳の日記を本人が1990年中ごろからワードプロセッサに入力。

さらにプリントアウトした原稿をコピーし自分で製本しました。

しかし個人による手製の拙い製本であったために、時間とともに落丁・分解し散逸しかけていました。

この手製冊子「故郷は夢に」の文章をWordに入力し電子データ化。

そして編集しなおしたものが「故郷は夢に」デジタル版です。

編集にあたっては可能な限り読みやすくするために、オリジナルの「故郷は夢に」が縦書きであったものを横書きに変更、フォント（文字の形式）変更と拡大、写真・年表・地図等を挿入しました。

ただ文章は著者の意向を尊重し、ほとんど変更しておりません。

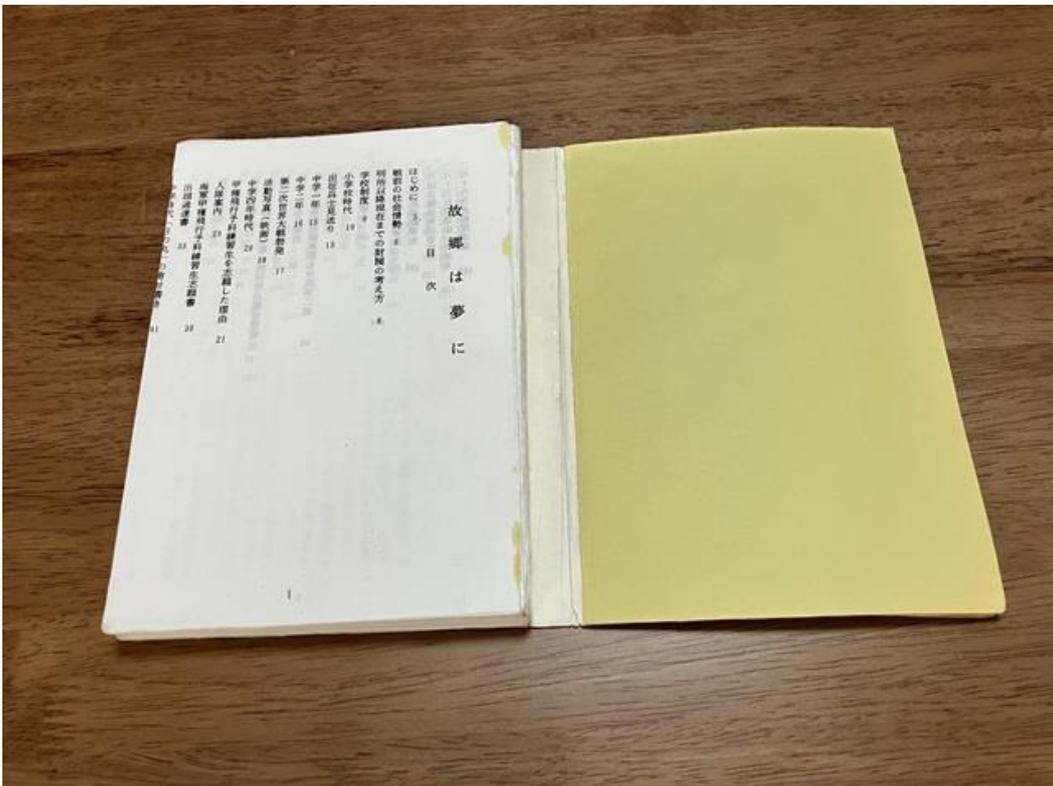
従って表現が適切ではない部分もある事をご理解ください。

なお挿入した画像や図表は全て自作したものか、商用可能な画像素材サイトから引用したもので著作権には抵触しておりません。

それでは「故郷は夢に」デジタル版をご覧ください。

編集責任者・川島義幸

【オリジナルの「故郷は夢に」】



はじめに

私の中学時代を回想したいと思います。

平和で自由な発言のできる現在の感覚では、全く想像もつかない、皆そんなことがあったのかとびっくりされることばかりであったように思うし、中学時代は若き日の悩みが多すぎ、現在では男女関係と思われるでしょうが、そんな事ではなく、戦争のためにどれだけ悩んで過ごしたかということです。

1. 現代の戦争のない社会をどんなにすれば、永久に守っていくことができるかということ、考えていければいいなと思い、皆と話し合い反省し、今後のより良い社会を皆でつくっていくための資料にしたいと思います。

2. 私が[海軍甲種飛行予科練習生](#)として、[鹿児島海軍航空隊](#)に入隊してから五十五年という年月が経過し、軍隊の友達も次第に数が減って行く、きょうこの頃、私の中学時代にどんなことを考えていたか、その時代の背景を通して平和の大切さを伝える語り部として生きることが、大事であると思うようになりました。

3. 昭和十八年時代は、教育及び思想が異なっているため、個人の意志の表現が意のままにならなかった時代であり、皆表現に悩んで真の心は言えない時代で、現代の感覚及び社会の考え方とは全く異なり、想像もつかない時代でした。

4. 海軍飛行予科練習生というと、軍国主義の人と連想されること、また右翼の者と思われること、そんな人がいることも否定できませんが、私はそんな考え方は毛頭ありません。

5. 時代が過ぎるにつれて、思い出も脳裏に刻まれていることも、厳しいもの苦しかったものだけが残り、過去の中にどんどん消え去って行きます。昔、戦争時代こんなことがあったことを、皆に伝えて行かなければ、亡くなった人はもう伝えて行くことができません。

6. 私はあの時代のことを、伝えていく義務みたいなものを感じていましたが、今までゆっくりと考えていて、私が死ぬまでに書けばいいと思っていました。しかし、肝臓ガンと知ったときに、ゆっくりした時間はなくなっていると考え始めました。

7. 後世に伝えるために書かなければならないと、自分では分かっているながら、ノロノロとやって来ていました。友達も徐々に亡くなり、これでは私も伝える事なく終わるかもしれないと考えて、あえて私が覚えていることだけでも書いて置き、後日の資料になれば幸いだと思います。

戦前の社会情勢

中学時代を話す前に、その頃の時代の背景がどんなものだったかを、少しでも知ってもらふ必要があります。少し近代の歴史を振り返ってもらいます。百年前といえば、私のおいさんの時代です。

おいさんは慶応生まれでした。

明治二十七年・二十八年(一八九四年)日清戦争、遼東半島、台湾。

明治三十七年・三十八年(一九〇四年)日露戦争、満州、樺太南半分。

大正三年(一九一四年)第一次世界大戦

昭和三年(一九二八年)福岡市箕子町で生まれる

昭和六年(一九三一年)満州事変

昭和一二年(一九三七年)支那事変

昭和十五年(一九四〇年)西南学院中学部一年

昭和十六年(一九四一年)第二次世界大戦

昭和十八年十月（一九四三年）西南中学部四年

第十三期甲種飛行予科練習生鹿児島海軍航空隊入隊：甲種 13 期生（前期：1943 年（昭和 18 年）10 月 1 日入隊 11,092 名、後期 1943 年 12 月 1 日入隊 19,086 名[8]、合計 30,178 名）

昭和十九年八月（一九四四年）第三十九期甲種飛行練習生上海海軍航空隊入隊

昭和二〇年八月（一九四五年）青島海軍根拠地隊で終戦

昭和二〇年十一月（一九四五年）中国青島から佐世保に復員

【学徒出陣壮行会】



明治以降現在までの財閥の考え方

明治になってから日本の領土を増やすため、次々と戦争を起こし、台湾、樺太、朝鮮、満州等と領土をふやし、地図は本土だけ赤色であったものが、どんどんと赤色が増えていった。これらの国の人は、日本の植民地として属国とされ、すべてのことが不利な扱いを受けたのである。

日本の財閥は、物を多く消費させるためには、日本だけでは一億しか売れないが、中国なら一〇億売れる。物を多く売って多く利益を得ようとする考え方は、今でも全く変わっていない。

日本は中国を支配下にすることが、最終目的であったため、一九三七年支那事変を始めたが、米国、英国等も中国に売り儲けたいので、当然日本と衝突し、戦争となることは分かりきったことであったと思う。

だから米国、英国は中国を支援したのである。米国、英国の財閥と日本の財閥の戦争である。日本は戦争すれば、必ず勝つということを信じさせた。

これに踊らされる国民は、ただお国のため天皇陛下のためにと信じさせられたが、この財閥の在り方はいまでも同じで、軍事的には実力が弱いので、日本が戦争をすることはないが、憲法を変えて軍事力が大きくなると戦争となる可能性は、十分秘められている。

そんなことは考えられないという人もあるかもしれないが、ある人は、現在ある外国が、以前の日本がアメリカを宣戦布告なしに攻撃したように、突然攻めてきたらどうするのだ。それに対応できるようにもっと武装すべきだ。という考え方の人もいる。

入隊前は、男3人兄弟だったので、一人ぐらいは国のために軍人となることが世間では言われ、教師もまた一人ぐらいは軍人にと教えていた。

教科書も占領した国又はその一部は日本と同じ赤色で塗られた地図で、朝鮮、台湾、樺太、満州(現中国)南方の諸島等日本のものとなっていた。

教科書や新聞から、英語は敵国語として消えていった。

明治になって国民は徴兵制度が施行され、すべて小学校は義務教育となったが、これで国民に国の方針だけを教えることになって、昭和になってからは、軍国主義一色に染められて、他の考え方は批判され、軍や警察、憲兵、特高警察等で批判することはできず、自由の言論は全くなくなり、世界の実情や情勢は、一般の人々は全く知ることはなかったのです。

学校制度

【小学校】

尋常小学校（男女別組即ち男子組と女子組）

尋常高等小学校（尋常小学校卒業して二年間）

【中学校】…尋常小学校卒業後受験

尋常高等小学校一年から又二年からでも受験できる。

商業は福岡商業と西南に一組商業組があった。

工業は福岡工業で尋常高等小学校から入っていた。

【高等学校（三年）】…中学校四年卒または五年卒

【大 学（四年）】…高等学校卒

【工業専門学校（三年）】…中学校五年卒

【陸軍士官学校（三年）】…中学校四年卒又は五年卒
卒業後、少尉任官→陸軍大学校

【海軍士官学校（三年）】…中学校四年卒又は五年卒
卒業後、少尉任官→海軍大学校

昭和十七年頃から高等学校二年半、大学三年半と卒業をはやめ、一年間
早く卒業されることになった。

教育勅語（現代かなづかいによる読み方）

朕ちんおも惟たうに我が皇祖皇宗こうえん国を肇はじむること宏遠こうえんに徳を樹たつること深厚しんこうなり

我が臣民よ克よく忠おくちように克いっく孝こに億兆心を一そにして世々な厥この美を濟こせるは此れ我が
国体こくたいの精華せいにして教育えんげんの淵源また亦こ実に此こに存こす

爾なんじ臣民しん父母みんに孝こうに兄弟けいていに友ゆうに夫婦ふうふ相和あいし朋友ほうゆう相信あいじ恭儉きようけん己れおのを持じし博愛はくあい
衆しゆうに及およぼし学がくを修おさむめ業ぎようを習ならい以もつて智能ちのうを啓発けいはつし徳器とくきを成就じようじゆし
進すすんで公益こうえきを広ひろめ世務せいむを開ひらき常つねに国憲こくけんを重おもじ国法こくほうに遵したがい
一旦いったん緩急かんきゆうあれば義勇ぎゆう公こうに奉ほうじ以もつて天壤無窮てんじやうむきゆうの皇運こううんを扶翼ふよくすべし

是かくの如ごときは独ひとり朕ちんが忠良ちゆうりやうの臣民しんたるのみならず又また以もつて爾祖先なんじそせんの遺風いふうを顕彰けんしやうする
に足たらん

斯この道みちは実じつに我が皇祖皇宗こうそこうそうの遺訓いくんにして子孫しそん臣民しんの俱しんに遵守じゆんしゆすべき所ところ之これを
古今ここんに通つうじて謬あやまらず之これを中外ちゆうがいに施ほどして悖もとらず

朕ちん爾なんじ臣民しんと俱ともに拳けん々けん服膺ふくようして咸みな其徳そのとくを一いっにせんことを庶幾こいねがう

明治二十三年十月三十日

ぎよめいぎよじ
御名御璽

小学校時代



一九二八年に生まれ(S三・二・四)小学校は西新尋常小学校であった。

小学校の裏門から出ると、五〇メートルくらいで波打ち際だったので、夏は海水浴は皆はだしで、白い六尺べこをして泳いでいた。

栈橋があり、槽が遠くと近くに二つあった。夏はコの字型の栈橋で花火大会があった。お盆には浜で灯籠流しをし、初盆の所では西方丸の帆を付けた船を沖まで泳いで浮かべ見送りをして浜では花火をならしていた。現在の海岸線より二キロ手前である。

出征兵士見送り

小学校では軍隊が外地に出発するときに、出征兵士を日の丸の小旗をもって見送っていた。昭和十二年(一九三七年)小学校四年、五年のときは陸軍の兵隊さん見送りが何度となく大日本婦人会と書いた白いたすきを斜めに肩からかけた婦人が、日の丸の小旗を打ち振りながら列を作って見送っていたのを覚えている。

今思えば親、兄弟、夫婦の最後の別れとなった人は大勢いただろう。

今の大手門の坂から隊門をでて、兵士が出て行くのを日の丸の小旗をもち、振って見送るのである。万歳万歳の声で、隊列を組んだ兵士がダツダツと軍靴の音を鳴らし、銃をかつぎ、背囊を背負って銃剣を腰につけ、汗臭い土色の服をきて黙って通って行く姿は見ていたが、この人たちが遠く離れた中国、満州等に行き、戦死するかもしれないということを知るはずもなかった。

戦地で死んでしまうかもしれないということは送る小学生には無理だった。

この兵士たちは、「日本陸軍」の歌「天にかわりて不義を討つ」と前列が歌うと後列が「忠勇無双の我が兵は」次は前列が「歡呼の聲に送られて」後列が「今ぞいで立つ父母の国」「勝たずば生きて帰らじと」「誓う心の勇ましさ」と軍歌を歌い汗臭いにおいがただよわせながら進んで行った。

私たち小学生には、勉強なしで歩いて西新から、大手門(下ノ橋)までガヤガヤと話しながら、先生に引率されて行ったことだけしか記憶にないが、何度かあったので行ったという記憶だけが残っている。

中学時代

中学一年

一九四〇年(昭和十五年)西南学院中学に入学した。

私は修猷館を受験したが、不合格だった。この年だけが口頭による試験で筆記試験はなかった。筆記試験であれば、状況は違ったかもしれない。このときが人生の第一の岐路だった。

修猷館に不合格となり、尋常高等小学校にいつて再度修猷館を受けるか、西南中学部に行くか、選択を迫られ、西南中学部に行くことを選んだ。

私は、なんとなく肩身の狭い思いで行っていたが、二、三ヶ月でふつきれて一人で考えて歩けるようになったと思う。

西新尋常小学校も歩いて十分、西南は歩いて七分もあれば十分の距離で友達とも一緒になって学校に行くことは少なかった。

修猷館に落ちたこともあって、自ら黙って数学を小四～小六の問題を全部やりなおした。最終的に中学一年の数学試験結果が一番であったのには、自分が驚いた。皆もあれがトップとは驚きの目でみつめられたが、みんなたいしたことはないなど、それから勉強するのをやめた。一年のとき数学ばかりやったので、生物までまわらなかったの、兄の古い標本をだしたら四〇点だったと思う。最悪だった。来年は生物をやってみようと思った。

中学二年 昭和十六年(一九四一年)

二年のときは夏休み前から、現在の南公園付近をあちこち毎日歩いて昆虫類を集めて回った。珍しいもの、始めて取る昆虫には胸のときめきみたいなものを感じていた。生物は甲で終わった。すべて単独科目を、それ一筋にやればできることだけは確信がついたことが大きかったと思う。絵でも三日間ぐらいで百合の花を書いて出したら、どうやらよかったことを覚えている。

夏休みは、百道の浜に毎日のように泳ぎに行っていた。松林のなかに着替えをおいて取られたことがあった。貝がバケツ一杯取れたこともあった。

中学2年のころだったと思うが、修猷館の現在もある東側の正門が、現在の南側の正門に変更された。日・独・伊の三国協定でドイツの[ヒットラーユーゲント](#)が表敬訪問したため、そのときに新しく南側に作られたのである。ドイツの卍の旗と日本国旗の小旗を振って出迎えたものである。ヒットラーユーゲントはトラック?に乗って右手を斜めに挙げて敬礼の姿勢を取り、修猷館の中に入って行ったので、その右手を挙げた姿が物凄く訓練されているように見えた。彼らも二〇才そこそこの若者だったに違いないが、どこかの戦線で散って行ったであろう。

第二次世界大戦勃発

昭和十六年十二月八日全学年礼拝堂に集められ、日米開戦の詔書を校長が伝え万歳をした。

第二次世界大戦が勃発して以来社会情勢は急変した。

1. 英語は廃止、ほとんどの外人は日本から出国し、本国に帰った。西南でもアメリカ人教師はアメリカに帰った。私は外人から教わることは楽しく思っていた。
2. 憲兵、特高警察がすべての言論の自由を奪い、言動不審者をスパイとして連行し、また民間人の告発をとりあげた。
3. 教護連盟の先生たちは、どこの学校の生徒でも非行とみれば、容赦なく検挙した。
4. 革靴(豚革)をはいてゲートルを巻いて、靴は踵に半円に小さな鉄をうって擦り減らないようにしていた。登下校のときは、二人以上はそのうちの一人が引率し、指揮者となり、もし教師に会うと「歩調をとれ、かしら右(左)」の号令をかけて教師は挙手の礼をし、皆は列を組んで校門に入り、校門をはいると奉安殿(御真影)前で「歩調をとれ」「とまれ」「奉安殿に敬礼」「なおれ」最敬礼をして「わかれ」でそれぞれの教室にはいった。

5. 元旦、[紀元節](#)、[天長節](#)等には[教育勅語](#)を校長が読んでいた。小学校のころは紅白の饅頭をもらっていたこともある。

6. 隣組で緊密な話し合いが進んだ。学生は電車のなかで座ることは考えられなかった。女性の横に座ることもできなかった時代だった。



活動写真(映画)

1. 中学生は映画館には父兄同伴でなければはいれなかった。
2. 映画の前にはニュースがあり、はじめにおきまりの音楽が流れて、朝日ニュースと朝日の絵がでたら、次の場面は右側上に「脱帽」と写され、みんな帽子を脱ぐのが、シキタリだった。つづいて必ず「天皇陛下におかせられましてはどどこに行幸遊ばされ……」とでて神妙に見たものだった。
3. 友達と映画館にはいるときは帽子を脱いで、チケットを買うのも時間が長く感じた。教護連盟に見つかる厳しい処分が待っているからである。処分がない親と同行の映画よりもやはり「丹下左膳」というようなものがみたくて、姪浜の劇場に行つて、帽子は脱いでチケットをつかみ取るようにして走つて中に入り、中に入れば暗くてわからないから一安心である。最前列の右側に弁士が立っていて画面にあわせて、弁士が声色をかえ説明し、映画の言葉のやりとりをしていた。
4. 制裁 西南では、帽子の徽章のバネをたおして徽章が見えなかった、カバンの蓋する部分を長くした、帽子にワセリンをぬった、靴をはいていなかった、電車の中で座っていた、女生徒と話した等々の理由で、上級生の制裁は日常茶飯事のようにあつていた。

5. 絶対服従 修身で天皇制だけを教え、天皇は崇高で神であるという事で、上官の命令は、天皇陛下の命令として、ただ服従をしいられ、批判、反対、不服の説明は全くすることはできなかった。祝日には教育勅語が読まれ、校長が白い手袋をはめておごそかに白木の箱を開いて「我が皇祖皇宗国を肇むること宏遠なり。……」と読むのである。いつも終わるのが待ちどおしかった。

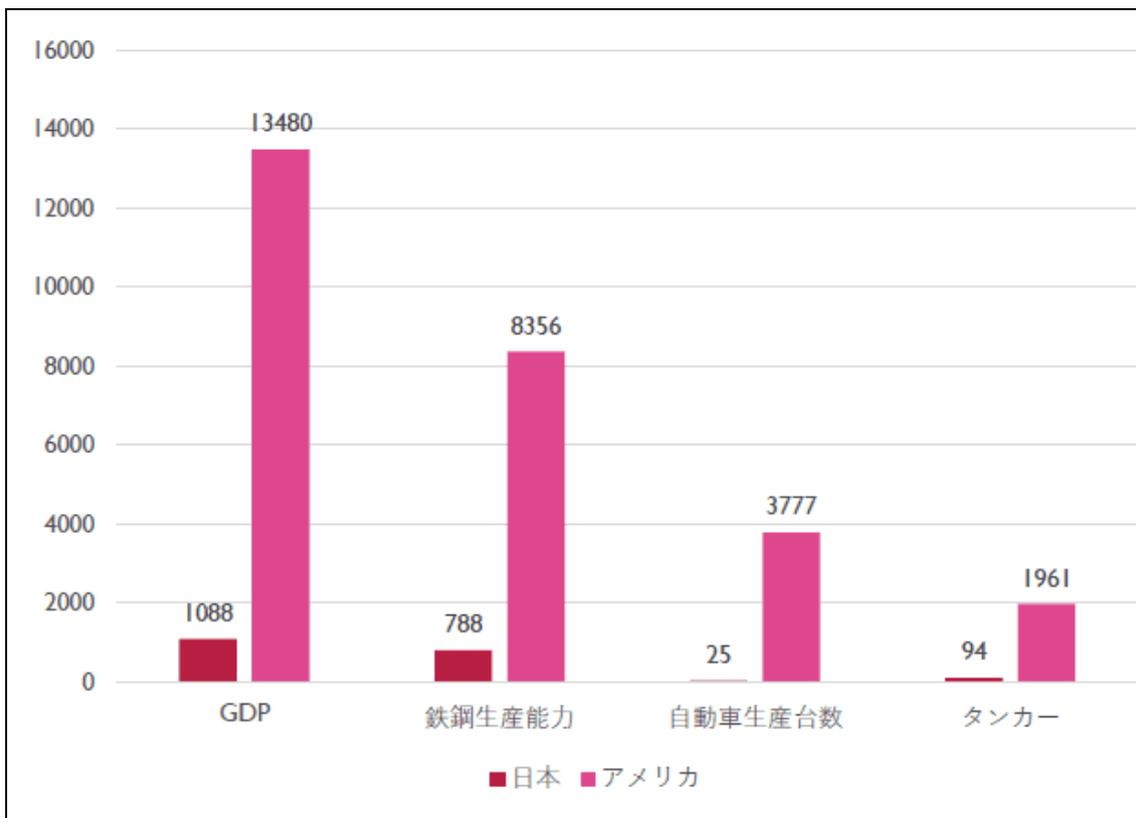
6. 市電 乗り物は、一般人は市電か自転車で、市電は運転手と車掌が前と後に乗っていて、車掌が切符を売り、鋏で切符に穴を一枚ずつあけていた。西新では折り返しのため、車掌が電車から降りてポールを引っ張って電線からはずし、反対方向の電車に入れ替えていた。

7. 軍国主義 軍国主義一色に染められたなかで、憲兵、特高警察が多く、学生に対しては教護連盟のものが随所に見張っていた。自分の意志を発言できない厳しい軍隊であり、国民すべてが見張られていた時代である。 民主的なことは国賊とされ、戦争批判は憲兵にあげられ、すべて国のため天皇陛下のためと、親も、先生も、新聞、ラジオも全部が軍国主義に包まれていたし、子供のときからそう信じざるを得ないような教育になっていたので、民主的に批判することなんか考えた事もなかった。 国全体がその中にいるので批判する資料もないし、国のためにすること、天皇陛下万歳で死ぬこと、これが日本国民の使命で最上のことになっていた。国民は、すべて天皇陛下のために命をなげうって、国のために尽さなければならないことを親も、先生も、新聞、ラジオもいので子供はそれ以外のことを知ろうにも知る術がなかったのである。 小学校のときから毎日毎日聞かされると、真実だと

するのは無理もないことである。よくもまあ徹底させてものと感じる。

8. 私はこのようにして金儲けだけに走る財界の人を非難したい。今でもこの思想は全く変わっていない。商売人は物を売って儲かる。財閥はどんなにして金を集めるか。どんなに作っても消費しなければ儲からない。そこで最も消費が激しく、作れば儲かるのが戦争をさせることとなる。人間が死んでも物を消費さえさせればそれでよいのである。商売人は儲けることだけしか頭に無いのである。

【1941年日米国力比較】



中学四年時代

帽子の徽章もWSのものから、松の三つ葉に中がはいった模様に替えられた戦闘帽となり、洋服も麻でごろごろしたようなものとなり、ボタンも陶器にかわった。鉄の提出がされていた。革靴も豚革お粗末ですぐ破れていた。

私は正課では柔道をし、部では射撃部に入っていた。スズメを撃って頭が飛んだことを覚えている。

どんなことがあったか知らないが、校庭に雪の降って寒い日に革靴はいてゲートルまいて、正座させられたことがある。

十二里行軍が一年一回あった。靴がボロイので足のまめがつぶれて痛かった。夜七時から西南をでて大宰府で休憩時間寒くて震えていた。朝七時ごろ学校に帰ってくるのであるが、着いた時は意識はもうろうとしていた。

甲種飛行予科練習生を志願した理由

甲種飛行予科練習生の制度は、昭和十二年(一九三七年)に設けているが、この年は支那事変が始まったときである。

戦前は殆ど甲、乙、丙、丁、戊で成績等は示されていた。甲種合格、乙種合格等の言い方であった。

甲種飛行予科練習生は中学四年、乙種飛行予科練習生は中学二年、丙種は一般水兵、からだつたと記憶している。

【甲種飛行予科練習生を志願した理由】

1. 一家で兄弟がいるところでは、一人は軍人ということが、言われていた時代である。3人兄弟で俺がなってやろう。という意志がはたらいた。
2. 国のため、国を守るためにという気構えはあったものの、予科練が死ぬこととは考えていなかった。甘い考えだったと思う。
3. 先輩が甲種飛行予科練習生にいて、七つボタンを着て休暇で帰り宣伝したこともあった。
4. 海軍の制裁について全く知らなかった。
5. 海軍兵学校に行く実力はない事を知っていた。修猷館で一、二番のものがいける位だったので、自分ではこんなものが、いいところだろうと思っていた。
6. 戦時中で周囲の状況は、兵隊に行くのは当たり前のこととなっていた。
7. 徴兵制度でやむを得ずいきたくなかった。
8. いろいろな状況から志願する心が強く芽生えてきたが、死を覚悟してはいなかった。国のためにとっても、直ちに戦死するというようなことは全く考えていなかった。海軍省から甲種飛行予科練習生案内(昭和十八年十月一日入隊)のチラシを

教室で配布された。これを読んでいろいろと自分なりに考えて自分で決断をし、志願してもすぐに死ぬとは考えなかった。合格するかしないかもわからないし、直ちに戦争に参加するというのではなく、いつかはそんな日が来るだろうが、遠い先のことに考えてどうせ行くなら、海軍の飛行機に乗れる軍隊に行くかと、今思うと甘い甘い考えで、志願書に自分で判をつき提出したように思う。以下入隊案内から入隊までの資料である。

入隊案内

昭和十八年十月一日入隊

甲種飛行豫科練習生案内

海軍省

一、甲種飛行豫科練習生の使命

現代の戦争に航空機が如何に重要な役割を果たしつつあるか、そして航空兵力の強弱が如何に戦闘に影響しているかは、今更説明の要はあるまい。

航空戦に敗れ制空権を失った艦隊はもはや殆ど勝目はない。

制空権の獲得こそ勝利の一大要件である。これが為には航空兵力の強化を必要とすることは申す迄もない。世界各国が航空兵力の強化擴充に全力を注いでい

るのもこれが為である。

航空兵力を強化するには優秀なる器材を多量に生産することも素より肝要であるが更に重要なることは優秀な人員を養成することである。

一物も遮るものなき渺茫たる大洋のさ中を風に流され、雲を分け、空を衝いて所要の時機、所要の地点に到達し而も店瞬の間に決せらるる決戦場裡に於いて戦略的に、戦術的に重大なる任務に課せらるる航空部隊の人員が精神的にも体力的にも将又智的にも優秀なるものを要求せらるるには当然である。

此の要求に應ぜんが為帝国海軍は昭和4年飛行予科練習生(少年航空兵)と云う獨特の制度を新設し優秀なる海鷲の養成に精進してきたのであるが昭和12年東亜の風雲急を告げ航空兵力の擴充を愈必要とするに至ったので更に多数優秀なる航空幹部を急速養成する為甲種飛行豫科練習生の制度を設け之に特別の教育と猛訓練を施して来たのである。

果たせる哉大東亜戦争劈頭ハワイ空襲、馬來沖海戦に赫々たる大戦果を挙げ、全世界を震駭せしめたのを始めとし、爾来広漠たる全戦線に亘り空襲攻撃に勇猛なる空中戦士として皇国の運命を双肩に擔ひ活躍しているのである。

今や大東亜戦争は、決戦段階に到達し帝国海軍の責務は愈重大となり特に海軍航空部隊の活躍には全国民が非常なる期待をかけているのである。されば愛国の熱血燃ゆる全国の青少年学徒は奮って本練習生を志願し光輝ある帝国海軍航空部隊の一員として奉公の誠を効さんことを希望する次第である。

二、教育

甲種飛行豫科練習生は先ず指定の海軍練習航空隊に入隊する。

航空隊に於ける教育は二年半にてするのであるが、初めの一年半は航空搭乗員として任務を遂行する必要なる基礎を作るのが目的で、主として軍人精神の鍛練と一般軍事學とを教授し、後の一年は愈々主眼とする航空幹部を目標にこれに必要な操縦術、偵察術等の技能と航空術に関する高等の學術を併せて教授するのである。

而して後期の教程に於ては本人の適性其の他の事項を考慮し操縦、偵察に分けて専修せしめ操縦は主として飛行機の操縦に関する學術技能を、偵察は主として偵察、爆撃、射撃、電撃及通信に関する學術技能を教授する。

三、進路

入隊すると二等飛行兵を命ぜられるのであるが、六箇月後には既に飛行兵長に進み、後期の教程中二等飛行兵曹に任ぜられ同教程卒業後愈々艦隊所屬の艦船又は[海軍航空隊](#)に於て實地勤務に服したる後、累進して上等飛行兵曹となり更に練習航空隊選修學生として約一箇年間航空術に関する一層高等の學術技能を修得し本教程終了後間も無く飛行兵曹長(准士官)に進級する。

此の間入隊後僅々五年半(戦時中は之を約二年短縮す)といふ短年月にして更に進んで多くは概ね二十五歳前後には少尉に任官し爾後累進して佐官に進む洋々たる前途を有するのである。

四、志願案内

(一) 志願者の年齢

入隊の年の十二月一日現在にて満十五歳以上二十歳未満の者

即ち昭和十八年(十八年十月入隊)に志願出来る者は

自大正十二年十二月三日

至昭和三年十二月二日 出生の者である。

(二) 志願の手續

甲種飛行豫科練習生の募集、志願書の提出期日、検査日割、検査所等は右募集があつたら、親権者の同意を得た上で志願書(様式は裏面にあり)を作り期日迄に遅れぬ様に市(区)役所又は町村役場を経て地方長官に出願するのである。(詳細に就ては市(区)役所又は町村役場に問合わすこと)

尚不審の事があれば何でも、最寄の海軍人事部(横須賀市、呉市、佐世保市、東舞鶴市)又は地方海軍人事部(札幌市、青森市、秋田市、仙台市、長野市、宇都宮市、静岡市、名古屋市、新潟市、津市、大阪市、神戸市、金沢市、高松市、高知市、松江市、福岡市、熊本市及鹿児島市にある)に問い合わせば解る。

(三) 検査の時期及方法

検査は第一次検査と第二次検査とがある。

第一次検査は昭和十八年八月上旬各府縣の一、二の主要都市で行ふ

第二次検査は第一次検査適任者の中から選抜し昭和十八年九月上旬鎮守府所定の海軍航空隊に召集して行ひ採用者を決定するのである

(四) 検査の項目

(イ) 第一次検査

(1) 身体検査

検査は1日で終了する。身体検査の規格は左表の通り

| 視力 | 握力左右各 | 肺活量(立) | 胸部拡張 | 胸囲(糎) | 體重(斤) | 身長(糎) | 齡 | |
|-----|-------|--------|------|-------|-------|-------|-------|--|
| | | | | | | | 年 | |
| 各視力 | 二八 | 三〇〇〇 | 六 | 七九 | 四九 | 一五七 | 十八年以上 | |
| | 二六 | 三〇〇〇 | 五・五 | 七八 | 四七 | 一五六 | 十八年未満 | |
| | 二四 | 二八〇〇 | 五・五 | 七七 | 四五 | 一五四 | 十七年未満 | |
| | 二二 | 二六〇〇 | 五・五 | 七四 | 四一 | 一五一 | 十六年未満 | |

| | | | | | | | | |
|--|----|------|---|----|----|-----|-------|--|
| | 二〇 | 二五〇〇 | 五 | 七一 | 三八 | 一四七 | 十五年未満 | |
|--|----|------|---|----|----|-----|-------|--|

〔註〕

此の外に懸垂がある、懸垂とは吊るされた繩に片手でつかまって五秒間自分の體を吊りさげるのであつて左右各五秒間宛耐えなければならぬ。

(2) 學力試験及口頭試問

學力試験は八月六日、七日両日中学校第3學年終了程度を標準として左の科目に就き實施競られるのであるが、學歷の制限はない。

數學（代數、平面幾何）、英語（英文和譯、和文英譯）、國漢文（國語、漢文）物象（物理、無機化學）、地理歴史（日本及外國地理、日本歴史）

試験の成績が著しく不良なときは爾後の受験を停止する。

答案は鉛筆で書いて差支えない。

試験順序

第一日 數學、物象、國漢文

第二日 英語、地理歴史

(3) 検査の携帶品

志願者は國民学校初等科六年以上の通信簿、青年學校手帳、中等學校

学籍簿若は之に準ずるもの又は學業に關する言登書等を携帶すること。
尚鉛筆、ナイフ、消ゴム、辨當、風呂敷等を携帶することは云ふ迄もない。

(4) 志願者の旅費

志願者の為の旅費は現住地の市（區）町村に於て徴兵旅費を支給せらるるのである。

(ロ) 第二次検査

第一次検査に於て身體検査及學力試験に合格した者の中より選抜して鎮守府所定の海軍航空隊に集め身體検査、適性検査及口頭試問を実施せられる右受験者に對しては鎮守府から府縣廳を経て本人に通知がある。而して此の検査の結果鎮守府に於て所要の採用者を決定するのである。

検査期間中は航空隊内に宿泊して兵食を給與せられ又出頭及歸郷に要する旅費は現在地の市（區）町村に於て徴兵旅費を支給せらるるのである。

参 考 事 項

一、海軍用飛行機の種類に就て

海軍の飛行機の主なる種類は

(1) 戦闘機 (2) 偵察機 (3) 攻撃機 (4) 軽爆機 (5) 飛行艇

尚海軍用飛行機は浮舟の附いている水上機のみと考へて居る人があるやうであるが、決してさうではないのであつて、車輪の附いた艦上機は航空母艦の甲板に於ても亦陸上飛行場に於ても發著自在のものであつて陸軍用飛行機と何等異つた所はない。要するに海軍は水上機、陸上機兩方を使用して居るのである。

二、官職階

海軍少尉以上の官名は海軍兵學校及海軍機關學校生徒卒業者と同様である。

尚前記進路の項参照のこと。

三、服制

今度服制が改正せられて今迄の水平服と異なり詰襟セツ釦となり軍帽も下士官のやうになり愈々飛行兵の待遇は改善されどある。その服装は左圖の通りである。

四、給與

採用されると其の教育費は一切官費であるは勿論爾後昇進するに従い俸給、航空加俸、食料等を支給せらる、尚下士官兵中は衣服、糧食も特別のものを官給せられ又別に特別加俸及手當等がある。

【海軍飛行隊の階級】

| | |
|------------|-----------------|
| <p>準士官</p> | <p>海軍飛行兵曹長</p> |
| <p>下士官</p> | <p>海軍上等飛行兵曹</p> |
| | <p>海軍一等飛行兵曹</p> |
| | <p>海軍二等飛行兵曹</p> |
| | <p>海軍飛行兵長</p> |
| <p>兵</p> | <p>海軍上等飛行兵</p> |
| | <p>海軍一等飛行兵</p> |
| | <p>海軍二等飛行兵</p> |

海軍甲種飛行豫科練習生志願書等

【海軍甲種飛行豫科練習生志願書】

本籍地 府（縣） 郡（市） 町（村） 番地
現居住地 府（縣） 郡（市） 町（村） 番地（何
某方）

戸主トノ續柄

氏 名(振假名ヲ附ス)

年 月 日 生

一 修學程度

(何立何中學校第何學年在學中若ハ終了又ハ國民學校高等科修了)

一 現職業

一 現居住地ニ移轉年月 年 月（志願書提出前六月以内ニ移轉シタル者ニ就キ記入ス）

右甲種飛行豫科練習生ヲ志願致度此段出願候也

昭和 年 月 日

本人 氏 名 印

現住地 府(縣) 郡(市) 町(村) 番地

親權者又ハ後見人 氏 名 印

何府(縣)知事殿

(東東1)大日本印刷株式会社

昭和十八年八月七日付で志願兵徴募通知が来ている。

【第三海軍志願兵徴募區】

現居住地 福岡縣福岡市西新町 四八二ノ一

川島謙二

右昭和十八年後期甲種飛行兵ニ適スニ付本證書ヲ付與ス

昭和十八年八月七日

佐世保鎮守府海軍志願兵徴募官 海軍大佐 東郷

(裏書)

心得

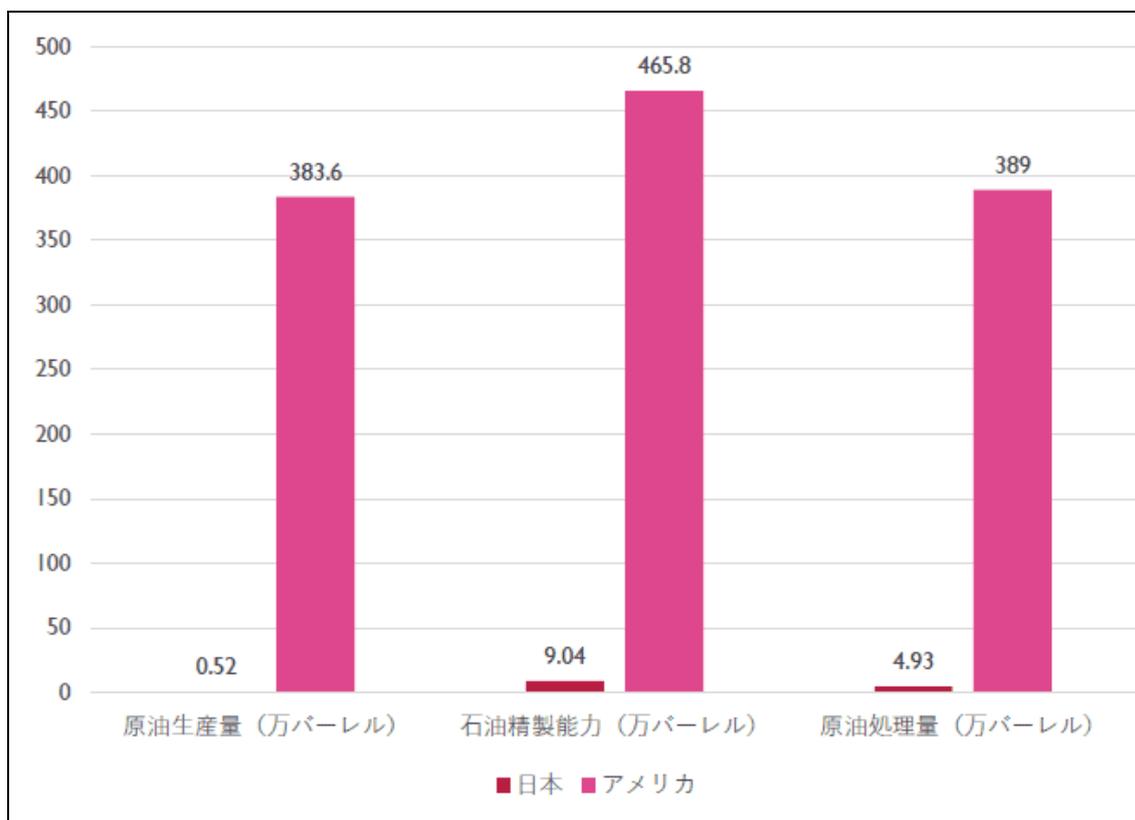
- 一、本證書ハ甲種飛行兵ヲ志願シ身體検査及學力試験ヲ受ケ甲種飛行兵ニ適スト認メタル者ニ之ヲ付與ス
- 二、本證書ノ有効期間ハ昭和十 年 月 日迄トス
- 三、本證書ヲ受ケタル者ト雖モ豫定人員ヲ超過シタルトキハ採用セザルコトアルベシ故ニ此ノ證書ヲ受ケタルノミニテ早計ニ自己ノ職業ヲ放擲スル様ノコトアルベカラズ

四、本證書ハ入隊ノ際採用證書ト共ニ之ヲ携帯スベシ

五、本證書ヲ受ケタル者ニ對シテハ選抜ノ上更ニ第二次検査ヲ施行ス各自攝生ヲ重ンジ操行ヲ慎ミ健康ヲ保ツコトニ注意シ且學カノ向上ヲ期スベシ

六、本證書ヲ紛失又ハ毀損シタルトキハ市町村長ヲ經テ更ニ下渡ヲ海軍人事部長ニ請求スベシ

【1941年石油日米比較】



【出頭通達書】

現住所福岡縣福岡市西新町四八二ノ一

川島謙二

- 一、 参著場所 佐世保海軍航空隊
- 二、 参著日時 昭和十八年八月二十九日午前八時
- 三、 検査期間 自昭和十八年八月二十九日
至同 十八年九月 二日 五日間

右ニ依リ甲種飛行兵ノ第二次検査ヲ行フニ付 出頭スベシ

昭和十八年八月二十日

佐世保鎮守府

(裏面)

受検者心得

- 一、 本書ハ甲種飛行豫科練習生合格者中第二次検査ヲ施行スベキ者ニ付與ス
- 二、 受検者ハ昭和十八年八月二十九日午前八時迄ニ佐世保海軍航空隊ニ参着スルモトス(八月二十八日自午前八時至午後六時佐世保驛ニ案内人「左腕ニ赤布ヲ纏フ」派遣シアリ)

- 三、検査ハ昭和十八年八月二十九日ヨリ五日間佐世保海軍航空隊ニ於テ行フ
- 四、検査項目ハ身體検査、適性検査、口頭試問ノ三種トス
- 五、本検査ノ結果ニ依リ更ニ詮衝ノ上採用ヲ決定スルニ付検査終了後全部一旦歸郷セシム
- 六、出頭、歸郷ニ要スル旅費ハ徴兵旅費支辨ニ付出發前市町村役場ヨリ受領スルコト
- 七、検査期間中ハ航空隊ニ宿泊セシメ糧食ヲ給ス
- 八、病氣其ノ他ノ事故ノ爲出頭シ難キトキハ醫師診斷書又ハ市町村長證明書ヲ添へ速ニ佐世保海軍人事部長ニ通知スベシ(出頭期日切迫セル場合ハ電報)
- 九、出頭ノ際は本通達書、合格證書(身體検査ノ分共)認印、鉛筆、小刀、消ゴム等ヲ携行スルコト
- 十、出頭時ノ服装ハ成ルベク各自ノ學校制服ヲ着用スルコト
- 十一、本通達書ヲ忘失又ハ毀損シタルトキハ市町村長ヲ經テ再交付ヲ佐世保海軍人事部長ニ請求スベシ

【第三志願兵徵募區】

現住所 福岡縣福岡市西新町四八二ノ一七一五

川島謙二

右海軍飛行兵(甲種飛行兵)ニ採用徵募ス

昭和十八年九月三十日 [鹿児島海軍航空隊](#)ニ入隊スベシ

心得

- 一、此の証書ハ海軍志願者中採用スベキモノニ付與ス
- 二、此ノ証書ハ入團(入隊)トキ携帯スベシ
- 三、採用入團(入隊)ト達示アルモ傷痍、疾病、犯罪其ノ他ノ事故ニ依リ入團(入隊)シ難キトキハ本人若ハ家族ヨリ市町村長ヲ經テ鎮守府司令官ニ願出ベシ
- 四、入團(入隊)ニ際シ父母ノ疾病、危篤又ハ死亡ノ爲入團(入隊)延期ヲ願ハントスルモノハ市町村長ノ奥書証印ヲ受ケタル書面(父母ノ疾病、危篤ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添へ)ヲ以テ鎮守府司令長官願出ベシ
- 五、此ノ証書ヲ失イ又ハ損傷シタルトキハ市町村長ヲ經テ更ニ下渡ヲ佐世保海軍人事部長ニ請求スベシ

注意事項

- 一、暴飲暴食ヲ慎ミ必ズ入浴スルコト
- 二、特ニ用事アル者以外ノ外出ヲ禁ズ
- 三、十分睡眠シテ旅ノ疲勞ヲ去リ置ケ（之ガ為午後九時迄ニハ必ズ就寝セヨ）
- 四、身體ニ異状アル者ハ直ニ宿舎係ニ申出ヨ
- 五、隊内ニ於ケル必需品ハ總テ準備シアルヲ以テ餘分ノ物ハ買ハザルコト
- 六、鹿児島市宿泊者ハ明朝六時ヨリ七時迄ノ間市電（天文館通及高見馬場停留所發）ヲ利用郡元停留所ニ下車シ七時半迄ニ絶対遅刻セザル様入隊スルコト

(表書)

第三志願兵徵募區

現居住地福岡縣福岡市西新町四八二ノ一

七一五

川島謙二

右海軍飛行兵(甲種飛行兵)ニ採用徵募ス

昭和十八年九月三十日鹿兒島海軍航空隊ニ入隊スヘシ

昭和十八年九月二十日

佐世保鎮守府

(裏書)

心得

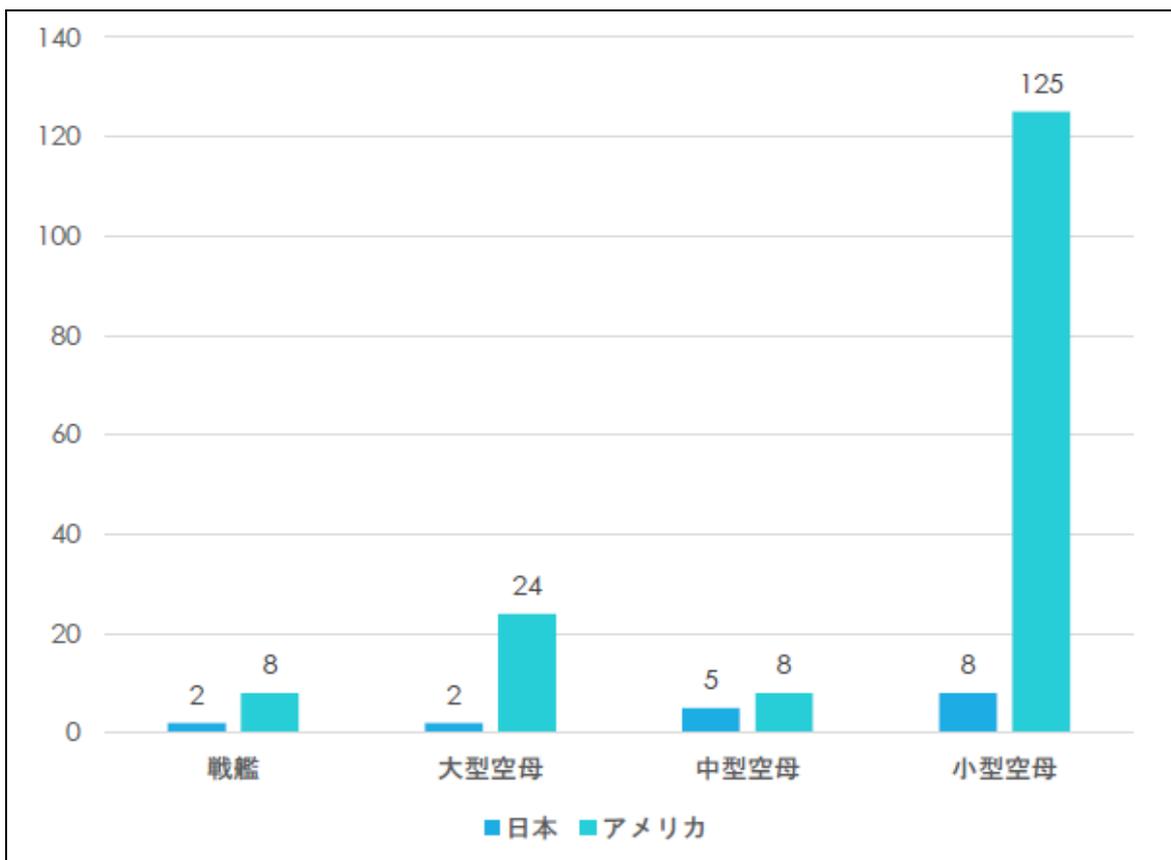
- 一、此の証書ハ海軍志願者中採用スベキモノニ付與ス
- 二、此ノ証書ハ入團(入隊)ノトキ携帯スベシ
- 三、採用入團(入隊)ト達示アルモ傷痍、疾病、犯罪其ノ他ノ事故ニ依リ入團(入隊)シ難キトキハ本人若ハ家族ヨリ市町村長ヲ經テ鎮守府司令官ニ願出ベシ
- 四、入團(入隊)ニ際シ父母ノ疾病、危篤又ハ死亡ノ爲入團(入隊)延期ヲ願ハントスルモノハ市町村長ノ奥書証印ヲ受ケタル書面(父母ノ疾病、危篤ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ)ヲ以テ鎮守府司令官願出ベシ
- 五、此ノ証書ヲ失イ又ハ損傷シタルトキハ市町村長ヲ經テ更ニ下渡ヲ佐世保海軍人事部長ニ請求スベシ

| 注 意 事 項 | 佐 | 鎮 |
|--|------------------|--------------------|
| <p>一、暴飲暴食ヲ慎ミ必ず入浴スルコト</p> <p>二、特ニ用事アル者以外ノ外出ヲ禁ズ</p> <p>三、十分睡眠シテ旅ノ疲勞ヲ去リ置ケ（之ガ為午後九時迄ニハ必ず就寝</p> <p>セヨ）</p> <p>四、身體ニ異状アル者ハ直ニ宿舍係ニ申出ヨ</p> <p>五、隊内ニ於ケル必要品ハ總テ準備シアルヲ以テ餘分ノ物ハ買ハザルコト</p> <p>六、鹿兒島市宿泊者ハ明朝六時ヨリ七時迄ノ間市電（天文館</p> | 福 | 府 |
| | 二 | 別 |
| | 四七 | 分 |
| | 飛 志 | 兵籍 番 |
| | 川 島 謙 二 | 氏 名 |

西新町三丁目四八二ノ一
川島義雄殿方
川島謙二殿
福岡市役所
福岡市因幡町五番地

福岡市役所社寺兵事科

【開戦後建造した大型艦艇比較】



大型空母 3 万トン以上・中型空母 1.5～2 万トン・小型空母 1 万トン

福岡市長 畑山四男美殿

甲種飛行予科練習生入隊者集合日時及宿舎等其ノ他ノ関スル件

一、九月二十八日(二十時十分博多驛發下り鹿兒島列車)ニ乗ルニ付キ同日、十八時三十分、同十九時三十分迄ニ驛前梅屋旅館(電話六〇一番)ニ立寄り採用証書及ビ此状ヲ差出シ市引卒吏ヨリ旅費ヲ受領スルコト。

二、乗車券ハ博多驛ヨリ鹿兒島驛迄購入ノコト(購入ノ際ハ入隊 客運賃割引証ニ區間、年齢、及氏名ヲ記入シ置クコト)採用 ト共ニ差出スコト。

三、鹿兒島驛下車ノ上ハ海軍ヨリ、案内係(左腕ニ赤布ヲ纏)派遣シアルニ付其ノ指示ヲ受ケルコト。

四、宿舎鹿兒島市山下町、千歳旅館(電話四〇二、三一〇一番)

入隊者一泊ニ食付、引卒吏員一泊ニ食付、料金未定。

五、入隊日時 昭和十八年九月三十日午前八時

入隊場所 鹿兒島海軍航空隊

六、飯米統制ニ依リ旅行途中ニ於ケル食事困難ニ付キ成ベク弁当御持参ノ事。

七、尚、附添人ハ引卒官公吏ノミシ一般附添ハザルコト。

此の書類のとおり入隊は昭和十八年九月三十日午前八時鹿児島海軍航空隊にしたのである。

入隊後直ちに作業服に着替えて着ていたものを叔父に渡したことは、父から兄への葉書で次のように記してある。

十

月三日午後八時半香月五郎氏(鹿児島市武町鉄道官舎三の一)(叔父)が私の衣服其の他一切の荷物をもって来られた。非常に元気で三〇日朝直ちに白服に着替えました。

一カ月位は面会できません。食事は一日六合で間食もあります。金銭及時計は鹿児島市鴨池海軍航空隊第四十七分隊第二班に一時預りとなりました。

満州国牡丹江省東寧縣大肚子川満州第七六三部隊川崎隊の香月大助氏(叔父の弟)より十月四日手紙が来て帝大入学の喜びを非常に嬉しく書いてありました。

誠一殿 十月六日 川島義雄

予科練日記

甲種飛行予科練習生第十三期鹿児島海軍航空隊における私は、弱い弱い人間であったし、その弱さを忘れるために日記をつけていたので、以前から私の苦い苦しい嫌な思い出として、心には常にあったが、平和の考えにいくらかでも寄与することができるならばと、数カ月の思いを記すことにしたのです。平和の語り部として、少しでも戦争時代の精神的自由がなく苦しかったことを、若き人が知っていただけたら幸甚に思います。

過去は反省するためにあり

未来は希望を達成するためにある

と思います。この原稿はいつの日か、本のような形で残して行こうと思いつきながら、ずるずると日が過ぎて入隊から五五年を経過しました。

日記について

軍隊においては、日記をつけることは、禁止されていたので、日記をつけていた人は少ないのではないかと思います。

軍機保護法

日記の手帳に日記の禁止理由を示された[軍機保護法](#)の一部を書いているので記します。

「以上は軍機保護法の大要なるも、機密を知れるものが漏洩せざるにあり。故意に外国に漏洩するが如き者はもとより許すべからざる売国奴的行為なりと雖も、元来日本人は非常に淡泊正直なるため、他人を警戒する性質に乏しく、それがため不知不識の間に軍機密その他国家の大事を漏洩することありと言いはるる。

例えば汽車電車その他何者か判らぬ公衆の前で機密事項を友人同士互いに大声で話し合い漏洩することあり。又見学者を案内したる際の不用意に機密事項を話すことあり。

一般の人にとり極めて些少のことにて何でもなきようなことでも、専門家の目より見れば極めて貴重な資となることあり。故に機密を知ること、軍人は機密保持に関して充分の注意と努力払はざるべけれ。」

このような軍機保護法を守らずして日記をつけていたということは、その当時に見つかれば当然みせしめの物凄い陰惨な制裁を受けたうえで、厳罰に処せられたと思います。

日記としては日程表のようなものでしかありませんが、それでも当時の内容を思い出として残すには充分かと思っています。同年兵の人達もいろいろ付記することがあるかと思いますが、それは今後この記を機会に発展させていけばよいかと考えてつたない文章で作成しましたので、悪しからずお願いします。

朝くつきりと浮かぶ煙たなびく桜島を見て

煙噴く櫻島山眺めれば、はるかに想う我が(ワレガ)故郷

甲種飛行予科練習生として過ごした時代を、年齢十五歳の文才なき一少年が、夜こっそりと寝具にもぐりこんで、コソコソと書いた日記である。

小さい手帳に小さな字でかいたものを、ルーペで拡大して判断して写し取ったもので、戦争の一時代をどんな姿、どんな考え方で歩いたかの経験が再び思い出され、平和の大切さがわかると思います。

日記を付けたのは、明日への心構えが、日記を付けることによって、弱い自分の心は自分で励ますためのものであって、機密漏洩のことなどいつか忘れていた。また機密漏洩につながろうとは、考えられなかったのである。

入隊後一カ月、皆に制裁があってから手帳に付け始めたのは、制裁による苦しさから逃れるため、あったことはいがめない。とにかく軍隊では弱い弱い私だった。戦後予備学生の方々に日記をつけられて居られることを知り、私も安心したような気持ちになったのでした。

今は亡き人に捧げる

昭和十八年九月三〇日(広島、岡山県は十月一日)に第十三期甲種飛行予科練習生として、鹿児島海軍航空隊に入隊したが、あの日からもう五五年という長い月日が、あっという間に過ぎ、十五～十八歳の若人の時代の嫌なこと、苦し

かったこと、楽しかったこと、嬉しかったこと等を今でもしっかりと思い出として抱き続けています。

しかし五五年以上たった今日では再会できぬ人は、年を追うごとに多くなって行くでしょう。既に亡くなられた友や、教員の方たちの、ご冥福を心からお祈り致します。

現在「予科練」と聞いた人の感じ方

昭和十八年時代は、現在の感覚及び物の考え方と全く異なった軍国主義で、教育及び思想であり、個人の意志の表現が意のままにならなかった時代で、真の心は言えない時代でした。

軍国主義時代は言論の自由なき社会であり、批判できない社会で、青春時代は去って行きました。軍国主義時代は反省しなければならないが、現在の平和な戦争なき時代が、永久に続くことを皆願っていると思います。

この戦争のなき時代をいつまでも保っていく努力が必要だと思っています。

軍隊に行った人だから右翼として連想されるのが私は嫌なのです。

そんな考えの人もあるかも知れませんが、私は軍国主義を謳歌するものではありません。戦争なき平和を常にもとめて行きたいと思っています。

予科練習生甲十三期は鹿児島だけで約五千人くらいいたと思います。

それで全国には何十万人かいたことだから、考え方も異なる人がいてもおかしくはないと思います。

旧海軍の制裁について

自分は海軍における制裁が、バツタということは入隊するまで知らなかった。

私は偶然に兵舎前で丸太を削って野球のバットの様なものを作っている教員の所にでくわした。ちょっと立ち止まって見ていたら、教員はニヤニヤ笑っていたが、それがまさか自分たちに死の恐怖を与える軍人精神注入棒(バツタ)とは思ってもみなかった。墨で黒々と「軍人精神注入棒」と記入され、紐で吊り下げられていた。

総員整列で全員が通路に揃うと、物音が消え、この「バツタ」のカラカラと引きずってくる音がすると、又バツタかと観念していたものである。全国海軍でやっていたことで、教員もバツタによる制裁は、普通でこんなことをやってはいけないという反省は、一部の教員で個人的にしたくない人もいたと思うけれども、それを言うこと、又他の教員がやっているのに自分だけしないと、言うことはできなかつた時代でしたが、バツタを楽しみにしている教員もいたように思う。

しかし天野分隊士の話ではバツタによる制裁は極力禁止する方向であったと昭和六十一年十月十八日に聞いて驚いたものである。

入隊直後の訓練と軍人精神注入棒(バツター)の恐怖

入隊1カ月は中学生時代の延長で、手旗と笛による通信訓練を兵舎前に集まって、隊員の一人が(笛を「ピッピー」と吹くと「イ」というような訓練を毎日していた。

訓練は全くないといっていいくらいで、起床、食事、日課、寝具降ろし、巡検、床に就くという、海軍の生活に慣れさせることもあったと思う。皆中学と変らぬ行動をして

いた。

それが十一月一日の夕食後総員整列がかけられた。一、二、三班と四、五、六班とに別れて座らされ、「整列よろし」と報告が終わると、白紙が配布され、「煙草を吸っているものを知っていたら名前を書け」という命令があり、私も知っていたが白紙で出した。トイレではモウモウと煙が立ちものぼっていた。中央部にバッテリーによる制裁場所が作られオスタップ(たらい)に水が用意され、名前を書かれた者が全部呼び出された。十名くらいだったと思う。

軍人精神注入棒とかかれたバッテリーを、カラカラと引きずってくる者が、静まり返った中に響いて、中央に教員が立ち並び、「今日は今までのシャバ(社会)の汚れを落としてやる。気合を入れてやるから出て来い」と初めて海軍の制裁を見せつけられた。息を殺して悲惨な光景を見つめていた。

二人が向き合って、相手の肩に手で支えあう格好で足を開いて立ち、両側に一人づつ教員があの手を持って立ち、「バッテリーを大上段に振り上げ力限りに交互に振り下ろし、不気味な音がバシッバシッと叩く度にひびきわたり、一人がヨロヨロと倒れると、オスタップ(たらい)の水をバケツで頭からかけて、立たせるとそれを叩く。遂には一本ごとに倒れ、そこでやめるというすさまじさだった。

生まれて初めて見せつけられ、制裁はこんなものだと恐怖を植え付けるには充分すぎた。あまりあるものだった。

それから二・三日もたたないうちにみんな叩かれるようになったが、最初は壁に手をつけて叩かれた。この最初に叩かれたときの、痛さとかしびれるとか、それは手で尻をさすらずにはいられない痛さで、友が広島弁で「痛いおう」と言ったのにな

なずいたことは忘れられない。皆痛いとは口には出さなかった。

しばらくすると両手を上げ足を開き、前かがみのような姿勢になり、慣れて来ると、横に立っている教員の動作を横目で見て、棒が当たる直前に腰を前に出して、衝撃を少しでも和らげるという抵抗をしていた。

しかし、ほんとに臀部だけに棒が当たれば、痛さも慣れとなって我慢できるようになるが、斜めになって太ももより下に当たると、悲鳴を上げるような痛さを感じ、逆に上に当たると尾骨になると飛び上がるような痛さとなる。

五本叩かれると臀部に五本の打撲の紫色の鬱血した線がはいる。

三〇本以上になると臀部は濃い紫色となり、まともには寝れない状態となる。

上海では、三八期(四国の航空隊)の練習生が臀部が良くならず死に至ったと聞いた。確かに死の恐怖を持った制裁である。

飛行予科練習生のバッターで叩かれた回数2倍を、飛行練習生にいくと叩かれ、飛行訓練になると、更にその倍叩かれると聞いていた。

【精神注入棒 (バッター)】



昭和十八年十一月四日から日記を書き始めているが、入隊直後から十月一杯は日記にないので家族より送られている葉書を見ると、そのころのことを書いて送ってきているので、貳銭の葉書の内容を記してみたいと思う。葉書は殆ど家の移転等で無くなっている。

昭和十八年十月八日の消印があり、榊永班長の私印が右隅に押印されている。

宛て先 鹿児島市鴨池海軍航空隊第四十七分隊第二班となっている。私が入隊して始めての手紙を出したその返事が父からきたものである。

十月七日

拝復お手紙有り難く拝見しました。

無事に入隊ができて安心して安心しました。

十月三日の午後八時半に香月五郎様（叔父）が衣服その他一切の荷物を御持参して下さったので、詳細の事は聞きました。母上は案外元気で少しも疲労されておられません。私は十月二日午後十一時に帰宅して、三日は町内のお礼に回りました。大助様より四日に手紙がきましたから、入隊の事を知らせました。誠一にも知らせました。時節柄御身大切に大いに頑張って軍務に、御精励の程お願いします。

十月八日

拝啓 兄さんお元気ですか。僕は九月三〇日無事入隊して兄さんが博多

駅でしっかり頑張れ一番先にやれと言ったやうに、病気もせず元気一杯やっています。兄さんは勉強して早く偉い人になって、父上、母上様をご安心させて下さい。僕は御国の盾となり敵米英を徹底的に「やっつける積もりです。異郷へくるとやはり親の有り難みを知り、兄弟の情を知りました。では兄さん體を大切に時々手紙を頼みます。

十月十日

拝啓兄さんお元気ですか、僕は元気です。兄さんは東京へ行って體をこはしませんか。兄さん暇があつたら手紙を僕に出して下さい。しかし勉強で忙しいでしょうね。弟や妹から手紙が来ますか。僕はこんなに遠く来たのは初めてで、なんとなく家や親が恋しく思はれます。だがこれは誰もそんなであるのですからじっと我慢して頑張っています。兄さん體を大切に勉強に精励願います。ではお元気で

十月十八日

千葉市緑町六六東京帝国大学第二工学部学生宿舎四寮一五号室

鹿児島海軍航空隊第四十七分隊第二班

兄さんお元気ですか。兄さんからの葉書は十六日の昼班長から渡されました。食べ物が多くてなによりです。お父様からは三・四回、お母様から一回、信ちゃんから一回葉書または手紙が来ました。僕たちは日曜（十日）は団体外出があり、菓子の配給があります。そして僕たちは食べ物十分です。お父様から出発当時に写った写真は、十五日晩に着き懐かしく見ました。それから学校で写った写真もきました。今日十六日

の臨時大祭は遥拝式があつて、写真を班ごとに写りました。もう二週間もすると特別教育が終わります。

それで今よく勉強しろと、班長から言われるので通信を熱心にやっています。僕は張り切って頑張りますから、兄さんもお體を大切に勉強してください。

さようなら

十月二十一日

拝啓 兄さんお元気ですか。僕の短気は、僕は大いに気をつけて注意していますからご心配は入りません。僕は二十日間航空隊で日を送りましたが、兄さんとともに泳ぎに行つて櫓が抜いているのを見ましたか。あのとき泳いだ気持ちはよかったですね。僕にお母様から一回手紙が来ましたが、どうもぼくたちがいなくなつて僕たちの手紙を持っていられるようだから、一週間一度づつ出そうと心掛ける次第であります。お兄さんも度々出して下さい。では兄さん元気で兄さんの葉書は二十一日につきました。さようなら

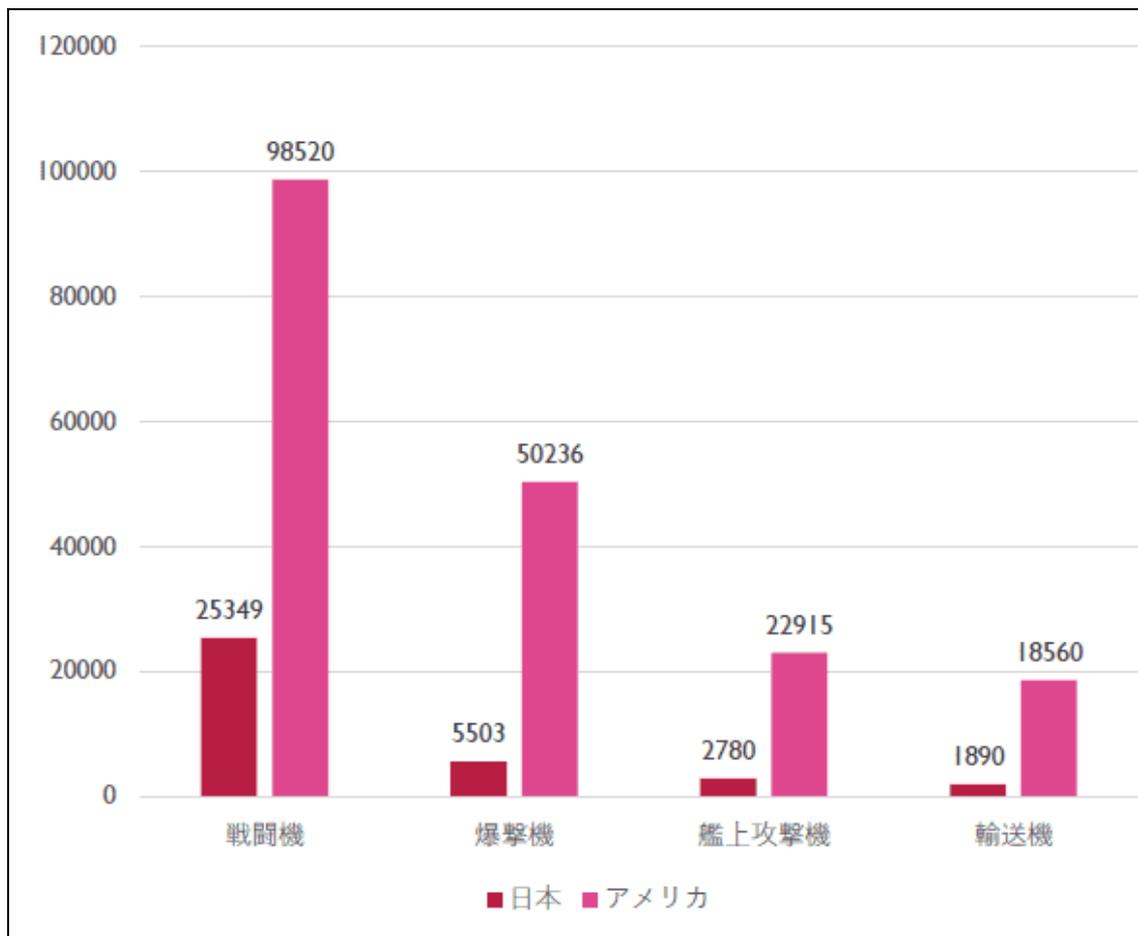
十月二〇日

拝復詳細に書いて呉れてよく分かりました。母上始め皆壮健です。故郷のことはあまり深く考えないほうが良い、また過去の事も深く考える事は効果がありません。聖經(生長の家父の兄が信者であつた)にも教えられた如く現在を生かす即ち今を生かすことが必要です。體を大切にちて日常の勤務に精励し、立派な雛鷺となることが真の孝行です。大いに頑張ってください。

手紙は何回も出して下さい。その都度返事を出すことが親としての楽しみです。兄誠一にも返事を出して下さい。信義は今風呂の水を汲み、湯も沸かしました。今日は元寇記念日です。隣組の菓子の配給は本月分がまだ来ません。日曜日の団体市内見学は楽しいでしょう。良く見ておきなさい。梶原中尉殿よりご懇篤なご挨拶状を戴きましたので大いに安心しました。早速お礼状を差し上げました。十一月には香月五郎氏方に行くつもりです。

時節柄御身大切に

【軍用機日米比較】



十月二〇日夜

「私は学校時代のこと、故郷のなつかしいことを書いていたと思われるが、始めて故郷を離れて、親を離れば、もう帰ることが無いこと、肌身に感じたとき同じ年齢のすべての人が最初はそんな気持ちになるのではないだろうか。」

十月二十四日消印

拝復母上は案外壮健です。私も達者です。東京の兄上よりも手紙が二、三回来たそうですね。十六日は休業で楽しかったでしょう。冬服を着て又活動も見たでせう。大分馴れて来たように思われます。

班長殿が非常に親切なお方であるよし、大いに安心しました。兄誠一の注意も良く聞いて呉れる由嬉しく存じます。近日自由外出ができる由、今より待ち構えております。その時期には四人づれで香月五郎様方に参ります。学校からも先生友人から沢山手紙がきてその返事を書くのに忙しいでせう。

然し返事は必ず出して下さい。聖經は暇なときに読んで下さい。無理に読む必要は有りません。我れ神の子なりの信念を持っていれば、万事良いことばかりが続き不幸は自然と去って行きます。身体を大切にして軍務に精励し、飛行機に乗れるように努力することが親孝行です。

信義、幸子も元気で通学しています。

時節柄御身大切に十月二十四日

十月三十一日

拝復朝夕は余程冷えて来ました。相変わらず元気で精励の由結構です。当方も皆無事です。一週間に三通より葉書が出せることに定まったなら、西新町の方は後回しにして、他の地より来た手紙の返事は、かならず出すようにして下さい。父上の許には一週間一回位で十分です。今日は閲兵分列式があったのでせう。聖教を読むことは大変修養になり、我れ神の子の信念が強くなり、万事が幸福になります。墨で書いた信義の手紙も届いたそうですね。東京からも手紙がくる由喜んでいます。十一月六時半から九時半まで谷口先生の講習を受けています。帰宅するのは毎晩十時半頃です。十一月七日朝四人香月五郎氏方へ参ります。史跡見学運動会見学活動観覧近日中自由外出もできる由大層楽しくなってきましたね。

十月三十日夜

御身大切に

この葉書のなかで一週間に三回以上は葉書は出せないことになっていることがわかる。

一週間に三回以上出す人がいたからであろう。

あのころ一週間に三回以上出す人はいたであろう。学友、兄弟、親戚、彼女、等にだせば三回以上にはなる。封書では出せないかった時代であるし、すべて教員の検閲を受けるので書きたいことも書けなかった時代

である。

外出日は面会列車が到着するようになっていた。岡山、広島からでは大変だったろうと思うが、その頃は父母に会えることだけで、時間がどのくらいかかっていたか、切符はすぐ買えるのか、おみやげや家族が来れば大変な経費を要する等、全く考える余地さえなかった。

ただただ父母に会いたい、それ以外のことは頭にはなかったのである。

十月二十三日父から兄へ

拝復良い秋晴れの天気です。四人とも壮健です。毎日壮健で勉強している由結構です。書物衣料切符は正に受け取りました。鹿児島からカラー（詰め襟のときにつける白のセルロイド）が送付せらるる由大変好都合です。郵便局に対してはなかなか不便なことは充分承知しています。唯この度だけは信義の先生が頼まれましたので、やむを得、御迷惑を掛けたので、今後は決して書物御購入を頼まない積もりです。また東京へ出掛けるのも大変時間と費用を要することは充分承知しております。

母上は元気で頭は痛みません。山川様が帰省中で一人で淋しいことと存じます。4人組の実験が好都合の由安心しました。全国の学生は奉仕作業に出ています。東京から富士山を見るのは実に気持ちが良いことは、実際の経験者でないと分からないのです。

（送品は山川様その他親友に御分ち下さい。）本晩小包で送ります。

内容は柿は三日に佐賀県基山駅まで行って求めました。油揚げの菓子は本日母上のお手製です。リン掛けの菓子は精密で三、四日前の配給で

す。干菓子は隣組の本月ぶんの配給品です。蜜柑も隣組の配給品です。少量ですが配給ですから辛抱して下さい。

愈々十一月六日（土）午前十時二十五分博多発列車で鹿児島に行きます。（午後八時四〇分鹿児島着）信義、さち子は運動会ですから早引けします。父は賜暇を貰います。

委細のことは帰宅（八日午前七時博多着）後通知します。時節柄御自愛第一に御精励の程願います。イチジクは本日小屋の所のものをチギツタものですが、腐敗しているか調べて下さい。 誠一殿

前文破れて不明

洋服が十一月末にできるそうですね。オーバーまたはレインコート等は、必要なら金の方は心配せずに人並に新調して下さい。衣料切符は必要なだけ送ります。

クラスの半数も徴兵検査を受けるとは驚きました。共通科目も大分ありますね。人名は覚えにくい出せう。寮費は安いですね。お金の不足するときは通知して下さい。

謙二からは三日毎位に手紙が来ます。近頃は大分忙しくなって手紙書く暇が少なくなった様子です。東京からは二、三回手紙がきたと謙二が書いておりました。

十一月七日午後十時十二分博多発下り列車で母上、信義、さち子と四人連れで行く予定です。カパンや靴は充分使って下さい。私方には不要ですからこれより日増しに寒くなるので冬のシャツと毛のジャケット等必

要なら送付します。御身大切に御勉勵の程願います。

誠一殿

十月二十九日

父より

拝啓朝夕は余程寒さを感じてきました。壮健で通学のよし安心しました。当方四四人とも達者です。隣組の菓子の配給がありましたので、少しばかり送ります。パイナップルの砂糖漬けは精密機械製作所の配給です。柿は二十二日午後早退して、安徳村松木に行きなっている柿をチギッテ貰ったもので、少量ですが山川様にも御分かちして食べて下さい。寒くなったので寝巻を新調して送付します。寒ければ毛のジャケットを送りますから御一報下さい。

謙二より音信が本日ありました。入隊して二〇日にもなるので万事に馴れてきたようすです。二週間後には自由外出が出来るので香月おじさまの家に行くことを楽しみにしている由又父上か母上に面会に来て呉れとの事ですから十一月七日には多分面会できるものと思われます。六日の晩午後十時十二分博多発下り列車で四人揃って面会に行く積もりです。貴下より親切に「腹を立ててはならぬ」と注意して呉れたのを有り難く受けて実行しているとの由誠に嬉しく思います。

カラーは如何になりましたか。洋服は出来るようになりましたか。信義の腰掛け机は椅子を高めました。大学新聞がやはり今日まで送付してきますから何とか処置して下さい。金銭の預金は如何な都合ですか

誠一様

十月二十三日夜

父より

十月二十九日消印

兄さんお元気ですか。お父様から二十四日に葉書が到着しました。兄さんにも度々手紙を出せとありました。私は元気で頑張っています。もう一週間も経てば日曜日には自由外出が出来るようになります。兄さんは学校の生活にも慣れてしまったでしょうね。僕も少しは慣れたようです。僕がここへ来てから早くも約一カ月の日が経過して教科も大分進み、この三十一日限りで特別教育が終わりますが、それから益々忙しくなるように班長は言っていますので、これから益々體に気をつけて頑張っていくつもりです。

お父さんから度々葉書がきて嬉しく思いますが、一週間に一番多くて葉書三枚と定められたので、自然に葉書で返事を出すことを忘れてますが、家と兄さんには出すつもりでゐます。三十日には司令の閲兵分列式があるので教練はその練習をしてゐます。

兄さんお體を達者に元気で勉強して下さい。

日記の前に

十一月四日から日記はつけ始めているが、日記をもっと詳しく書いておけばよかったと思う。しかし[軍機保護法](#)にふれるため、日記は書くことはできなかった。これから先人生を過ごす人には、昔の軍隊という生活はどんなものであったかを、知っておいて貰いたいと思っている。

言葉の自由がない世界であり、批判が許されない世界、制裁が課せられていたと思う。一人の失敗はみんなの責任で全員制裁、言い訳理由はできない悲しい世界だった。

重い重い苦しい気分がいつもどこかにひそんでいて、心からの楽しさは全くなかった世界でした。

予科練の門出 事業服(上一枚)不足

昭和十八年九月三〇日、入隊直後悲劇が起きました。

私の佐志飛一〇七一五の衣裏を衣裏棚より前に引き出して、枚数を当たったとき、事業服の上が一枚足りないのので、班長に報告した。私は社会と同じように、不足のときは呉れるものとはばかり思っていました。

ところが、「探せ」と班長に言われたが、探すといっても衣裏の中の物を全部出したら、(事業服及び第一種軍装、第二種軍装、下着、靴下等は、入隊する前日に、一式衣裏のなかに入れてあったが、事業服の上

一枚が不足していた。それで班長に「事業服、上一枚不足」と報告したら「探せばある」というけれども衣裏のなかには何も無い。探しようがない。班長に三回ぐらい「ありません」と言ってもだめでした。

ショックでした。ここから既に苦しい予科練の門出でした。点検があるたびに事業服「上一枚不足」とオロオロして告げざるを得ませんでした。

情けない、悔しい、帰りたい、選んだ道を間違えた、父母がいたら等々、夜は考えました。でも点検で黙っていると班長は知っていることだから、このため点検があるごとに「事業服、上一枚不足」と告げていた。

しかしこの事業服上衣一枚不足は、入隊初めてで海軍の右も左もわからないときであっただけに精神的に物凄く苦しかったことだけは確かであった。

班長が「探せ」というが、恐らく衣裏に詰めるときに、先輩がいらしているということだったから、一枚失敬したと思われる。軽い気持ちでやったのかもしれないが、取られた者はどんなに苦勞したか知って欲しい。

軍隊では数に厳しい。ひとつでも不足すれば、不足分を探さなければ厳罰に処せられる。自分の分隊を満たすには、他の分隊のものをかすめてごまかす以外にない。点検前になると食器が不足する。取られるのであるが、これをまた取り返さなければならない。このことが繰り返される。

衣服では風呂に行ったときとか、干したときに無くなる。これはもう常識となっていた。点検のときはそろえているからどこかで調整がされていると察せられる。不足するとボサツとしているからと、取られる方が悪いということになるから目の色変えていないとサツとなくなっていた。なれて来れば探せばあることはわかってきたが、(他人の物取ることにより) なかなか度胸がいるし、私にはどうていできることではなかった。

自分はする気はなかったが、制裁があれば個人だけならいいが、班全部に及ぶのでやはり揃えざるを得ないので、食器を洗う振りして隣のを取ったことがある。

上衣については不足のまま押し通し、調整されることも無く、ただただ精神面で物凄く苦しかったことだけが印象に残っている。

私には人の物を黙って取ることは、考えてもみませんでした。それがたとえ苦しくても、私の心の中にはみじんもありませんでした。「探せ」とは取ることは考えられませんでした。ずっと後になって取って揃えることと知りました。

何度目の点検のときだったでしょう。五~六回ぐらいでしたか。一枚づつは点検しないことが通例だと分かり、衣服点検のときに、「異状なし」とやり過ごしてからはずっと永久に不足で終わりました。しかし「異状なし」というのも私にはドキドキでした。でも「異状なし」と言うまで、どんなに悩んだかは、想像を絶する苦しさが襲っていました。あの軍国主義時代の、嘘の報告に対する厳しい制裁が待っていること

が、わかっているだけに「異状なし」と報告することは嘘になるので、誰にも言えなかった苦しさでした。

「軍隊は不足して補充とかはできないから辛抱しろ」「いつか余分ができたらやるから」と班長が言う事はできないだろうが、なにか私にできない理由を言ってくれば、少しは私の心に影響は違ったと思うのです。中学生が初めて入隊して、不足のときは「探せばある」と言ったのは、海軍では普通であったかも知れないが、社会では通用しないことで、ほんとうに入隊直後の者には、非常に厳しく取り戻せないストレスでした。

十月が終わり、十一月一日あの海軍特有の総員整列があり、班長がカラカラとバッターひきづってきて「貴様たちは全くシャバ気が抜けて無い。シャバ気を叩き出してやるから一人ずつでてこい」「軍人精神をいれてやる」とキマリ文句で制裁を加えた。十五、六歳のものを二〇、二一歳の者が無抵抗のものを、野球のバットより少し握りが太い精神注入棒で、大上段にふりかぶり、尻を叩くのだからたまったものではない。この制裁があってから日記をつけ始めたのである。

入室(病気のため医務室に治療に行くこと)

昭和十八年十二月二五日(大正天皇祭) 1万メートル競走を鹿児島海軍航空隊全員が走ることが決まっていた。

私は十二月七、八、九、十日は黄疸で入室していました。その前から

足（ふくらはぎ）が痛くて病室に通いました。足が痛くて全く走れなくなったのです。歩くのがやっとという状態でした。

それで仕方なしにバッターで叩かれることは覚悟の上で「川島練習生、足が痛いので診察を受けさせて下さい」「気合がぬけたら気合を入れてやるから来い」と言われてバッターで叩かれて「よし行って来い」叩かれてもいいが、全く病気のものを叩くことはないものをと。しかしウソを言って病室に行く練習生がいたからやはり疑わざるを得ないのかも知れないが。

診察に行くとこれまた「気合が抜けたら気合をいれてやる」ということで再びバッターを貰う。足は疲労性骨膜炎と診断されて、すべてを見学の位置（座学以外）で過ごした。病室では全く治療はしなかった。ほったらかしである。薬を塗るとか冷やせとか、全く指示がないのである。ただ叩くだけで医者ではないのである。

それに加えて黄疸になって目は真っ黄色となった。黄疸で診察を受けると絶食である。消化酸なるものをくれた。この消化酸は良く効いた。このとき同僚の神奈川も黄疸だったと思う。一緒に病室にお粥を貰いにいった。お粥は梅干しが一個入っているだけである。良くなってくると腹が減ってお粥ではとても足りなくなるので、十二時前に取りに行き、もってくると食べるしかない。十二時前に食べたら、班長に見つかりバッターを貰った。

後十五日で一万メートルなので、毎日谷山方面に走らされていたが、なにしろ疲労性骨膜炎の私は足が痛い。走れない。でも病室には行って

ないので走らないと仕方がない。練習が死ぬ目に会う毎日だった。気持ち的に今日もか、足が痛くならないといいがなあと恐る恐る走っていた。胃は痛くなるし、足は痛いし、もう私は肉体疲労の極限だった。この足さえ痛くなければと、何度思ったことでしょうか。しかし口に出して言えることではないので、巡検後、夜毛布にくるまっては、故郷を偲び、父母を思い、涙が自然と流れて、いつか眠りについていました。

遂に十二月二五日の一万メートルがやってきました。痛い足をひきずりながら必死でした。胃も痛くなるし、でも走るしかない私でした。もうこれは最後かなというくらいの早さでした。病気がかりでしかも足が痛ければ致命傷でした。

私よりも更に遅れて来た人がいました。それが名前はわかりません。私が倒れそうでゴールしてしばらくして、紐でひっぱられてきた人が最後でした。彼がいなければ私がひっぱられたかもわかりません。分隊が何分で走るかということで一人が早く走っても全体責任であるので最後の同僚をなんとしてでも完走させなければならぬのでした。骨膜炎になって永く走ると常に痛みがあり、肉体的にも精神的にも弱くなったように思います。この頃は走らないから痛くはないのですが、永く走れば古傷が痛むかと思っています。こんな状態で日記をつけていたのです。

一九四三年十一月

【十一月四日】

受信、体操、晩飯はカレーがからかった。ふろに行く。温習時間に陸戦の試験があった。この頃の受信の速度は、一分間に四五字位のものであったかと思う。受聴器をかけて教員が送信してくるモールス信号を聴き、書き取って行くのであるが、始めは聞こえたらすぐ書いていたが、慣れて来るに従って一字ないし二字遅れて書いていた。受聴器をかけて、受信していると眠くなり、眠ってしまうこともあった。しかしそれは大分あとのことである。

「陸戦」とは、旧陸軍の戦闘の略だろうと思う。陸の訓練、教育があり、これの筆記試験がおこなわれたということである。

軍隊の浅き生活床につき、故郷の詩に涙なりけり。毛布の中にはいると、自然と涙が出る

【十一月五日】

朝は晴れて空の景色がとても美しかった。朝飯が済んで、温習講堂に行つて、分隊士の軍制があり、受信、送信、昼食（食卓番）手旗のとき分隊長より訓話があり、体操。夜菓子の配給あり。

【十一月六日】

朝曇っていて温習時間に雨が降った。課業が始まるには「課業始め十五

分前」スピーカーが知らせ、課業整列は練兵場であるので各分隊毎整列しなければならぬ。課業整列には当直練習生が引率して駆け足でいのである。

雨の日は「課業整列は雨天の位置」とスピーカーで放送されるので、このときは兵舎内の通路で行う。

課業整列は雨天の位置で室内であった。受信試験、送信、分隊長訓話、昼は大掃除で温習講堂を掃除した。

雨落ちる時にぞ思ふ父母の愛、故郷離れた新しき道

【十一月七日】

日曜日入隊後初めての自由外出である。朝食前に第一種軍装（紺の冬服）に着替える。週番練習生が各自の時計、財布、等貴重品を渡す。食卓番は弁当をつめる。終わって「外出員整列0915」というスピーカーの放送があり、弁当をもって、兵舎前に整列、当直練習生が練兵場に駆け足で引率して行き、航空隊全員が整列する。

飛田中佐より「己に慎み己に勝つ」という訓示があり、腹をこわさないようにとの言葉があった。

第五三分隊なので第三七分隊より出発すれば、隊門をでると時間は三〇分位は差があったのではなかろうか。なにしろ四〇〇〇人以上のものが歩いて、隊門を出るときは分隊毎に「歩調をとれ」「頭右」で出て行く。隊門を出て父母妹を見つけた。父が班長に挨拶をした。自分たちは

歩きながら西駅の叔父の家についた。

家について一カ月ぶりに会う僕を見て母は涙ぐんでいたようだった。

池公園で柿とみかんを食べたが非常にうまかった。隊門まで父母と話しながら歩いてきて直ちに隊門を入り歩調をとり、敬礼をして外出札を取って、隊内に入る。兵舎に帰ればもう外出の楽しさは打ち消された。腹一杯食べているので軍歌の本をもって歩くのがきついが、軍歌を唄う。

晩飯のときは少ししか食べなかった。

あの頃一度に何千人という練習生が出てくるので、面会者は一人ひとりでは分からなかったと思う。隊門前は面会者でごったがえしていて皆肉親の親兄弟母弟妹が一緒にきていたのでそれこそ右往左往しているという状態だった。しかし解散すると肉親の顔だけはすぐにわかった。

父から兄へ出した手紙の原文の一部コピーしたものを次ページに掲げる。十一月七日第一回目の自由外出で、父が兄へ送った手紙。父が嬉しかったことが、徽賞の絵の注釈をつけていることで分かる。

福岡工業教諭で機械を教えているので、観察はさすがと思う。図面なんかも写真に撮ったように正確緻密に書いていた。

(父より兄へ) 拝復

朝夕は余程冷えて来ました。お達者で結構です。4人組はよい人ばかりで揃っている由安心しました。ジャケット等は当分送りません。売店にカラーがあったそうで安心です。五日に香月氏からカラーが着きまして大きすぎた由、山川様にお渡ししたのは好都合です。六日十時二五分博多発で母、信義、さち子の四人連れで午後九時香月氏方に着きました。七日午前八時に出発(父、信義、さち子、叔父、英輔)母と叔母は宅にのこりオハギ作り、午前十時に榊永班長より謙二を父に渡され、市内電車は禁じられたる故、徒歩で三五分かかって叔父の宅に着きました。

母は非常に喜びまして早速温かいオハギを出しました。(小豆は松木よりもち米は八女郡小川氏より貰ったもの)謙二も帽子、服を脱ぎ喜んで五、六個食べ他の者も四、五個食べました。謙二らは十月より一等航空兵に昇進して右腕に海軍マークをつけ、海軍帽を被り七つボタンで紺色の服(上着は短い)襟には飛行機の襟章をつけて約四千人くらい一緒に入り口の門に来ました。顔は黒くなり、少し肥えて活発になり、軍人姿で勇ましいのを見て愈々安心しました。今一日中非常に忙しくて電信の信号、手旗、等練習をしている由、昭和十九年一月には上等航空兵に昇進する由、オハギの次が柿一個当て(貴下に送ったもの)母が自宅でのフカシパン二、三個蜜柑一、二(叔父が特に求めたもの)落花生五個(貴下へ送ったもの隣組の石橋寿方の畑に、今年出来たものを自宅でイッタもの)午後一時一同の者が久方ぶりに揃って、昼食を嬉しく食べ終

わった。謙二も大喜びであった。午後二時母、謙二、信義、さち子の五人連れで徒歩で航空隊へと進行し三時五〇分鴨池公園（動物園）にて休憩して、柿一個蜜柑一個食べて三時四〇分に公園を出て三時五〇分航空隊の門に入りました。午後四時が門限です。実は四時四五分なれど、分隊長は初めての個人外出故早めてある。門の出入りには、歩調を取って整然と行きました。小雨がポツポツ落ち出したので電車で母、信義、さち子の三人は叔父の宅へ、父は鹿児島駅に切符買ひ（これは七日午後九時五分の初発に乗るため）帰りて夕食を済まし、湯屋に行き午後八時床に就く。（皆の者の希望により、翌朝出発に改め）八日午前七時二九分西鹿児島駅発午後六時無事西新町に帰宅しました。冬休みに東京から帰宅しましたら父と二人で面会に行き写真を取りたい。（七つボタンと四角帽）謙二は冬休みが有る無し只今不明です。毎月第一日曜と第三日曜が、個人の自由外出ができる由第二、及び第四日曜は、隊で唯面会するだけです。大体の面会の模様を簡単に書きました。兎に角、久方ぶりに一度会って母も父も一安心しました。

謙二も嘸嬉しかった事と信じます。

日に増し寒くなりますから風邪を引かないように身体を大切に願ひます
時には聖教を拝読される方が良いと思います

誠一殿

十一月十日夜

父より

十一月十一日消印

拝啓四〇日ぶりに面会し、中学時代の模様が、悉く皆軍人変わり見るからに勇ましき姿となつて居ることを、この上なく嬉しく感じました。又色も黒く身体も肥えて丈夫になったことは、全く班長殿初め指導教官の御賜と、厚く感謝して居ます。柁永班長殿にはお礼状を差し上げました。母上も非常に安心しました。信義、さち子も大喜びです。誠一にも早速知らせました。七日の晩も叔父の内に宿泊しまして八日の午前七時二九分鹿児島発で午後六時無事西新町に帰宅しました。叔父、叔母の家に礼状を出して下さい。父よりも出しました。

御身大切に益々軍務に精励の程願ひます。

この葉書のなかで、四〇日振りに会った自分の予科練姿を見て安心したことがうかがえる。隊からもって行った弁当は皆で分けて食べたように思う。兎に角おはぎとかいろいろ作ってくれて満腹以上になった。何も無いときにいろいろと苦勞してもって来て呉れたのに、そんなことを考える余裕はなく、会った嬉しさと食べたかったことだけで、ただがむしやりに食べたと言う感じだった。

あの頃は鹿児島～博多間は十時間くらいかかったのではないだろうか。一家四人の鹿児島旅行は、金銭的にも時間的にも物資的にも非常に苦勞しただろうと、察するにあまりある。切符買うことだけでも大変だっただろう。自分はそんなこと全く考えもしなかった。つまらない男だったと思う。

千葉市緑町六六東京帝大第二工学部学生宿舎二寮二九号

川島誠一様

鹿児島海軍航空隊代四七分隊第二班

兄さん度々お手紙ありがとう

七日に父母弟妹四人連れで面会にきました。しかし時間が足りず食べ物だけ沢山食べました。大変うまくて軍隊の飯を少なく加減し食べました。兄さんにも食べさせたかったです。今度正月に休暇が無いときは、一緒に面会に来て下さい。父からも兄さんからの葉書で大分上級学校に行くことが難しくなって、父はまあ航空隊へ来てよかったかも知れないと言われ、私はそんなにやかましくなったかなあと思う程でした。兄さんはしっかり勉強して下さい。

私達は今月（十一）から物理、化学、代数、漢文、国語といったような普通学を習います。そしてまだ化学が1時間あっただけです。

では御身大切に さようなら

【十一月八日】

朝起きると眠かった。課業整列で分隊点検があり、司令（飛田中佐）より軍機の話があり、誠実なれということだった。昼食後、父母に手紙を書いた。化学、受信、体操、晩飯後洗濯、温習講堂に行き化学をした。歯を磨いて寝た。

（夕食後温習まで自由時間があり、洗濯したり、手紙を書いたり、靴下修理をしたりしていた。自分（海軍では自分といい、僕は社会人の言葉で禁止）は夜か朝歯を磨いて居た。

【十一月九日(火)】

朝眠かったが起きると雨がザアザア降っていた。食卓番忙しい。温習、隊内点検があり、数学が始めてある。昼飯は肉とじゃがいものおかずでおいしかった。

受信、送信（二時間）晩飯後風呂に行く。菓子（乳菓子）十二個入っていて口があまくなった。温習講堂に行き数学をした。

【十一月十日(水)】

朝良く眠っていて、総員起し五分前のラッパで起きたが眠かった。顔だけ洗い、課業整列体操をした。そのとき帰りたいた気がした。太陽の光線が雲に映えて美しかった。朝食後送信、数学、衣服整理、上着が足りない。貰ったときからで班長は全然受け付けず悲しくなった。昼は軍容点

検の査閲の予行があった。夜は靴下の修理で遅くなった。

十一月十一日

総員起こし前に便所に行って、事業服のズボンをはいて顔を洗ったので大変早かった。とても寒さを感じた。朝食後、軍用点検があった。物理、昼食、受信、送信のとき退避訓練があり、体操。総員起こし前に事業服を着ること、靴下をはくことも違反である。少しでも早くというために違反とは知りつつ、コソコソと毛布をたたんだり事業服を着ておくことは、皆がやっていたことである。

十一月十二日

桜島がはっきりと見え大変美しかった。温修、課業整列、分隊長訓話、数学、送信昼食、防空壕堀、そのとき分隊士が正月帰れると言った。父から葉書がきた。温修菓子の配給

十一月十三日

起きるのがつらかった。昨日よりもはっきり桜島が見え寒かった。航空（2時間）物理、昼食、受信、体操。夕食後温修、靴下、内囊、シャツズボンを貰った。もう一度事業服の上がないことを告げたがそのままだった。

十一月十四日

朝非常に寒くなった。乾布摩擦はなかった。温修後兵舎で靴下修理と手紙を書いた。軍歌があった。帰って夕食風呂に行き温修、正月の休暇の話をしながら寝た。

十一月十五日

少し早く目が覚め便所へ行き、総員起こしで練兵所へ行く。[宮城遙拝](#)、[御製奉唱](#)、食卓番、朝食後温修、精神訓話、手旗、昼食後物理、送信、受信、の試験で五つ違った。夕食後菓子の配給のとき停電、夕食を終わってから雨が激しく降りだしていたが、停電したときには特に激しくて、稲光で人の顔がまた兵舎がはっきり見えた。温修。

十一月十六日

早く目が覚めて便所へ行き一時間ばかりして、総員起こしがあったが眠くなかった。正月に帰ることばかり考えた。温修、課業整列、物理、発行信号、送信、分隊士の訓話、夕食後歯を磨き風呂に行き温修

十一月十七日

朝は寒くなかった。温修、運用（二時間）送信、昼食衛生（身体検査）通信の稽古があった。夕食後菓子の配給、巡検がくるのを知らずに寝た。（普通は「巡検」と兵舎に入ってくる声とコツコツと歩いて行く音が終わり、「巡検終わり」と号令が終わるのまで覚えているが、それが巡検がくるまでに寝ていたということで疲れていたのだと思う。巡検が

終わるとガサゴソと音がしてトイレに行く者、洗面する者でにぎやかになる。総員整列があるときは、大体予感がある。)

十一月十六日消印

拝復元気だそうでなによりです。当方も無事です。先日は面会して、悠々とお話しする時間が足りない感じがしました。正月に誠一と行くときはもう少し時間を多くしたいものです。八日には分隊点検と司令官の訓話がありました由、誠に結構です。母上、信義、さち子も又正月面会に行く、今から待ちかまえて楽しんでおります。誠一にも正月に面会に行くように手紙を出しました。鉛筆、筆入れ、手帳、鉛筆継ぎを本日叔父様の内(家)へ小包で送っておきました。

一度面会して立派な軍人になって居る姿を見て、大いに安心して心強くなりました。これより少し寒くなりますから身体に気をつけて軍務に精励して下さい。

十一月十八日

昨日夜便所に行ったので眠かった。靴を磨いて朝食、温修、送信、軍制、化学、靴修繕を頼んだ。昼食後受信、武道で講和あり。受信。

十一月十八日消印

拝復その後元気で大いに張り切って、軍務に努力して居る由誠に結構です。叔父さんに礼状出して呉れた由、安心しました。隊門のお別れは

時間の余裕がなかったので仕方ありません。人は誠実であることが最も肝要です。今度送付しました生長の家誌も時々読んで下さい。終わりの方に軍人の実験段が記載してあります。同窓生の内二人は三重県の遠方にいかれる由、貴殿は大変に幸福ですから、大いに感謝しなければならないと思います。

母上も至って元気です。信義は入学前で一生懸命に勉強しています。誠一と五人連れで行くことを今より楽しみにして皆待つて居ます。

時節柄御身御大切に。

父より兄へ

千葉市緑町六六東京帝国大学第二工学部学寮第五寮二四室 川島誠一殿
福岡市西新町三丁目四八二の一

朝夕は少し寒さを感じて来ました。九州西部にも一～二機きています。福岡は安全です。芋は誠に結構ですね。当方四人とも無事です。十一月中はおおいに頑張ってください。十二月からは現場に行くことが事実だと思えます。益々元気だそうで安心して居ます。本日小包で綿入れの着物、ズボン、靴下、ちり紙を送りました。

謙二から「靴下はこのところ履きませんから継ぎ着れはいらなくて大分楽です。僕は大きいに張り切ってやって居ますから御安心下さい」との葉書が十八日にきました。入費の必要な時には知らせて下さい。八日夜の葉書が十三日に着きました。一週間は十分かかります。次第に寒くなりますから風邪をひかないよう気をつけてください。

十一月十九日以降十二月十六日までの記録は残念であるが紛失している。思いだすすべもないし、永久に空白である。ただ十二月七日から十二月十日まで、黄疸で入室した。このときは、胃がつかえて、食事ができなかった。病室に行くと、脈、体温を測るだけで、特別なことはせずに絶食だった。毎朝病室通いをして午前中に帰って寝て居た。しかし病気がよくなるにつれて粥ではたりなくなってひもじくなった。貰って来た粥を早く食べてバターを貰ったことを覚えて居る。病室に行つて受診票に体温と脈数書いたのを捨てずに今もって居る。朝と夕方病室に行つたようである。

【弾除けのための千人針を縫う女子学生】



一九四三年十二月

十二月十七日

総員起こしのときは寒かった。食卓番で汁を取りに行く。朝食は腹に丁度良かった。黄疸が完全に良くなっていないので調子が悪い。朝食後事業服に着替えて当番をして温修講堂に行く。巻雲がずっと出ている。

数学、送信、球技（見学状態）

国語、送信、国語夕食後第一種軍装に着替える。友と食器を心配する。食器が1枚不足。「寝具おろせ」で寝具をおろす。舎内掃除をやる。温修講堂へ行く。巡検ラッパを聞いて寝る。日曜の外出を楽しみに。駆け足をすれば筋肉が痛くて走れないのがつらい。疲労性骨膜炎のはじめだった。

千葉市緑町六六東大第二工学部学生宿舎二寮二九号川島誠一

四七分隊二班 川島謙二

受診票

| | | | |
|-----|-----|---|-----|
| | | | 十二月 |
| 夕 | 朝 | | |
| | 三五・ | 熱 | 七日 |
| | 七二 | 脈 | |
| 三六・ | 三五・ | 熱 | 八日 |
| 七四 | 七〇 | 脈 | |
| 三五・ | 三五・ | 熱 | 九日 |
| 六〇 | 七〇 | 脈 | |
| | 三五・ | 熱 | 十日 |
| | 六四 | 脈 | |

十二月二日消印

兄さん長らくご無沙汰しました。そちらは大分寒くなったでせう。私は元気でありますから心配せずに勉強に精出して下さい。もう二カ月過

ぎて軍隊生活も慣れました。兄さんも学校生活は楽しくなったでせう。
今度五日の外出日には叔父さんの家にやっかいになります。この前の外出のときには叔父さんは出張で留守でした。兄さんは冬休みに帰って帰って来られるでしょうか、もしかすると大助（叔父）さんも帰って来られるかも知れないとお母様から手紙が来ましたが、今度の正月は楽しく遊べるかもしれません。

十二月二四日消印

千葉市緑町六六東大第二工学部学生宿舎二寮二九号

川島誠一

四七分隊二班 川島謙二

兄さんご心配かけて済みません。私は軽い黄疸で一週間休んだだけです。兄さんお父さんが十九日の日曜に心配して面会に来られました。私は大変うれしかったです、隊門にて別れるときこの前皆で来て下さったときよりもつらかったです。兄さん心配かけてすみません。もう大丈夫です。兄さんは心配せずに勉強して下さい。兄さん正月には鹿児島まで会いに来て下さい。家に写真を送りました では今度会う日まで
さようなら

十二月十三日消印

拝啓

敬具昨日叔父香月五郎氏が帰郷せられ、私方で夕飯を一緒に食べました。承れば胃の病気より黄疸の兆候があるよしにて、訓練のみ中止の状態とのこと。壮健な時より病気の時は必ず毎日でも病状を真実に報知下されば、直ちに面会にまか出て実際の模様を見れば、大いに安心し、貴殿もまた心強く感じ、病気は直ちに癒えて元気が旺盛になるのであります。その後の病状を知らせて下さい。

十二月十九日

外出。総員起こし。顔を洗い、課業整列後、朝食、パンとチョコレートを貰い財布と時計を貰う。隊門を出て居並ぶ面会人の方すお見て行くと、父の顔を見つけたときは何ともいえず嬉しかった。故郷にいる母に電報を打った。ふかし芋はうまかった。昼食の鯛とうどんもうまかった。隊門で別れるときは淋しく辛かったが、ひとたび隊門に入ってしまうと忘れ、会えた嬉しさは今日は特別だった。(入室したつらさがあったため) 活動「[決戦の大空へ](#)」を見た。

十二月二〇日

今日は大変寒かった。当番のときは非常に冷たかった。分隊長訓話、運用、銃剣術、昼食後受信、運用、送信、夕食後父への手紙を書いている

ると、兄と弟から手紙が来た。温修へ行くときなぜか心が沈んだ。

十二月二一日

今日はあまり寒くないので裸にて体操、数学、受信、送信のときマキン玉砕の話のとき、話をした者がありて渡部教員より説教さる。共に靖国神社で会うじゃないかと涙をかみしめた。昼食後送信、軍制のとき赤本を借りる。駆け足のときに胃と足の痛いのを我慢して走ったが、また黄疸になりそうだったが、夕食はうまかった。まあ大丈夫らしい。写真をもらった。家に送る。

十二月二二日

朝起きると胃が痛く感じたが、起きればそんなに痛さは感じなかった。裸で体操する。

朝食はまずまず胃は直ると思う。送信、化学、体操、は見学、昼食後点検あり。衛生で体重0・5kg減る。六時限目に試験があつたが、三つ中二つ違った。胃、足が痛い。試験は違うし、とても家に帰りたい。夕食はうまい。菓子もうまかった。ミカンも甘かった。温修へいく。足と手が大分よくなった。

十二月二三日

今日は食卓番、体操は襦袢をつけた。朝食後陸戦3時間見学した。受

信、送信、体操は足痛のため見学した。昼食おかずの肉はうまかった。特に豚肉はうまい。(今考えると肉ジャガ) 今日も一日これで終わったが、心は常に曇りがちでお母さんと呼んで泣きたい気がした。昼は胃痛きも便所に行って直った。十二時頃まで起きて頭を刈り、髭を剃った。

十二月二四日

朝は眠たい。朝食は家で2杯くらいしか食べなかったがなあと思い出した。送信、作文、(海軍少年飛行兵ハワイ爆撃行)を読まれたが、涙が出そうだった。母から少年兵あての手紙が特に母を思い出した。体操、昼食、ツベルクリン反応、軍制、物理、夕食は味噌煮でうまいが少ないし、飯も少ない。温修へいく。この日記を書く。

十二月二五日

日記に書いていないがこの日の一万米を走るために、谷山方面に練習として何回か往復駈足をさせられていた。とても眠たい。体操、朝食胃が痛くなる。温修が終わって運動靴を借りに行く。いよいよ一万米だ。ピストルがボーンとなると歓声をあげて走る。串本が先に行くからとスピードをあげて走って行った。四四分にて到着。胃が痛い。ふろに行く。夕食はおかずが足りない。胃がいつでも一時間くらいするとよくなる。七時に就寝。(この頃は胃は良くないし、とても苦しかったことを

覚えている。胃さえ痛くなければと思っていた)

十二月二六日日曜

今日は日曜だが外出なし。非常に寒い。体操のときは寒かった。当番は通信講堂で外を掃除する時が冷たい。朝食後冬襦袢を着て事業服を着替え、事業服を洗濯する。昼食後、体操シャツを洗う。夕食後軍歌があり、パンは甘くなかった。温修。

十二月二七日

起きるのが早い。体操のときは裸で大変寒かった。朝食は少なかった。今日は分隊点検なるゆえ、新しいカラーをして新しい靴をはいて温修へ行く。温修が終わると練兵所に整列、司令神岡大佐の閲兵があり、勅諭を読まれて訓辞があり、終わったときは手が伸ばない。兵舎に帰り昼食航空兵器、受信、夕食後発行信号試験があった。兵長が帰るのを見て帰りたかった。

甲第十二期の後期で四月入隊したものが、休暇で正月に帰るのを見て帰りたかったことを覚えている。

十二月二六日消印

元気で軍務に精励のことと存じます。作二五日の午後十一時に誠一が帰宅しました。正月に面会に行くのに、一月の何日が外出できるか分かり次第通知して下さい。去る十九日に多分一月一日、一月三日とか言っていました。が、確実な日が知りたいのです。汽車の切符の売り出しに何枚かの制限がありますので、前以て切符を買い求める必要があります。去る十九日はゆっくり面会できて非常に楽しかったです。毎日学期末の試験で多忙でしょう。大いに頑張ってください。向寒の折柄御身大切に。

十二月二八日

練兵所にて号令練習、体操、ガラス拭きをして朝食後温修へ行く。発光、受信、送信、昼食後兵長帰省の話ばかりする。数学、化学、訓話、夕食後事業服を冬服に着替える。調練があった。靴に革を打つ。温修へ行く。

分隊編成近くなりて

友達と操偵別を話し合い嬉しく笑う食後の一時
明後日は正月とても思わず分隊替えの忙しさかな

十二月二十九日

朝寒くて起きるのが辛い。今日は桜島がくつきりと見え、煙りがわず

かに出て空には星が少しあり、雲は全然なし。号令練習を始める。終わりにて宮城遥拝し、五カ条奉唱、乾布摩擦が冷たい。体操して舎外の掃除をする。朝食後温修へ行く。送信、国語のとき本を読んでもくれたが、泣かされた。受信、昼食は多い。化学、武道、分隊長訓話、夕食にしるこあり。うまかった。菓子があり、二つ残した。温修に行って明日の試験に備える。

十二月三〇日

朝四時まで勉強した。朝眠たい。起きて見れば雨が降っている。便所に行き、顔を洗い、兵舎内整列、宮城遥拝、五カ条奉唱、乾布摩擦、して掃除にかかる。乾布摩擦は暖かくなって気持ちがいい。食卓番で飯取りに行った。朝食後分隊編成替え

十二月三〇日に分隊編成替えがあり、第四七分隊第二班から第五三分隊第五班にかわっているのだが、分隊編成替えのことは日記には書いていない。編成替えでは操縦分隊が十三期に年齢が多いものは六一、六二分隊と分けられたと思う。

正月と休暇を待つが華なりと友と話すも心寂しさ。

【日記をつけているが一冊が終わり二冊目の所感】

十二月まで小さい手帳に細かい字で隠れるようにして書いていたが、二冊目からは少し大きな手帳に大きい文字で書いている。

自分で書いた日記は五〇年以上前のことであり、自分で書いたという記憶すらない。昔こんなことを書いていたんだという事実のみがあり、何を目的にどんなことを書くかとか、周囲を見回して書くとかはなく、単に航空隊のなかで、つらいこといやなこと、明日への反省、単に人生の生きるという望みをもって書いていたように思う。

日記を早く完成して本を作るにはどんな装丁、写真等の載せ方、あれこれ考えているうちに日はどんどん過ぎてもう五〇年も過ぎたが、批判はあって当然だから早く完成しなければと思う。

昭和十九年一月初めより、少し詳しく日記をつけているのであるが、教員や友の名前等はほとんど書いてないし、今思えば他人が読めるような文章を書いていないのが残念である。

軍隊でなければ一月からはどのような希望で過ごすとか、詳しく書いたと思う。昭和十九年は大事な年であり、もう祖国に帰れない年になっていたかもわからない年であったかもしれないのだ。軍隊のなかでは、神国日本が負けているとは口が裂けても言えない時代だった。昭和十九年は明けた。どんな年になるか予測されるような年ではなかった。しかし鹿児島の子科練を卒業すれば、飛行練習生として、上海に行くことは、甲十二期の卒業生は上海に行ったということで予測は上海に行くこ

とがうっすらとわかっていた。

【1944年、戦争中にもかかわらず煌煌としたニューヨーク】



一九四四年一月

昭和十九年

一月一日

午前四時十五分総員起こし。荒田八幡に駆け足と早駆けの中間の早さ
で参拝し、帰隊して四方拝（東、西、南、北を拝む）家族の健康を祈っ
た。午後外出して叔父の家で屠蘇と雑煮を戴いた。帰隊して演芸があ
り、八時就寝。

（四時十五分に起きて第一種軍装で脚絆をつけて整列し眠くて暗闇だ
し、眠りながら駆け足というような状態だった）

一月二日日曜晴（面会）

総員起こし。練兵場に飛び出す。宮城遙拝、乾布摩擦、体操、終わりで
掃除、朝食後当直練習生となる。弁当を持ち、十時十五分隊外で父母兄
弟に面会。

当直練習生であったため、分隊の先頭にて「歩調を取れ」「頭左」
隊門を出て「歩調やめ」「解散」と別れ別れになるのだが、いつも分隊
の後方にいるので、家族は後方ばかり見つけていたらしく、出てくるの
がわからなかったと言っていた。

あれこれと話しながら午後三時三〇分家を出て桜島が美しいと、父母が言った。やっぱり別れるのがつらい。父兄弟と別れるのはそんなでもないが、母と別れるのは大変つらい。隊に入れば煙噴く桜島を見て自然に涙が出た。軍歌がある。

温修のときはこの手紙を書いた。家庭通信の時間なり。今日一日楽しくもあり、悲しくもあった。

一月三日月曜（面会）

当直なるゆえ、十五分前に起きて総員起こしを待つ。「総員起こし」とともに電気をつける。皆跳び起きて毛布をたたむのが、見ていて早い。当直教員に「整列よろし」をとどける。練兵場へ整列さす。大変寒い。号令練習を始める。

当直将校の号令にて宮城遙拝、桜島が噴くのを見ては常に故郷が思い出された。五カ条、御製奉唱し、乾布摩擦を始めたが、大変寒い。体操を終わり、掃除後朝食、白米でポロポロし、餅を食えば堅くて、シイタケだけはうまい。餅は芯があって、半分しかたべられなかった。八時十五分より遙拝式を終わって運動会、八百米、四百米二人三脚して、兵舎に帰り、昼食、また堅固なる餅だが「カズノコ」はうまい。母が面会に来て居ることを知っている、待っているだろうと早く飛んで行きたい気がした。

十三時三〇分隊門を出て母と兄弟妹にあった。顔を見るだけで安心を

し、話はとぎれる。皆と食事をする、このときが楽しくて嬉しかったが、三時三〇分になれば帰隊しなければならない時間となる。

帰隊する途中の歩きながらの母とのゆっくりした話は大変嬉しかった。隊門で別れるとき母は今度会う日まで一生懸命やれと言われた言葉が身に滲みだした。

母は私が敬礼したとき涙が目に光っていた。

夕食後五時三〇分より軍歌、その軍歌を唄っているとき、桜島が黒い煙りをはいたので、その噴煙はずっとたなびいて頂上の幅の五倍の長さ以上で母が見ているだろうかと思った。兵舎へ帰り、寝具をおろして掃除温修へ行く。巡検後しばらく今日一日の疲労を休めた。

お母さん今日は楽しかったですが、時間が短いのでつまらなかったですね。今度会うときにはゆっくりしていこうではありませんか。お母さんお疲れになったでしょう。では元気で家に着かれますように。

一月四日火曜晴

総員起こし五分前にて跳び起き練兵場へ行き、号令練習をさせる。週番練習生なるゆえ忙しい。体操後兵舎に帰り、掃除、朝食大変うまいと思った。米がもちもちしていた。送信、受信、受信、昼食昼食のときより週番練習生となる。運用、運用、分隊長訓話、夕食牛肉とじゃがいもを煮てメリケン粉でドロドロにしたもので、大変うまい。温修へ行く。昨日母兄弟妹と別れたが、昨日布団のなかでいろいろ思い出したが、今日はもう日課に追われて思う暇も無く、休みの時間のときでもなんとも

かんじなかった。

一月五日水曜曇時々雨

今日は風と雨が吹きまくり、大変寒く雨は氷雨となる。雨のため行軍なく正規の外出なり。朝食後練兵場へ出れば大変寒い。先日の母と逢ったことを思い出すも冷たさは同じくらいである。桜島の頂上は曇に包まれる。夕食は食べなかった。

一月六日木曜曇り時々雨

六時頃便所に行ったが、あまり寒くない。総員起こしで跳び起きる。朝食後送信、陸戦（二時間訓話）、昼食、送信、受信、は兵舎にて試験、体操で練兵場一回走ったが暖かなくなり、手は冷たく体の底まで冷えて兵舎で回転があった。指定食堂を廃止、温修のとき、雨が激しく降る。

一月七日金曜曇

朝は雨のため、雨天の位置で兵舎で、宮城遙拝、五カ条、御製を奉唱する。当番を終わって朝食後陸戦がある。銃を借りて来て隊門を出て谷山方面に行く。連絡兵となるも風が吹いて寒く桜島の上は雲にて覆われる。陸戦が三時間ありて昼食、飯がうまい。黄疸がよくなったせいか。送信、受信、体操、上は体操シャツ一枚でブルブルふるえている。隊門を駆け足にて出て動物園の前を通り、商船学校の裏を通って帰って来れ

ば、体は暖かくなるも手は感覚がわからず。夕食は「味ご飯」と「ぜんざい」と汁でぜんざいは甘く、餅が二つあり大変うまく餅らしい餅であった。

一月八日土曜曇時々晴

朝は水がたまっているところは氷が張っていた。氷の上を踏むとバリバリ音がしてわずかに滑る。朝食後遙拝式があり、分隊長訓話課業整列のとき、霜が解けてドロドロの練兵場であった。航空、送信、受信、昼食、飯が以前より少なくなったので、皆「少ない」「少ない」と言っていたが、うまいのはうまかった。大掃除、銃剣術、夕食、兄のことを思う。大変うまい。昼整列が悪かったのでバッター二本とあご四つ打たれたが、当たり前と思った。週番練習生としての任務後二日になりて大いに頑張るつもりだ。三日間は長くてまた短かった。菓子の配給があり、弟妹にも食べさせたかった。母と一緒に食べたい。

昨日温修終わるときに水本教官は皇恩、父母、天地、師恩に感謝せよと言われた。明日日曜日大いにのんびりして一週間の鋭気を養ってこようと思う。

一月九日日曜曇時々晴

朝総員起こしを知らず大分あわてた。急いで毛布をたたんで整列し、番号をかけさせる、(週番練習生の役目)俺は二日と三日が当直練習生で四、五、六、七、八、九日が週番練習生であるため、十日の朝食後交

代するのである。五日も大分忙しかった。今日九日も金銭が大変うるさい。当直練習生とは分隊に二名いて一、二、三班が一組四、五、六班が二組となる。一組二組の当直はその組を整列させたり、陸戦のときは分隊長となり、外出の時は一番前で引率し、課業があるときは課業の教室へ連れて行く。一、二、三班で二七×三＝八一名ぐらいを引率する。班のことを週番練習生がする。即ち外出のときは、外出費を渡したり、時計を渡したり、また新しい書物を渡したり、班の当番を見回り、悪いところを直したりする。もう明日交替なる故今日は張り切っている。朝は十時に外出分隊の逆番号なるゆえ、第五八分隊からでて、第五三分隊であつたので大変はやく出られて良かった。こんなときに早く出して父母が面会に来たときは、遅く出すのが、残念だ。しかし仕方ない。神奈川と串本三人で途中まで行く。靴の修理をしたら六〇銭だった。帰隊して金銭を使用したのを調べ総計を出し、元金より差し引いて、先任教員のところへ、温修始め五分前に持って行った。大変うるさく忙しい。今日一日なにかやで終わった。

一月十日晴時々曇

朝起きて見れば課業整列は雨天の位置で兵舎なるゆえ安心した。朝食のときに週番練習生を交替してほっとして朝食後一週間ぶりに歯を磨いた。訓話、受信、航空術、があり、昼食靴下ふんどしの洗濯をした。午後は送信、物理、武道、夕食冬のはかましたを洗濯し、風呂に行った。

(三一日に入ったきりで十日間入る暇が無かった。) 大変気持ち良くて

胸がスウツとした。温修このごろは飯が大変おいしい。お母さん元気で暮らして度々葉書をください。お母さんの葉書が一番楽しくなつかしいです。

一月十一日火曜快晴（雲なし）

整列して号令練習、宮城遙拝、五カ条、勅諭を奉唱、体操、乾布摩擦、いつも寒くて手が冷たい。乾布摩擦のときは大変寒い。桜島がクッキリと見えて空気が冷たい。兵舎に帰り掃除をして朝食朝飯はちょうどいい。陸戦2時間あったが、鴨池公園から兵舎までの駆け足が苦しかった。送信。昼食は腹八分目くらいで足りない感じがした。受信、化学、体操、のとき第五十四分隊に負けて、夕食時「前ささえ」をさせられ汗を流した。

友達より甲飛を受けたしらせがきて嬉しかった。自分がここへ来たとき親から離れたときの境遇を又友幸が経験するかと思えば、よく父母と話して愉快にしておけるといいたい気がした。父に葉書を出した。今日で洗濯が終わってスウツとした。衣囊の中は汚れ物が入っていない。温修の時に手島教員が支那での経験談を話されたが、大変良かった。（外城から出て歩いて上海の店で酒だけ頼み、鶏を頼まなかった。すると主人が殺して良いかと言うのでびっくりしたが、鶏を殺してよいかという鶏が抜けていたのである。）

一月十二日

総員起こし後洗面所で顔を洗い練兵場へ一走り、空は星が瞬いて桜島よりも右のほうの低い山の頂上が赤くなり、桜島は僅かに白い煙を出している。乾布摩擦が大変冷たい。朝食はちょうど良い。受信（二時間）送信、昼食、少し足りない感じがした。四七分隊のときはとても不公平だったが、五三分隊は大変公平だ。

午後気象学があり、銃剣術が二時間夕飯おかずが肉のあまがらい醤油で煮、メリケン粉でどろどろにしたもので、うまくミルクがあった。飯は多かった。風呂にいつて垢を落とす。温修へ行く。

一月十三日木曜（寒稽古）

総員起こし後練兵場にて寒稽古に対する司令の訓示があり、今日は朝の寒稽古は体操（バック）なり。体操シャツ及びズボンだけで裸足で行われたり。とても足が冷たく石の上では痛くてたまらない。ホノボノと太陽の光線が雲にあたり、雲は赤くなりて東の空より明るくなるも、体操が終わるまで太陽はでらず、兵舎で服を着れば体が暖かくしみじみと服の有り難さを感じず。朝食後受信、航空、送信、昼食、おかずは鯨の赤身があつてうまい。分隊士の訓話、数学、武道、夕食腹一杯ならず。

一月十四日金曜晴

総員起こし五分前に悪いとはしりながら、事業服を着た。総員起こしで跳び起き銃剣術の防具を着け、舎外でゲートルを巻き、練兵場へ整列する。練兵場では周囲に電気がついているが、まだ少し離れたところは

暗くて顔がよくわからない。宮城遙拝、五カ条奉唱が終わりいよいよ訓練開始である。夜がしらじらと明けて電気が消えれば始の隊形にあつまり、兵舎に帰り、顔を洗った。朝食は通常より多いがしかし足りない。掃除して受信、運用、送信、昼食前に父と兄に葉書を書いた。先任教員より事業服を着ていた者は班長より制裁されると言われたが、3班～5班は制裁は受けなかった。気持ちが悪い。(制裁が無い) 昼食後課業整列受信、数学、体操、夕食は足りない。胃の調子がいいらしい。食後風呂に行き帰って来て菓子を食べたが、大変おいしかった。友達より葉書が来た。日曜の外出が待ち遠しい。

一月十五日土曜曇

朝寒稽古は体操シャツとズボンで裸足で飛び出す。風が吹き冷たい。練兵場を駆け足したが、足が痛くて何とも言えない痛さだ。体操があり、週末運動ありて終わったが、事業服を着たときはとても暖かい。食卓番で食器消毒に行く。朝食は神奈川より飯を半分貰ったのでちょうど良かった。航空術、受信、送信、昼食で飯が物凄く少ない。午後大掃除で食器を洗った。(二時間) 武道がある。夕食は多かったが十分ではなかった。明日は日曜で外出なるゆえ嬉しい。友達、弟に葉書を書く。明日の日曜は大変待ち遠しかった。今日はたいしたこともなく終わった。父が一月末に面会にくるとありたるも何日だろうかと待ち遠しい。明日外出すれば靴を修繕しなければならない。

一月十六日日曜快晴

朝六時十分に総員起こし。五分前に起きた。総員起こしがあつて顔を洗って、練兵場へ整列、土がカンカンに凍っている。空は星が輝いている。宮城遙拝、五カ条奉唱、御製奉唱

「過ちをいさめ交わして親しむは真の心の友の心なむらむ」

乾布摩擦、体操をやり、兵舎に帰って掃除する。靴を磨き食後兄から葉書が来た。温修で軍人勅諭（1時間）奉唱して終わって、練兵場に整列した。時に九時三〇分隊を出て柘永班長にあつた。帰り道又一週間頑張らねばならないと思つて、歌を口の中で唄いながら、帰隊したが、三〇人位しか分隊の者は帰っていなかった。すぐ事業服を洗濯した。夕食。

千葉市緑町66 東京帝国大学第二工学部学生寮第二寮第二九室川島誠一殿

西新三丁目四八の一川島義雄 一月十七日夜

拝復無事帰校せられ候由、安心仕候、車中も友人と一緒にて心強くすごされることと存候、食料は大変に役に立ちたる由安心仕候、他日欠乏して困るときはなんとかして送付仕可候間御通知下度し。謙二は第五三分隊五班にて大分慣れて元気なことを兄上に通知してくれとのことにて候。一月七日新聞によれば、応用科学室より大火災の由只今授業は如何な都合に候や、一月三〇日父一人にて鹿児島に面会に行く予定に有之候。向寒の砌り御身御大切に

一月十七日日曜晴

総員起こしで目が覚めて柔道着に着替えて新道場へ駆け足で行く。柔道して大変暖かくなった。終わりに兵舎に帰り、第一種軍装をきて顔を洗う。朝食は足りない。昨日巡検後持ち込んだ芋を食べて寝た。隊内点検が二時間あったが手が冷たかった。航空術があつて昼食陸戦の座学が二時間あり、体操があつた。が輪に乗ってクルクル回つたが面白かつた。夕食はおかずがうまい。班長の飯を少し貰つた。靴下を干したのを忘れていたが、干場に干してあつた。(取られなかつた)

一月十八日火曜晴

朝寒稽古は体操であつた。星がキラキラ輝いてまだ薄暗くとても手が冷たい。駆け足をして体は暖かくなつたが、手が物凄く冷たくて小指はつかない。手首は皆真っ赤だ。終末運動は手が冷たくて運動にならない。終わって朝食だが、食卓番で洗い場を汲みに行く。湯の中に手をつけると、手がいたく感じた。食事が済んで掃除して運用の座学(二時間)受信、昼食でおかずは鯨の赤身だつた。送信、(二時間)柔道があり、晩飯は少なかつた。おかずはいわしカマボコで骨と鱗があつた。うどんがあり、菓子が大変おいしかつた。今日は食卓番で忙しかつた。菓子がまだ食べたい。掃除が済んで温修に行く。

一月十八日消印

拝復元気で五三分隊に大分慣れました由安心しました。九日には叔父

様にお世話に預かりました由、私より礼状を出しました。

中学校でも午前七時から寒稽古をしております。大いに身体を練って下さい。中学の友人が甲飛一次試験に合格した由、誠に結構です。誠一には元気であることを知らせて置きました。お守り、封筒、便箋等は一月三〇日に父一人にて面会に行く積もりですから、其のとき持参します。鹿児島は電車は郡元停留所より西駅停留所まで乗ります。面会日が確定すれば又更に手紙を出します。

一月十九日水曜晴

総員起こし五分前に目覚める。総員起こしで跳び起き胴、ゲートル、小手をつけ、銃剣術、の用意をして出る。銃剣術をして体は暖かくなる。終わりにて兵舎に帰り洗面、朝食は飯が少ない。

物理、送信、受信、があり、昼食は多かった。数学、衣服点検があり、体操（輪に乗ってゴロゴロ回す）晩飯は大変多く豚肉をだいこんニンジンと混ぜて煮たもので非常にうまい。夕食後葉書を出そうと思ったが、温修講堂に置いていたので、癢にさわった。今日夕食後はボンヤリして前に来た葉書を読んで心を慰めた。

一月二〇日木曜晴

寒稽古は体操で鴨池のグラウンドを駆け足したが、今日は又手が冷たかった。食卓番で飯を取りに行った。朝食後配食函を洗いに行った。物理（二時間）受信、昼食、送信、物理、柔道（型だけ）で終わり、夕食と

なり班長より飯を少し分けて貰った。おかずはさつまいもをすりつぶしてあんのようにして中に豆が入っているので大変うまかった。しかし少ないのでつまらない。その代わり汁は多かった。食器を洗い風呂に入った。帰って家のことばかり考えるようになった。

一月二一日金曜晴

総員起こし1時間前に起きて便所に行く。今日朝の柔道にて藤川教員より全部に注意あり。朝食後父母より手紙が来た。母の手紙はやっぱりなつかしい。兄に葉書を出した。父が三〇日面会なり。送信、数学、航空術、昼食は多かった。鯨肉がうまい。受信、(二時間)体操があったが、桜島は頂上は雲に覆われていた。

夕食前、はかましたと体操シャツを洗った。夕食は大変少ない。しかし昼食が多かったので兄とも分けたい気がした。菓子があったが、皆で少しずつ分けて話しながら食べた。温修へ行く。外出が待ち遠しい。

一月二二日土曜日雨

総員起こしより跳び起きて事業服を着て体操後は銃剣術の見学なり。朝食、今日は土曜待に待った外出が明日となれり。気象学があつて、送信のときに受信の平常考査があり満点と思う。(試験のときはケンケンで始まり、緊張が高まる)、受信、昼食大掃除、衛生、(一カ月一回)で体重と血沈、ツベルクリンの注射、肺活量があつた。体重は二キロ増えていた。銃剣術があつた。夕食は多かった。昼のおかずはイカでうま

い。夕食後風呂に入った。熱くて気持ちが悪かった。すぐ温修時間となり、今日は時間が経つのは早かった。

一月二二日消印（母より）

お手紙ありがとうございます。毎日寒稽古に出ているとのこと寒さに負けないようにしっかり鍛えて下さい。私も元気で相変わらず雑事に追われています。朝目が覚めて起きるまでのひととき毎朝貴方のことを考えます。雄々しく元気に新しく貴方が求めた道に頑張り抜いて下さい。貴方が立派な海鷲になる日を唯一の楽しみに母は待っています。お父様は多分三〇日だろうと思いますが、又お知らせします。

桜島の見ゆるあの田舎道も鹿児島あの街も汽車の窓にせまるあの山や段々畑もすぐ隣にある気がします。この次にはお父様が変わって是非面会に行きたいと思います。ではほがらかに元気で頑張ってください。さようなら

（今読めば亡き母が書いた葉書はわが子を思う言葉で、父の手紙とは異なる文でその頃は母を浮かべて読んだことと思う）

一月二三日日曜晴

朝起きて洗面、課業整列は雨天の位置で体操をやり、食卓番で洗い場を汲みに行く。朝食後温修で勅諭を奉読し、外出する用意をして兵舎を離れ、練兵場に整列する。九時四五分頃出発昼食後靴修繕は四円五〇銭だった。帰隊して腹痛があったが、軍歌及び帰隊点検後はなお、夕飯

は半分やった。温修時間いもが食べたくなる。適性検査を受けに来ていた。

一月二四日月曜快晴

朝から晴れ渡って風が冷たい。柔道は型だけで面白くない。朝食後精神訓話があり、整頓についてであった。受信、送信昼食後ツベルクリン反応を見て貰う。2次検査を受けた。大分、佐賀、福岡、からきていたが友達には逢わなかった。発光、体操、があった。夕方前に風呂に行つて気持ち良かった。飯を食べて受験生の所へ行つたが、会わないで引き返す。温修へ行く途中練習生が受験生と話していた。今日は時間が過ぎるのが早かった。

一月二五日火曜晴

当直教官より逃げ逃げで体操服に着替えて出る。マットの上で回転である。星は全然でてなくて真っ暗である。桜島の頂上は雲がかかって能古島を思わせる。体操が終わって洗面し、朝食を半分神奈川にやる。消化散を飲んだ。腹具合が悪い。数学、受信、送信、昼食腹具合が悪い。気象学、物理、銃剣術、夕食後柔道着を借りに行く。帰って来てうどんを食べ菓子を食った。菓子はうまかったが、家族と一緒に食べたい気がした。昨日は腹具合が悪く、良く眠れなかった。しかし晩はすっかり元の体になった気がした。

一月二六日水曜

朝起きて柔道着に着替えて柔道場に駆け足で行く。日曜日の三〇日面会に来るなど書いたが、皆行軍が取りやめになったというので腹が治まらず眠れなかった。柔道が終わって食卓番なる故急いで帰る。朝食後班及び講堂当番となる。(二七日目) 掃除のとき通信が(一)と(二)とある。何講堂か見に行く。掃除後陸戦、陸戦、受信、昼食、送信、柔道、体操、(跳び箱) 兵舎に帰れば、三〇日は行軍と張り出してあるゆえ安心した。夕食は多かった。夕食後ふろに行く。今日はとうとう洗面しなかった。考えてみるに前週は良く腹が減ったが、この週は腹が減らなかった。

一月二七日木曜

朝は体操用意をして整列し、軽い体操に桜島を右に眺めながら、天保山(景色が良いところ)まで走ったが、汗が出た。しかし今日は寒かった。帰隊して終末運動すればちじみあがった。朝食後温修講堂の掃除に行く。軍制、手旗、(もう長くしないので忘れていた) 受信、昼食、受信、柔道があり、夕食サバのテンプラはうまかった。今日は時間が経つのが早かったが、明日寒稽古が終わると、乾布摩擦が月曜からあるのが辛い。

一月二五日消印

母上宛の葉書は到着しました。元気で寒稽古に出席の由、結構です。

礼状は父より出しておきました。信義は大いに頑張っています。本日六年の父兄会で私が出席しました。一月三〇日の朝父一人にて面会に来ます。今日は春のような暖かい好天気であります。時節柄ご自愛専一に軍務に精励して下さい。

一月二六日消印

一月末に香月叔父様が家移りをせらるる由の手紙が福岡の祖父様の家に来たので、家移りがあれば父は面会にきません。また他日に来ます。

本日香月叔父様に電報で、家移りの有無を尋ねておりますから返事の電報が一月二六日にくると分かります。とにかく貴殿は三〇日に叔父様の宅に行き家移りがあれば手伝いして下さい。なければ父一人面会に行きます。電報の返事がくればすぐに面会に行くか否かを知らせます。それでは元気で頑張ってください。

一月二八日金曜（寒稽古終わり）

昨日遅くまで靴下の修理をして朝は眠かった。今日は曇っていた。銃剣術の用意をする。練兵場に整列、宮城遙拝五カ条奉唱、御製奉唱、して銃剣術開始。終わって兵舎に帰り洗面する。朝食後温修講堂の当番に行く。軍制、信号、昼食はおかずは大変うまい。受信、運用（防毒）体操（[鴨池の球場](#)）があり、夕食はトマトケチャップと酢ものでうまかったが、メリケン粉が多くて汁が少なかったが大変甘くておいしかった。もう一杯食べたい。父母から葉書が来た。母は朝私のことを思い出すと

あるが、俺も朝家のことを思うし、寝るときには毎晩思う。

一月二九日土曜雨

朝起きると雨が降っていて寒い。兵舎で宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、掃除、食卓番で食事の用意をする。柔道試合で返されて負けた。昼食後大掃除食器、弁当箱、ヤカンを洗いに入った。(食器を大掃除して入る間に消毒して終わるヤカンの外側を砂で磨いたりした。この食器を洗うときに紛失することがあるので油断できない)

一月三〇日日曜晴

朝は眠かったが総員起こしと号令で眠たいも何もありません。強制的に反射的に飛び起きて毛布を畳み、服を着て洗面所で洗面し、用便して兵舎に帰り整列して宮城遙拝、五箇条、御製奉唱、して食卓番用意掃除に行く。朝食後温修勅諭捧読(1時間)して外出用意をする。菓子はパン一個なり。九時十分頃出発叔父の家は荷造りで部屋は一杯で、手伝いに三人来ていた。四時十五分に帰隊夕食後軍歌

一月三一日月曜曇

今日は皆横でガタガタという音がして目覚めたが起きてみれば総員起こしで皆毛布をたたんでいたもので、飛び起きて毛布をたたんだ。

練兵場に整列号令練習をして宮城遙拝、五箇条、御製奉唱、乾布摩擦が非常に寒かった。体操して兵舎に帰り掃除後朝食。

精神訓話、送信、化学、昼食、受信、武道、軍制。

夕食はおかずはうまかった。風呂に行く（三日に一回）神名川より米に砂糖をつけたものを貰った。

【集団学童疎開先での児童の様子】



一九四四年二月

二月一日火曜快晴

総員起こしから兵舎を出るまで54分隊と競争で大急ぎでたたんで服を着て洗面、用便し、練兵所に整列。桜島がくつきりと浮かび、風がとても冷たくて大地は雪があつてカチカチになっている。乾布摩擦は本当に寒い。通信講堂当番に行く。食卓番で早めに当番をやめて、食卓用意する。朝食後温修があり、課業整列。

受信、手旗、体操、昼食、陸戦、陸戦で分隊下士官（輪番）になり、汗が出た。送信。夕食はおかずはうまかった。晩は菓子があつた。温修へ行く。今日は寒かったが、午後は暖かくとてもよかった。

二月二日水曜曇後雨

朝洗面し練兵場へ行く。曇っているが風が強い。福岡でもビュービュー一風が吹いて寒い日はあるなあと思った。しかしそんなに寒くない。乾布摩擦体操、兵舎に帰り、通信講堂掃除に行く。

昨日配食が遅くて班長の飯食器を反対に置いたので今日も食卓番、洗い湯を汲みに行く。食事用意ができたのは一番である。

朝食後温習、送信、運用、受信（週間査定一週間一回試験）がある。これによって特班（掃除、温習時間に受信する者）が決められる。特班は酒保止（菓子が貰えない）である。

受信は人の能力によって差があり、どんなにしても1分間70字以上

になると誤字がでる人は、努力のしようがない。でも軍隊ではそんなことは関係なくバッターで誤字がでた数だけ叩く。どうしても取れない人は非常に惨めな思いをさせられたことと思う。私は一〇〇字で字が飛び、一二〇字では取れなかった。慣れればとることは可能かも知れないが、もし一二〇字だったら相当に酒保止め、バッターをされてもできなかったかもしれない。数人の人は取れていたと記憶しているので、そのレベルになるまでは相当の努力が必要だったと思う。班員で特班の人に班員の菓子を分けてやっていたことがある。

昼食、水曜日で定時点検（服の汚いもの、靴の汚れ等を点検する）受信。五四分隊士が大楠公の訓話。このとき寝台、衣囊（各個人の番号私は佐志飛一〇七一五と底に記してあり、黒の麻の袋で約三五cm×二五cm×八〇cmの大きさ）を調べられた。

雨が大分降ってきたのでカッター（短艇）を陸揚げに行く。桜島はかすんでいた。波は荒れていた。頭から濡れたころ雨衣を着た。カッターを引き揚げた。帰隊後風呂にはいつて夕食はうまかった。夕食後総員整列、廊下に整列。寝台に物を置いた者、金をもっていた者はバッターでしごかれた。

温習へいく。温習時間外は猛烈な雨だった。手紙を書いて寝た。

二月三日木曜日曇後雨後曇

総員起こし十五分前に起きて毛布をたたみ一番上の毛布だけ来て仮寝する。総員起こしで跳び起きて洗面し、課業整列は雨天の位置と放送が

あり、練兵場には行かないので、ほっとする。兵舎で宮城遙拝五カ条、御製奉唱、があり、通信講堂を掃除に行く。

朝食。送信、軍制、送信、午後受信、航空、体操があった。分隊士の話は身にしみた。

二月四日金曜日曇り誕生日

総員起こし四時三〇分、洗面、水筒に茶をいれ、ゲートルをつける。食事、雨合羽を持ち、弁当を胴囊に入れて水筒を持って整列、ただちに出発。五時四五分隊を出発、鹿児島駅まで大急ぎで行く。七時二〇分発の汽車に乗る。車中では大分居眠りした。川内に着く。

新田神社へ行ったが、石段が三〇〇段ばかりあって、登るのにふうふういった。由緒の講話があり。参拝して弁当を食べ、菓子を食べた。

川内駅まで一時間自由時間が許された。用便して休憩しただけだった。汽車に乗り鹿児島駅まで降りて帰隊する。

夕食後風呂に行き、菓子はあったが一つだけ面会日のために残した。今日四カ月ぶりで汽車に乗った。(車内で寝ていたので世間のことや風景、等何一つ書いていない。日記につけるだけの詳しく書く余裕はなかったと思われる)

二月五日土曜日

朝乾布摩擦はそうまで冷たくなかった。朝食後温習に行つて眠かった。軍制、送信、受信、があつて昼食大掃除あり、一時間手箱の整理、

靴磨きで終わった。夕食後ブラブラして温習へ行った。明日の外出を待つ。

二月六日日曜日 面会

総員起こしで起きて洗面、練兵場に整列宮城遙拝、五カ条奉唱御製奉唱、乾布摩擦は大分冷たかった。桜島がくっきり見えたり。朝食温習へ行く。軍人勅諭奉唱（1時間）九時四五分止める。外出用意をする。弁当持って練兵場に整列、分隊逆番号順だったので早く隊門を出た。

母が隊門の所で待っていた。解散して母のところへ行った。会った瞬間母は涙ぐんでたようだった。母は道がわからず遠回りしてきたという。大変気の毒に思った。母は福岡は雪が降ってとても積もり、真っ白になったという。屋根から雪が落ち、野菜が折れたそうで母から直接聞くことが大変嬉しい。

母が真心込めて作ってくれたフカシパンを食べたがおいしかった。便せん、お守りを貰った。靴下を母が縫うというのでよいといったが、縫ってくれた。母のおおいなる愛に感謝せねばならないと思った。三時四五分帰る用意をする。家を出て母と話ながら歩いて隊門の所まで来て私に「しっかりやらにやいかんよ」と激励してくれた。

隊門に入り、歩調をとって当直下士官に敬礼外出札を取って、回れ右をして敬礼し自由となる。

隊門の外に母がいて立ち止まってまだ見ていた。私が隊門を見たとき、母はわかっただろうか。気づかなかったかもしれない。

桜島が噴煙をあげていた。母はこの噴煙を見ているだろうかと思った。

夕食は半分しか食べなかった。

温習に行く。一時間で帰り、明日の分隊点検の用意をする。用意も済まして寝台へつく。巡検後神名川に剃ってもらった。持って帰った芋を神名川と分けて食べたがうまかった。フカシパンもいまい。

母は今頃どうしているだろうかと考えていたらいつの間にか寝ていた。

二月七日月曜日

朝は眠かった。練兵場へ整列する。宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、乾布摩擦、体操終わって兵舎へかえり、当番をして朝食。

分隊点検があった。航空術、昼食、受信、受信、体操（機械体操）

夕食後カラーと襦袢を洗濯、温習母と兄にはがきを書いた。

二月八日火曜日

総員起こし。朝別課（朝礼）は非常に寒く空に雲がなかった。

受信、受信、送信 昼食 数学、武道、航空術 夕食は大変多くて丁度よかった。家族は飯がすくないそうだ。家に帰ってもそんなに沢山食べられんよと言った母に分けたい気がした。時々こんなふうな気がするときがある。

拝復大分寒くなりました。千葉には風が強く吹く由お困りのことと思います。学校食堂で食事ができる由安心しました。二月七日午前九時西中洲公会堂に集合せられよとの市役所兵事課より通知がありましたので昨日出席して徴兵適齢届けを出しました。受験地は現在地（千葉）としました。二月四日餅搗きをして五日朝母一人にて二泊で面会にいかれ、七日夕方帰宅されました。謙二は大変元気で精励しています。近頃は大分慣れて身体も余程楽になりました由、大層面会を喜んだそうです。小包の手紙は、適齢届け提出の結果と、一緒に発送する予定のために小包のみを先に送りました。信義は大いに勉強しています。

先日父兄会のときに担任の富田先生が大丈夫ですから入学後母校の名誉を落とさないように充分実力をつけておいて下さいとの事でした。当方4人共達者です。

時節柄自重自愛して下さい。

二月八日

誠一殿

父より

香月五郎様は鹿児島市郡元町唐添鉄道官舎丙号に移られました。

千葉市緑町六六 東大第二学部学生宿舎二寮二九号

第五三分隊第五班

兄さん長らくご無沙汰しました。六日には母上様と面会しました。鹿児

島は朝は冷たいですが昼は暖かです。もう兄さんは試験も終って安心したでせう。私は毎日の仕事をどうにかすごしてゐます。そちらは寒いのでせうから風を引かないよう気を付けて下さい。福岡では雪が降って真白になったそうです。

叔父さんの家は航空隊から大分近くなりましたので、面会時間が大分長くなりました。兄さんと面会した時時間が今日くらいあったらと思いました。

兄さんではお體を大切にしてください。

二月九日水曜晴

朝別課を終って兵舎の掃除朝食は多い。

受信、気象学、送信、昼食飯が多い。

受信、受信、送信の試験があつた。夕食はおかずがうまい。うどんをいれてカレー粉、メリケンコににんじん大根等を一緒に煮たものである。飯は朝昼に比べると少ない。食卓番であつた。靴下を縫ってないのでどうも落ち着かなかつた。

二月十一日金曜快晴

朝は寒かつた。食事をして事業服を干して盗られた。0835に遙拝式があつた。御写真奉拝より帰り、班長に言った。食事白米なり。おかずもうまい。にんじん、りんごで、じゃがいも等を小さく切り白いものがかけてあつて冷たくていい香りがする。(今ではサラダと言えるがそ

のときはサラダという言葉は知らなかった。)

午後外出。帰りがけにうどんを食べた。大変暖かかった。温習へ行く。神名川より卵を貰った。

二月十二日日曜雨

総員起こしで起きたが、体操を終わって食事をする。

運用、受信、送信があり昼食。

大掃除あり。防空壕を掘り、夕食、温習。

二月十三日日曜晴

総員起こし十五分前を知らず、神名川から起こされた。それより毛布（三枚）をたたみ、一番上の一枚をかぶって寝る。総員起こし五分前、総員起こし。通路に整列番号かけて解散、洗面に行く。洗面して目が覚める。課業整列は雨天の位置。兵舎前で体操終わって掃除。朝食。温習で勅諭を読む。

それから土俵開きがあつて、双葉山、鶴ヶ峰、松浦瀉が練習生としたが、オモチャのようにあしらわれる。約二時間。

一一〇〇外出員整列これより包物点検があり外出。何か隊を出るときは、憂鬱だったが出てからは明朗となった。叔母さんに靴の敷皮三枚買って貰う。今日外出して心が晴れた。母が心を込めて下さったものはなんでもおいしい。きな粉をご飯にかけて食べたのはおいしかった。隊まで二九分で行く。風呂に入り、夕食、軍歌があり、予科練の歌を唄う。

(注) 日記の書き方が簡単となる。四〇年前このころから体調も良くなり、軍隊生活に慣れてきたためか、日付のないのがあり、天候も曜日も書いてないようになってきている。日記の内容も簡単となっているが、やはり故郷を離れて十、十一、十二、一、二と五カ月近くなってやっと落ち着きが出たということであらう。そしてこの頃から父母への通信も少なくなっていく。

拝復 父より兄へ

寒気烈しく御座候所益々壮健の由奉賀候此度動員の方は学校止まりにて研究に熱心される由誠に幸福存じ候。大いに頑張って国家の為め御尽しに下度く、真空管のお蔭にて大層澄んだ聲と相成り家族中大喜びにて候。真空管の破損の分は送り返す可きかものか御尋ね申し候。真空管の代金は充分先方に御遠慮なく支払い被下度、靴は大変難有く受取申し候。

香月亀吉様も食事余り進まず、身体も衰弱し来り、長く持続は出来兼ねるものと存じ候。母上も毎日看病に参り居り候。鹿児島島の千代(叔母)さんも二、三日前来られ候。

濱文子さんも一週間くらい前から来られ候。信義は大変成績が良いらしい模様候

時節柄御身大切に

大助さんは南に立ち候。

誠一殿

二月一四日 父

より

二月十五日火曜

午後より相撲見学に行った。大変面白かった。夜は音楽の演奏でいろいろあったが、家のことが思い出された。軍楽隊は大変上手だった。

二月十六日水曜気温一一・六℃

総員起こし洗面して練兵場へ行く。宮城遙拝五カ条御製を奉唱して体操せずに兵舎に帰る。食後兵舎移転二時間今日は寒がしまっていた。手がこじけてしまった。

送信、昼食軍制、陸戦、陸戦。夕食は少ないがおかずは肉と野菜とうどんを煮た物で大変おいしかった。航空母艦が出港した。

この頃から港に航空母艦が入港しては出港したのであるが、どんな名前か見分けはきかない。次々と入港しては出港していく。

二月十八日金曜

朝は寒くなかった。兵舎北側で体操を済ます。朝食は大変多くて山盛りだった。温習今は班当番なり。

航空、受信、受信、送信、昼食 陸戦、陸戦 大分疲れた。

航空母艦と駆逐艦をはっきり見た。体操闘球で負けた。夕食靴下洗濯酒保止めで菓子が食べたかった。桜島に雪が降った。

航空母艦と駆逐艦が入港。

二月十九日土曜

虎部隊出港

総員起こし略帽を間違えられた。練兵場へ行く。帰ってくるとすぐ帽子をかえる。

朝食受信、受信、送信。昼食 大掃除（カッターを洗いに行った）大変寒かった。

航空母艦に虎部隊の人が乗るのを見送った。皆帽を振った。私はなんだか涙が出そうになった。すぐ戦地へ行くのかと思えば見送りの人が大変少ない。十名も来ていない。[私達が入隊したとき隣は実施部隊で、隊門前に虎部隊と厚い木の板に書かれて掲げてあった。この虎部隊の零戦での空中戦の練習等を見ていたが、非常にうまく上手だなあと感心して見ていた。急降下するときでも水面すれすれまで降りて操縦桿を引き上げて行く練習なんかも見事だったことを覚えている。教官機が前に急降下してあとについてくる機も一体となっている感じがしていた。次に来た晃部隊よりも上手であった。

これらの人が航空母艦に乗るときは、当然最後だとはそれぞれに感じとっていたに違いない。私達はどこへ行くのか全然聞かされていないし、また極秘であったであろう。二月十九日に出港しているから昭和十九年二月二〇日以降の海戦で戦死していると思われる。

彼らを送る人は空母、駆逐艦を含めば何百人の人が見送りたいであろう。乗組員、搭乗員は別れる言葉も言えず、予科練の教員、練習生の「帽振れ」の号令による白い帽子の揺れるのを見ながら、笑顔を見せて航空母艦に乗船していったのである。彼らはただ祖国愛をもって勝つことを信じていたであろう。]

(後で聞いたことだがアメリカの操縦士の捕虜になったものからはそんなベテランでなくても若いものが操縦ができていたという。操縦がメーター等できるようになっていたのだろう。)

二月二〇日日曜

今日は大変雪が降って少し白くなった。総員起こしは眠かった。食卓番でお茶くみにいった。朝食は多かったが足りない。

温習へいくとき雨衣をきた。勅諭を書く。外出を許される。神名川と二人で靴屋に行き、靴修理をして貰う。隊へ帰るときは少しみぞれが降って寒かった。桜島は相変わらず白い煙を噴いている。風呂に入る。夕食はたいへんうまい。

二月二一日月曜

雪が積もっている。福岡を思い出した。駆け足終わりで掃除、このとき激し雪が降った。温習に行けばもう降り止んでいた。家で火鉢を囲んでいた姿が恋しく思われた。精神訓話、気象学、武道。化学、送信、航空があり、夕食は大変多い。風呂は熱くて大変気持ちがよかった。温習へ行ってもホカホカしていた。

二月二二日火曜

朝温度〇℃なり。朝食は大変多い。数学、送信、軍制、昼食は大変多い。

物理、受信、体操

夕食今日は洗濯して大変気持ちが良い。もう何も汚れものがない。菓子があっておいしかった。温習。毛布の中で家のことを考えながらいつしか寝た。

二月二三日水曜

総員起こし洗面、練兵場まで駆け足、空は雲がなかったが、体操が終わる頃には少し出て来た。手が冷たい。桜島がくっきりと見える。朝食後用便に行く。温習朝別課に出る。物理、送信、受信、昼食航空、四時限、五時限は防空壕を掘った。

夕食後靴下の継ぎ当てをしようとするスピーカーより「総員退避用意」「総員退避」各班整列し、駆け足で退避場所へいき、すぐ駆け足で兵舎に戻る。退避訓練があったので、何もできず温習へ行く。まだ受験生がいる。

二月二四日木曜

朝雨が降っていた。大変暖かくぐっすり寝た。総員起こし、洗面し、雨天の位置で兵舎で体操朝食は大変うまかった。航空術、受信、体操昼食おかずは食べにくく骨だらけだ。食後バター二本づつ。送信、化学、受信（この時間は部署訓練、防毒面をもって毛布をもって退避訓練である）夕食は大変うまい。おかずは肉が入っていた。温習へ行く。

二月二五日金曜

朝起きれば大変寒い。昨日父と友達より葉書がきた。外はチラチラ雪が降り、桜島は雪が積もっている。体操、朝掃除、食卓番で洗い湯を汲みに行くとき、綿雪が降り出して大分濡れた。温習へ行く。綿雪がずっと降っている。送信、航空術、武道、昼食、運動靴を履いて鴨池の東の海岸に行く。カッターを下ろす。桜島を見上げて漕いだ。受信、夕食、退避訓練があった。

二月二六日土曜快晴

朝はそう寒くなかった。高積雲、層雲が出ていた。温度は三、三℃朝別課、朝掃除、朝食温習へ行く。受信、物理、訓育、昼食毛布を乾かす。体操の用意をして練兵場で懸垂8回やった。衛生（検査）で体重が二キロ増えて胸囲が一cm増えていた。夕食バスへ行く。温習夕食はおかずも二回貰って来たので魚が大変多かった。

二月二七日日曜快晴

総員起こし洗面す。宮城遙拝、五力条御製奉唱、乾布摩擦、朝の体操をする。掃除、朝食、弁当の飯は皆おかずを押さえ付けてやっと入るくらいで大変多かった。出る前におおがかりな点検があり、終って歴史館へ行く。（七高の横）見学して解散、十二時三〇叔父の家につく。十九日に父が面会にくることを知る。隊にかえり、風呂敷を洗濯、夕食を余した。帰隊点検あり。温習へ行く。雨が降り出した。

二月二八日月曜晴

朝はもう大分春らしい気がした。洗面、朝別課（宮城遙拝、五カ条御製奉唱、乾布摩擦、朝の体操）が終わって兵舎に帰り、朝掃除をする。友達と弟より葉書がきた。朝食卓番で鍋を洗いに行く。運用、体操（跳び箱にて事業服を破る）夕食おかずはハムで大変おいしかった。温習へ行く。兵長卒業（十二分隊だけ）

二月二九日消印

お手紙拝見しました。鹿児島にも雪が降った由、福岡も二〇日頃雪が降りました。しかし今は春の如き上天気です。四人とも健全です。益々元気で軍務に御精励の由、安心です。友人と共に叔父様宅に行った由、話し相手が有って愉快だったでせう。また友人も喜んで居られる事と思ひます。差し支えのときはその旨を通知して下さい。誠一からも便りが有った由嬉しく存じます。信義も勉強しています。

御自愛專一に

一九四四年三月

三月一日水曜

軍制、送信、受信

化学、体操、体操

三月二日木曜 晴

霧島神宮参拝

朝四時十五分総員起こし、早くて眠たい。洗面、食事用意、夜が明け切れぬうちに出発。鹿児島駅に七時三〇分汽車に乗る。

清水班長が横に乗った。桜島を右に眺めながら、汽車は海辺を通る。桜島が見えなくなるとトンネルが大分あって神宮駅に着く。「道足」(談話許可)にて半道行って五間休憩、それより軍歌を唄い神宮に行く。坂道にて遠い。十時三〇分着それから参拝、昼食後、自由解散で驛まで自由に帰る。足が痛いので引きずりながら神宮駅に着く。うどん一杯とだんご汁を二杯食べて六〇銭だった。大分甘かった。絵葉書を買った。十五時三〇分汽車に乗る。鹿児島駅について3列にならんで帰隊する。軍歌で大分足の痛みがまぎれた。帰隊してゲートルを取って洗面し、夕食りんごとうどんがあった。バスへ行く。温習、自由温習で葉書を書く。

霧島神宮の店で絵葉書を買って出したので葉書の中では「湯煙もうもうとたちこめて神秘的景観をなす探勝者を驚かす賽の河原」と説明がしてある。

三月三日金曜 晴後曇

朝は眠かった。洗面して朝別課掃除朝食後銃を一一七分隊（乙飛）に借りに行った。午前中陸戦があり、昨日行軍のまめが痛かった。昼食後銃を返す。送信、送信、相撲があつた。夕食後靴下を洗濯した。掃除して温習に行く。今日から一種軍装に着替えない。

（注）乙飛行予科練習生として入隊している分隊があつた。小学校卒で訓練期間が長く、昇級も甲飛に比べて遅い。乙飛のところに銃を借りに入つたときの感じでは、自分たちの部屋より雑然としているなという感じがした。年が若いから当然だろうがそのときはただ雑然とした感じだつた。後日乙飛の教員がいたが、なんとなく他の教員との間が離れている感じがした。

三月四日土曜 雨

総員起こしのときは眠くなかつた。十五分前より目が覚めて家のことを考えた。跳び起きて見れば外は雨で雨で朝別課は雨天の位置なり。兵舎にて乾布摩擦をした。宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、掃除がすんで洗面、朝食後温習、気象学、航空、航空術があり、大掃除、信号規程があつた。夕食まえに事業服を洗濯する。父母友達からはがきがきた。兄からもきた。

三月五日消印

大分時候が春らしく暖かいようになりました。相変わらず元気で軍務

に精励のこと何よ諒解しました。小使銭も不足しない由安心しました。叔父様の家は日曜にはお伺いして色々と有益なお話を聞くことは大変良いことと存じます。時節柄御身御大切に三月四日夜

三月五日日曜 晴風強し (帰隊が最後で外出箱を持ち帰る)

総員起こし前用便に行った。総員起こしがあつて兵舎裏で体操、掃除今日は大変良い天気なり。洗面朝食後一種軍装に着替える。温習へいく。教育主任よりタバコを吸って禁固室に入れられたものがある。これから断固たる処置をとると言われた。外出今日はおかず入れはないのにあると勘違いして青くなった。味ご飯のときはおかずはないのに叔母さんが洗ってどこかに置いていると思い、叔母は出ていないし、「叔母さん」と呼んで泣いていた。帰隊時刻に間に合わなくなるとどんな制裁があるか、ただそれが恐ろしいのと皆にも迷惑かけるし、困ったことになると思い、少しでも早く叔母が帰ってくるのを祈った。叔母が帰ってきて「おかず入れはなかったよ」の言葉で「あっそうたい」と隊門まで必死に走った。後少し遅れると帰隊時刻をきるところだった。帰隊したときは分隊最後で外出箱を持って、分隊に帰った。外出箱を持って帰ったのは初めてで最後だった。

とにかく帰隊時刻に間に合つてよかった。今考えても遅れたらどうなっただろうと思えば寒気(さむけ)がする。あの頃帰隊時刻を切れば銃営倉だったと思われる。それを考えるとあのときの気持ちは言葉では言い尽くせない。

父に手紙を書く。後日母とこのときのことを話したら、母は「私がいればずっと一緒にいるのに」と言った。やはり母である。

三月六日月曜曇後晴 面会禁止令

朝起きて用便に行く。しばらくして総員起こし。練兵場で朝別課、朝食、温習、課業整列、分隊長の精神訓話、数学、武道、昼食、送信（試験五つ違った）受信、受信（試験二つ違った）夕食おかずは大変おいしい。しかし少ない。餅はおいしかった。靴下の修理、父へ三月面会禁止のはがきを出した。

三月七日火曜曇

総員起こし、洗面、足が痛い。受信、送信、物理、昼食、気象学、受信、体操（清掃をする）夕食大変おかずがおいしい。只今教程十カ月なることを伝えられた。夕食後十四、五分隊の出発を見送る。皆頑張り、しっかりやれと元気な声であった。別れて兵舎総員整列バター三本そんなに感じなかった。

（注）第十四、五分隊は甲十二期後期であり、上海に行ったのだと思う。この十四、五分隊が甲十二期の後期であるが、又上海に行ったのか等今現在ではもう覚えていないので同期生に聞こうと思う。

三月八日水曜曇

朝風が吹いて福岡では寒かった日と同じだ。朝掃除、朝食、温習は兵

舎で大詔奉戴日故分隊長訓話があつた。課業整列、受信、送信、海軍交信規程、昼食軍用点検の稽古なり。

夕食後合戦準備（防空演習）があつた。

（注）海軍交信規程とはピンク色の表紙で秘に属するもので交信規程が定めてある。

家のことばかり考えた。なぜか悲しい気が充満する。月はボンヤリかすんでいた。温習。

父より兄へ

拝啓まだ寒く春の暖かさが感じられないが、御地は一層寒いことと思ひます。本日謙二よりの手紙によれば面会は絶対に禁止せられ、親族の家等行くことを禁ぜられ、唯倶楽部にのみ行くことになりました。従つて十九日の面会は中止します。今後は手紙だけで便りするばかりです。右の旨東京にも知らせてくださいとのことでした。当方四人とも達者です。信義は二〇日から考査です大いに緊張しています。御身御大切に

三月九日木曜晴 照明弾実験

普通と変らず朝食後温習なしで短艇（帆走）である。朝の海辺は空気は冷たい。帆を組み立てるのに1時間、帆走なので漕がなくもいいので気分はいい。寒い。昼食、送信、送信、体操、夕食。夕食前にシャツを洗う。浴用石鹼と洗濯石鹼の配給がある。夕食は大変少ない。おかずは旨い。食後風呂（バス）に行く。照明弾実験があつた。非常に美しい。

温習今日も家のことが思い出され、心は沈んでいた。原因はわからない。

三月十日金曜晴時々雨

総員起こしで起きて洗面、大分足がよくなった。食卓番、朝食後温習、温習を早く止めて陸戦の用意。海辺を走ってきつかった。一時間は訓話、二時間やって兵舎に帰る。昼食送信、受信、斗球、夕食大変おいしい。靴が大分擦り減ったので憂鬱だ。体はぴんぴんしているのでなによりだ。父よりはがきが来た。洗濯石鹼の配給がある。ゲートルを洗濯。菓子がうまい。兄はひもじいだろうと考えた。

三月九日夜

拝復まだ寒さが強いですが、元気で軍務に精励の由うれしく存じます。当方四人共無事ですから安心してください。此度面会は絶対禁止の由につき今後決して面会に行かないことに定め、手紙だけにて便りします。誠一のほうにも知らせます。香月様方にも唯倶楽部にのみ行くことを定められた事を知らせます。信義も二〇日から入学考査ですから緊張しています。

御身御大切に益々御奮励の程願います。

母より兄へ

誠一様小包は今日あたり着くだろうと思ひながら書きました。あなた

の便りが着いてからすぐにマアケットにふりかけを買いに行きましたが、丁度切れてありませんでした。何か送りたいと思ひながら、何もありませんものから、あなたが待っているだろうと思ひながらつい遅くなりました。七日にふりかけは店にいきましたけれど正月のときのような袋がなくて大分質がおちていますけれど仕方ないので少し送りました。切ったお餅は雑餉隈の高田さんがお父様に頼みに来るのに土産にいただきました。

丸いお餅も糸島のほうから富美ちゃんの親類の人が工業を受けるのに頼みに来られていただきました。信義達は少しづつやってあなたと謙二に送るつもりでした。半分だけあなたのほうに送って半分は十九日にお父様が鹿児島にもって行かれることにしていましたのに、あなたに送った翌日謙二から手紙で面会が出来ないといってきましたので、がっかりしてしまいました。

鹿児島にいるあいだなりと好きなものをもって行ってやりたいと思っていましたのに、かはいそうでかはいそうで、お国の子だと思いながらもまだ十七になったばかりの子供だと思うと泣けて来ます。今まで行けば会はれると思ふと心強く面会の日を楽しみにしていましたが、掌中の玉を取られたように淋しくなりました。

謙二のためには会って却って家を恋しく思い出させるばかりで会わない方がよいかもしれません。謙二にやれないのだったら少しお餅もあなたのほうに送ってよかったのに、信義やさちことみんなで分けていただきました。小包を送った翌日お父様の会社でお菓子の配給が少しありま

した。黒砂糖菓子ですがから少し取っています。この次に何か送るときに一緒に送ります。イリコはお隣の長谷川様からいただいたものです。するめは一枚大きいのは長谷川さんに小さい2枚は山岡さんから戴きました。五日が米の配給でしたが、丁度その日から脱脂大豆が入って来ました。ひとつつまんで見ると、食べられるので信義とさちこに選らせて、長谷川さんからも井一杯ほど戴きましたので家のと一緒にして煎って送ってみました。黒豆とあられもまだありましたが、これも残って居ましたので次のときに送ります。干した魚ははやくに古野から3百匁分けてもらって居ました。早く送ったらよかったのに信義たちに食べさせて乾物がよいことなど気づかずにいました。また何か入ったら送ります。昨日あたりから雪がちらついて大変寒うございます。風邪引かないように勉強してください。

さようなら 三月十一日誠一様

謙二に激励の手紙を出してください。

母より

母の私を思う心をこの手紙で始めて知ったのですが、こんなに私を想っていていようとは全くわかりませんでした。

次のページは原文の縮小コピーしたものです

三月十一日土曜雨雪後晴

総員起こしのとき雪が降って積もっていた。朝別課は兵舎である。乾

布摩擦体操後掃除手が大変冷たい。朝食海軍交信規定（軍極秘ピンク色の表紙）受信、送信、昼食第一種軍装に着替える。

軍用点検、朝鬲王殿下（少将）の点検があった。二時間（この間直立で立っておくのが非常に辛いのである。）体操（跳び箱）夕食後バス（風呂）に行く。温習今日は大変寒かった。

三月十二日日曜快晴風強し

物凄く晴れていた。宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、乾布摩擦で寒かった。今日は大変眠かった。掃除のときも寒い。朝食後歯を磨いた。靴も磨いた。温習後課業整列、温習講堂にて通信規定の試験があった。よかったと思う。

三月十三日月曜曇

総員起こし、宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、朝掃除のときは当直伝令なる故、週間予定表を書く。朝食後当直伝令を交代す。分隊士の部屋に日課表を持って行き、郵便物を出す。温習、朝別課、精神訓話、送信、部署訓練、昼食、受信、航空、航空（教員は熊本教員）大変おもしろかった。夕食。

三月十四日火曜 局地戦闘機飛ぶ

朝眠くなかった。通信講堂の掃除で早く終わる。朝食、受信、受信、軍制、昼食

班長が飯を食わないと言って困った。(送信成績が六番だったため) 六班がビリだった。大掃除(一時間)体操(二時間)防空壕修理班で終わった。飯を食うのが憂鬱だ。夕食後局地戦闘機(紫電か雷電だったと思う)を見てバス(風呂)に行き温習。

父より兄へ

近来ハ大分暖カニナリ、春ノ時候ニテ結構デス。早クハンカチヤ齒磨粉ヲ送ル積モリデシタガ祖父ノ死亡ノ後大變ニ手間ヲ取りマシタカラ延引シマシタ。特配ガ有ルヤウデ喜ンデイマス。東京地方ハ敵飛行機ガ毎日来ルヤウデスネ。福岡ハ未ダ安全デス然シ最早油断ハ出来ナイト思ヒマス。本日書留小包ヲ送りマシタ。頑丈ニ紐デ荷造リシマシタ。近頃竹下ノ会社ニ来ル小包ガ良ク破レテイルコトガ多イノデ、若シ謙ニガ来福スレバ電報ヲ打チマス当方四人ハ壮健デス。時節柄身体ヲ大切ニシテ益々研究シテ国家ノタメニ盡シテ下サイ

三月十四日夜

川島誠一殿

川島義雄

三月十五日水曜(外出)

朝、宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、乾布摩擦、体操のときに太陽が昇り始め、体操が終わるころには、赤く円になって景色が非常に美しかった。掃除に行く。簡単なものだ。朝食、第一種軍装に着替える。弁当を持つ。練兵場に整列して出発。倶楽部に行く。なかなか広い家だ。弁当

を食べる。帰隊して事業服を洗濯した。夕食後ボンヤリ過ごした。

三月十六日木曜

総員起こしは眠かった。朝掃除をして当直練習生を交代す。軍制の講習で黒板を持って来なかったので、ビンタを2つくらった。送信、体操、昼食、受信、数学、受信、夕食、総員整列で班長より注意を受けた。班長の飯を持って行き、後片付けをしてなかった。無理もないと思った。当直練習生は忙しい。中尾教員退隊（兵曹長となる）

三月十七日金曜雨後曇

朝五時二〇分に目が覚めた。用便に行って洗面し、兵舎で毛布をたたむ。当直練習生ゆえ五分前に教員を呼びに行った。総員起こしのラッパがなるや「総員起こし」と叫ぶ。みんな跳び起きて毛布をたたむ。物凄く速い。俺もあんなにしているかなあと考えた。整列して練兵場へ行く。号令練習をさせる。宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、乾布摩擦、体操、掃除、朝食、分隊長会食、当直練習生交代、歴史、送信、受信、昼食、衛生、（体重、肺活量、変わらず）夕食、散髪、髭を剃る。

母より兄へ

お元気に勉強のことと思ひます。十五日お米の配給日に米と一所に干し芋を配給されましたので、小包でお送りします。お餅は少しですけどお父様が学校お世話していられるところから戴きました。この前の丸い

お餅と同じところからです。お餅と一所に入っているお芋は少し戴きましたので、蒸して干しました。そのままか、焼いてか食べてください。箱に入って居る配給の干しいものは生干しですからお鍋があつたらお塩を少しと水をたっぷりいれてとろ火で煮るとおいしいです。ちょっと焼いても食べられます。

お菓子は少しですけど、お父様の会社の配給です。児童用の菓子の配給は年末にあつたきり、まだ今年になって一度も戴きません。新聞では三日分からは七歳以下の子供と二〇歳以下の産業戦士と女子挺身隊だけに菓子の配給をするそうですから、もう戴けないでせう。

イリコを古野の叔父様に頼んでいましたので、二百七〇匁程いただきましたけれど信義の先生にお礼に行くのに衣料切符もなし、何もありませんのでイリコを持って行きたいと思ひますので、あなたのところに送りたいと思ひますが、今度はそちらにまはします。また何か手に入ったら送ります。お米がなくなって学校食堂で食べられないようになるでせう。この次には一升ばかり送ります。今度はこれだけで4キロばかりになりますので送れませんでした。御身お大切に勉強してください。信義もこの十八日が卒業式です。謙ちゃんも面会ができないようになりましたから、なるべく手紙を出してください。 母より

誠一様三月一六日

きなこみたようなのは組合の牛尾さまにいただきましたが、なにかわかりませんが、砂糖をすこしいれてみました。戴いてひっくりかえしま

したので、少しになりました。

三月十九日日曜半日外出

温習、鴨池で球技、父が来なかったのがっかりした。弁当に飯を入れていたことが見つかって分隊長より注意を受けた。

三月二〇日月曜曇

総員起こしのときは眠かった。洗面して練兵場へ行く。駆け足で行く。宮城遙拝五カ条御製奉唱し、乾布摩擦、体操、掃除、分隊点検（二時間）受信（手旗）昼食、受信、武道、送信、夕食靴下を修繕、吊り床を降ろす。洗面所の掃除、温習、懐かしき母へ手紙を書いた。

三月二一日火曜 春季皇霊祭

朝は大変眠かった。乾布摩擦のときは寒かった。洗面所の掃除終わりで朝食温習はなく第一種軍装に着替える。遙拝式あり。精神訓話、受信、気象、昼食、物理、送信、物理、軍歌があった。夕食バス（風呂）に行く。木戸より品川、杉本が九大パスしたことを聞いた。温習兄に葉書を出す。班が一番なるゆえ菓子は班長がおごってくれた。

三月二二日水曜 空母「龍鳳」入港 兵長上海？へ

朝は大変寒い。宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、乾布摩擦、体操 朝掃除、朝食後、温習、課業整列 航空（二時間）送信、昼食、受信（平

常考査) 温習講堂で自習、夕食後航空母艦「龍鳳」を見に行った。局地戦闘機、ダグラス、陸攻を見た。温習時間兵長が上海?へ行くのを見送った。ダグラスのなかは気持ちがよかった。十五人乗りだった。

三月二三日木曜 [及川大将訓示](#)

朝寒かったが、昨日より暖かい感じがする。宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、乾布摩擦、体操、朝掃除、朝食(食卓番)温習、課業整列、受信、物理、送信、昼食、送信、気象学、武道、夕食、及川大将が航空母艦「龍鳳」より訓示にこられた。

三月二四日金曜一・六℃

総員起こしのとき、眠くてならなかった。洗面し、練兵場へ行く。宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、乾布摩擦、体操 気温一・六℃で大変寒い。掃除終わりで歯を磨く。朝食、温習、銃を借りに行く。午前中陸戦今日はきつくなかった。昼食、送信、受信、相撲(大変寒かった)夕食バス(風呂)靴下洗濯。

三月二五日土曜 [新司令部偵察機](#)

朝五時五〇分総員起こし眠かった。兵長を見送る。宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、乾布摩擦、体操、掃除、洗面、朝食、受信、送信、数学、昼食大掃除、体操、体操、夕食、信司令部偵察機を見に行った。餅はたいへんうまかった。温習。

三月二八日火曜

総員起こし十五分前で目が覚めた。朝別課は雨天の位置で兵舎で宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、乾布摩擦、体操、舎内掃除、朝食、食卓番で忙しい。送信、送信、化学（試験）昼食、運用、受信、武道、夕食たいへんおいしかった。菓子の配給、兄と食べたいと思った。温習。

三月二九日火曜

朝大変眠かった。十五分前かと思ったら、五分前だった。練兵場へ行く。朝別課、朝掃除、洗濯物を干した。温習。朝食、運用、数学、送信、昼食水曜なるゆえ定時点検、軍制（試験少し違った）防空壕の手入れ、武道。夕食道場の掃除、温習、友達3人より葉書がきた。

三月三〇日木曜

十五分前に目が覚めた総員起こし、朝別課、早駆けで兵舎に帰り、朝掃除、朝食、みそ汁はうまかった。午前受信、送信、送信、（査定）昼食、歴史（ユダヤの話で中学時代を思い出す）運用、相撲、終ってバス（風呂）に行く。気持ちがよかった。夕食、ボンヤリしていた。掃除後温習。

三月二六日父より

春の暖かい天気になりました。封書及び葉書は正に拝見しました。面

会は絶対に今後しません。軍規及び鉄道輸送の関係ですから。本日信義は神様のお助けで修猷館に合格させて戴きまして安心しました。実は十九日から（前日）発熱三九℃で口頭試験だけ受けて直ちに帰宅して床に就くことを三日間辛抱しました。まだ本日も少し熱はあります。病名は風疹このため音信が遅れたのです。今後は手紙の往復を盛んにして大いに元気づけるつもりです。

誠一が昨夜柔十一時に不意に帰省して三〇日の朝博多を出発するので。大変元気でいいです。佐藤さんは佐世保へ転勤せられ近頃奥さんも西新町へ帰宅され荷物も送って来ましたそうです。精密機素製作所も名称が三菱重工業株式会社熊本航空機製作所竹下工場と軍需省から許可がきました。近いうちに三菱重工の社員になる由です。身体を大切に頑張ってください。

三月二八日（消印）父より

大分暖かくなりました。元気で軍務に精励の由嬉しく存じます。同窓生が上級学校に進むことも一つの道であり、軍人となりて君にご奉公することもひとつの道であります。とにかく自分の職務に忠実であればよいのです。あなたは軍人が最も適していると思って喜んでおります。今の時代は軍人が一番良いのです。信義も風疹が少し下り坂に向はんとしています。時節柄御身ご大切に 三月二七日夜

三月三一日日曜

太陽が昇るのが早くなり、夜が明けるのが早い。総員起こし、洗面、朝別課、早駆けで兵舎に帰る。

午前、気象（雲のところが面白い）受信（査定）武道。

午後、送信、航空、航空。

夕食後写真を写すということで第一種軍装に着替えたが取りやめとなった。菓子は大変うまかった。

【1945年のアメリカ市民生活：朝食の風景】



一九四四年四月

四月一日土曜 兵長進級

朝は大変眠かった。朝別課、朝食、温習はなく、兵長進級申し渡しがあつた。

午前、水雷、受信、送信、受信、昼食。

午後、大掃除、武技、洗濯、夕食、何もせず温習へ行き、1時間は講和（ラバウル、重慶爆撃）二時間目は家族、友達に手紙を書いた。写真を写った。

リングがあつて昼は赤飯だった。

四月二日日曜

朝雨が降っていて朝礼は雨天の位置で兵舎であつた。掃除、朝食第一種軍装に着替え温習に行く。外出員整列隊門出て叔父の家に行った。夕食は動けないほどだった。

四月三日月曜 分隊点検

総員起こしは眠かった。洗面、朝焼けだった。練兵場へ行く。温度五、六℃ 朝別課、体操、掃除、朝食第一種軍装に着替える。

温習後分隊点検風が冷たくて四時間立っていたが寒かった。

午後、受信、軍歌。

夕食、靴下カラーを洗濯、菓子があつた。温習。

四月四日火曜

朝大変眠く夢ばかり見ていた。洗面、練兵場温度一、六℃大変寒い。

乾布摩擦昨日より冷たい。体操後掃除、朝食後温習。

午前送信、物理、受信（二時間）。

午後送信、武道、気象、夕食道場へ掃除に行く。

四月五日水曜 育鷲館火事

午前二時総員起こし直ちに衣囊、手箱、ゲートルをつけ、靴を履く。

部屋の外が赤い。空に火の粉が飛び真っ赤だ。兵舎の外へ出る。熱風が吹き付けて熱い。物凄い火だ。

育鷲館、酒保、要具倉庫が燃えている。酒保はすべて全焼バラバラと倒れた。兵舎（五一、五二、五三、五四）も延焼する危険性があった。当直将校の「総員退避」の声が震えていた。

五時近くになって寝ればすぐに総員起こし。朝別課、眠くてしようがなかった。体操後朝掃除朝食前に毛布覆いを洗濯した。食後事業服も洗った。温習。

午前、送信、数学、受信、受信。

午後、気象、体操、体操。夕食後バス（風呂）に行く。温習は1時間で寝た。

四月六日木曜

朝大変眠かった。五分前を十五分前と思った。朝別課、朝掃除、朝食温習はなく火事の後片付け。

午前送信、送信、水雷（魚雷）午後受信（査定）。

六時限、七時限は火事場の後片付けで石鹼、落花生、靴のゴム、煮豆、手袋、タオル、キャラメル、糸、大変いろいろ落ちていた。夕食後、配食函を洗いに行く。

四月七日金曜

朝は物凄い雨だ。とても憂鬱だった。大変眠たい。朝別課は雨天の位置、朝食後温習、

午前、送信、物理、受信、送信。

午後、航空術（二時間）体操、陸戦座学。夕食後、靴下の修理、タオルを取られた。

四月八日土曜

朝総員起こしが眠かった。洗面、朝食後、班当番、及び講堂当番を交替する。

午前気象、受信、送信、物理、昼食。

大掃除のとき、トラックに乗って航空隊より少し離れた商船学校の裏の施設部へ行ったが、トラックのうちは気持ちがよかった。体操の二時間は防空壕の整備だった。

父より兄へ

大分暖かになりました。無事帰校された由安心しました。宿泊もお骨折りでしたらう。八日の夜行列車で鹿児島に行き、九日午後三時に謙二が叔父さまの家に来ましたので、午後四時まで楽しく愉快に話をし、かつ、食べ物を食べまして隊門の近くまで送りました。隊門の時間は四時四五分まででありました。

謙二は肥えて太って元気よく顔色も赤みがあり血色も大変よろしく活発に色々な話をしておりました。七月の末には遅くとも多方面（支那か或いは内地）に出発する由、五月か六月には一度帰福する由、其の際は直ちに通知します。

昨年七月入隊の兵長等は先日青島と上海に行った由、五月には佐世保に十日ばかり行き艦上にて実習する由、其の次に他の航空隊に十日ばかり実習に行く由大分忙しくなる由。

謙二は九日の午前中は防空壕堀で午後の外出しかも倶楽部で昼食し、なお写真に撮影しに行った後叔父宅につくのが遅くなったのです。

父一人で行きもうこれで最後の面会行きと思っているのに会えなかったら実に残念と考え、生長の家の神様に祈念をしました。会えるものなら会わせてください会えないものなら会えないであきらめます。謙二は神の子でありますからどうか会いにくる心を起こすようにと念じました。（午後三時頃）父の念が確かに通じたものか写真屋より直ちに帰隊せんと思ったけれども、なにかしらちよつと叔父様の宅に立ち寄りたい気持ちになった由を申しました。

謙二の靴音がした時の嬉しさは実にのぼせ上がったようで此れこそ何にたとえようとしても全く例えようがない飛び上がって玄関に夢中で走って行ったのです。此れも一つの経験です。謙二も大変喜んでにこにこしました。

信義は五日の入学式（午後一時）に父と二人で行き六日より毎日通学して一日も欠席はしていません。四日より熱はありませんが、まだ体が以前のようではなく夜分は早く床につき用心しています。さちこは始業式六日より一日も欠席せず達者になりました。父は十日は無事出勤しました。折角の帰省も信義の看病のため骨折ってもらいまして恐縮でした。

謙二の帰福の際、汽車の証明書（出征の理由）が得られるなら、また学科の試験の都合よろしきときは一日か二日でも帰省して貰いたい希望ですが、無理なことはできないのであります。食べ物に充分注意して胃腸を損じないように願います。時節柄御身大切に
先ずは通知まで父は九日夜行列車で竹下に帰り十日午前七時に竹下着一日中勤務しました。

誠一様

四月十一日夜

川島義雄

四月九日日曜

朝五時三〇分前に訓練空襲警報にて毛布をかつぎ山へ退避した。朝掃除終わりて朝食十二時まで防空壕を掘る。倶楽部へ行く。写真を写って

久しぶりに、父がきていて面会できたのはびっくりした。帰隊するとき
は別れが大変つらかった。

夕食、軍歌、温習。

四月十日月曜晴

総員起こしは眠かった。昨日父より激励されたので、よし頑張るぞと
思っていた。

朝別課、朝掃除、朝食、食卓番。

午前送信、水雷、受信、送信。

午後、送信、気象、防空壕整備。

夕食後、防空訓練、温習、菓子はうまかった。父と別れるときの姿が
思い出されなつかしい。

四月十一日火曜

朝大変眠かった。夜間訓練があった。

四月十二日水曜

朝別課、朝掃除、朝食。

午前、送信、気象、送信、水雷。

午後、受信、防空壕を掘る。防空訓練

夕食後、脱帽、夏襦袢を洗った。兄、妹、友達から手紙がきた。

四月十三日木曜曇

朝起きると雨が降っていた。食卓番、朝掃除

午前、航空術（映画2時間）送信（試験）

午後、受信（山本元帥の戦死状況、応答なし）陸戦（座学）

作業班の成績が五番目だったので酒保止め。

四月十四日金曜

四月十五日土曜快晴

朝起きれば大変寒い。よく晴れていた。

午前、受信、送信、気象、数学

午前、大掃除、防空壕の手入れをして一時間は洗濯した。

兵舎で温習一時間、受信、父友達に手紙を書いた。

四月十六日日曜

朝大変眠い。洗面、練兵場へ行く。雲がなくて寒い。朝別課、朝掃除、朝食。

一種軍装に着替える。温習後外出。十五時三〇分帰隊。バスに行く。夕食後温習。

四月十七日月曜

朝は大変眠い。皆も眠いという。洗面、練兵場へ行く。曇っている。

朝別課、午前、講和、物理、受信（査定）

午後、受信、武道、送信。

夕食、ガラス吹きをした。二二八分隊の八班高松光彦という人を見たが、なにも言わなかった。温習は反省録を書いて終わった。父と別れて早くも一週間二日間ぐらいは気が引き締まっているが、もうだらしとしている。

四月十八日火曜

福岡の分遣隊に変わるといううわさがしきりにとび、今日先任教員がデマを飛ばすな。と言った。朝はやはり眠い。洗面し、練兵場へ行く。宮城遙拝五カ条御製奉唱、乾布摩擦、体操、腰を曲げると、跳び箱で尻餅ついたところが痛い。

朝掃除、銃を借りに行く。朝食は早く食べたので胃が痛いほどだった。

午前、陸戦今日は山登り、大変苦しかった。帰りもきつかった。

午後、送信、水雷、送信。

夕食後菓子があつた。大変おいしかった。温習へ行く。

四月十九日水曜

朝は大変眠たい。練兵場へ行く。宮城遙拝、五カ条、御製を奉唱して乾布摩擦、体操、腰を曲げると尻が痛い。掃除終わって朝食。

午前、受信、送信、航空計器（2時間）。

午後、球技（斗球）武道、送信。

夕食後なにもせず、もさっとしていた。寝台に入って家のことを考えた。手紙を五一分隊の者がもって来たが隅は破ってあった。

四月二〇日木曜晴

今日も晴れた天気。乾布摩擦、体操、終わりに掃除、朝食、食卓番である。食後温習から課業整列。

午前、送信、航空術、受信、受信（査定二字誤）。

午後、気象（高気圧）、体操（鉄棒）夕食後バスに行った。非常に気持ちがよかった。

菓子があつた。家族皆でたべるのならいいなあとと思った。兄から葉書。局地戦闘機毎時三八〇ノット。六〇〇キロ／時

四月二一日金曜

朝起きればやはり眠い。朝食前銃を借りに行く。遅くなったので朝食を急いで食べる。温習で通信査定があつた。

午前陸戦（銃をかついで大分走つたので）きつい。休んで寝転んでいた者がいたので腕立て伏せをやらされて、また隊まで物凄い駆け足、汗は出てもう皆ふうふういつていた。シャツを着替えることを言われていたが、汚れたのを着替えていた者は四つぐらいやられた。

昼食 三分で飯を食べて胃がつまった。

午後、送信、気象、球技、終わって銃を借りに行く。夕食一八〇〇。一

八〇〇までに一種軍装に武装して整列。それまで後十分しかないゆえまた大急ぎで飯を食べた。

軍服に着替えて武装してゲートルをつけて兵舎まえに整列した。もう少しで遅れるところだった。海岸に出る。夕陽は落ち、向かうに船（堤防をつくるため）が五、六隻動いている。飛行機が桜島の付近を飛んでいた。景色は非常に美しい。いよいよ夜戦が始まる。昼の陸戦と比較すると駆け足で行くのと寝ているぐらいの差程ゆっくりしていた。しかし銃を担ぐと肩は物凄く痛い。昼の陸戦がこたえている。

夜食 大変熱く、魚、野菜をいれて醤油と砂糖をいれてあって大変おいしく一杯半あった。

寝転んでいた者はバッテリー五本、銃線を通った者は三本、注意中あくびをした者は五本。用便して寝た。

四月二二日土曜雨

総員起こしのときは物凄く眠い。腹の皮が痛い。昨日の陸戦で足も横腹、腕も背中も痛い。昨日のような駆け足は中学校ではとてもできないと友と話していた。朝食後整理今日は皆だらだらしている。

午前、送信、気象学、受信、受信

昼食 大掃除、闘球、(試合) 五三分隊は二組勝った。班長の機嫌がよい。

四月二三日日曜

朝起きて洗面、宮城遙拝、五カ条、御製奉唱、掃除、温習、毛布の上に靴下を入れていたものを出したので。「外出止め」と言われたが、腕立て伏せに終わった。外出札をくれた。

四月二四日月曜

大変眠かった。朝別課雨天の位置、朝別課、掃除終わって朝食飯は多かった。温習。

午後陸戦（座学）衛生、カッターを洗いに行く。夕食後事業服洗濯、手紙も出さないが又貰わない。

四月二五日火曜曇り時々雨

臨時大祭、外出許可。眠たい。朝別課、掃除、朝食、温習、球技（闘球）の試合があって五十三分隊は勝った。午後外出十三時二〇分家に着く。帰隊後、靴下、カラー洗濯。軍歌。

四月二八日金曜

朝雨が降っていたので朝別課は兵舎。

一九四四年五月

五月一日月曜 [晃部隊](#)

朝大変眠たい。朝別課、掃除。朝食後飛行場へ行き、晃部隊分隊士甲第三期兵曹長の講話を聞く。受信三時間、午後、物理、受信、武道。夕食靴下のつぎあてをした。菓子を食べ終わるとカッターを陸揚げせよ。とのことで雨合羽を着て陸揚げして帰ってバスに入った。

五月二日火曜

朝そんなに眠くなかった。朝別課は雨天の位置で兵舎前であった。朝食温習終わりで海へ行きカッターを降ろす。桜島に行く。溶岩が真っ黒に流れていて物凄い。二〇分位して帰り、帰隊して洗濯した。昼食後、送信、受信、送信夕食後バスへ行く。靴下修理、温習。

五月三日水曜

午前、送信、受信、航空術（2時間）昼食、今日は班当番である。午後受信、カッターを洗いに行く。マット体操。夕食、どうも腹の調子が悪い。スコップを返しに行く。

五月四日木曜曇り時々晴

朝食前バッテリー二本食卓番 午前、送信、受信、送信、数学。午後、受信、（腹痛下痢して直る）受信、体操（雨のため陸戦座学）夕

食また少し腹の調子が悪い。靴下修理、菓子がある。家族の皆と一緒に食べたい。

五月四日消印

余程暖かになりました。相変わらず元気で軍務に精励していることと存じます。当方も皆達者であります。十日ばかりまえに佐世保海軍経理部から金九円也ご送金がありました。誠に有り難いことで深く感謝しております。左に通知書を写します。

下士官及兵隊家族扶助金ニ就テ 佐世保海軍経理部

一 趣旨 国防第一線ニ従軍ノ下士官若クハ兵ガ家族ニ対スル気分ヲ幾分デモ和ゲ安心シテ御奉公出来ル様ニト本扶助金ハ交付サレルノデアリマス。

誠一は五月一日から十日間位学年の試験があるそうで唯今は大いに頑張っている事と思ひます。誠一が福岡で徴兵検査を受ければ七月一日と今日の新聞に発表されました。本日東京に知らせます。時節柄御身お大切に。

この葉書は今まで二銭だった葉書が三銭となったため、一銭の切手が別途貼付してある。これから先非常に生活も苦しく物が少なくなっている。石鹼がないから困っていると聞き石鹼をやったことを覚えている。

五月五日金曜

朝は眠たい。朝別課、朝食、温習。午前、陸戦（4時間）午後武道、水雷（二時間）夕食後八四点にてバッテリー四本この査定のときに調子が悪くたまたま違えばと思うと残念である。温習時間に計器の試験があったがだいぶ間違えた。

五月六日土曜

朝起きて眠たい。足が痛い。午前、航法、通信（三時間）午後、大掃除、物理試験。夕食後、夜間演習。

五月七日日曜

二週間に一度の外出となり、今日は外出日でない。朝食、舎内消毒、球技、昼食、洗濯、夕食、活動（男）を見た。局戦（一九七号）二式（二〇一号）、四部休暇（四部とは年齢が三つか四つ上の者の集まりでどんなになって四部となっているか知っていない）

お手紙有り難く拝見致しました。写真は大変良くできています。試験で多忙のため音信がなかった由安心しました。休暇前にも1回の試験に頑張ってください。信義も作業に時々出掛けています。

清水班長様には父よりお礼状を差し上げます。予科練の修養も完全に首尾良く終了して将来益々向上せられんことを偏に祈っております。私方に皆無事で達者ですから安心して下さい。休暇を今より待っています。一週間一回位音信して下さい。楽しみとしております。香月大助さ

んの所を左に書きます。昨日手紙がきました。牡丹江第三七郵便所気付
満州第七六三部隊川崎隊

時節柄ご自愛専一に軍務にご精励あらんことをお願いします。

五月八日月曜

総員起こしのとき一五分前、五分前を知らず、総員起こしのラッパで
飛び起きた。朝別課、朝食少しもうまくない。腹が痛いし、足も痛い。
午前精神訓話、送信、物理、昼食
午後受信（二時間）相撲はせずに芝生取りに行った。夕食後バスに行
く。ぬるい。菓子を食べる。掃除、温習
今日の昼は早くも入道雲が出て夏らしくなり暑かった。

五月九日火曜

朝起きて走る時は足が痛い、朝別課、朝掃除、朝食、物理、送信（試
験大変悪い）発光信号、受信（二時間）夕食菓子消しゴムを貰う。靴下
修理。航空の時間に中攻が飛行場をオーバーして海に落ちた。

五月十日水曜

朝は総員起こし一五分前で飛び起きた。雨が降っていて朝別課は雨天
の位置、朝掃除、朝食、食卓番、温習時間は隊内清掃。午前送信、受
信、数学、受信。午後、受信、体操、体操。夕食系の配給。一昨日、昨
日、今日と足が痛いのが、まだよくなる。昨日落ちた中攻は大分取

りはずしてあった。(発動機、翼) 受信がさっぱりとれない。

五月十一日水曜曇

朝はやはり雨天の位置。朝別課、朝掃除、洗面、朝食、温習。通信、
気象(発行)送信午後相撲なくて陸戦座学夕食バスへ行く。酒保開く。
菓子は丸ぼうろでうまかった。家や兄を思い出して食べた。温習終わ
りて寝台に着く。

五月一二日金曜

総員起こしのときは、大変眠かった。洗面は断水のためできなかつ
た。朝別課に走って行くとき物凄く足が痛くて走れなかった。朝食通信
(四時間) 昼食、体操、故古賀元帥の偉勲偲ぶための一分間の黙禱。
受信、昨日の査定は満点で安堵した。武道試合五三分隊は勝った。夕食
はすき焼きみたいでうまかった。 バッター二本。

五月一三日土曜

艤装

五月一四日日曜

今日は外出日でない。なぜか寂しい。明日から演習できつそうだ。

五月一五日月曜 伊作演習

総員起こし。武装する。出発。ラッパの音も勇ましく行軍で伊作に行くまで大変きつい。山を登るばかりだ。山を下る頃になって駆け足。倒れそうだった。国民学校へついてホットした。それから民家の宿舎に行く。大変きつかった。酒保があった。

五月一六日火曜

朝四時から起きて警急呼集を待つ。しかし五時頃になってもないので又寝た。すると一人の警急呼集の声で飛び起きた。国民学校に集まった時は早くも大部分が集まっていた。しかし一二分だった。

五月一七日水曜

雨降る中を駆け足させられてきつかった。なんとも言えない辛さであった。一時間ということであったが、一五分で終わった。もうシャツもなにもかもビショ濡れであった。

五月一八日木曜

教育主任が見に来られて大変よいとの講評があった。物凄く教員のご機嫌がよかった。

五月一九日金曜

午前だけやって国民学校で体操する。大隊の遭遇戦で海浜を走った。大変きつかった。夜は演芸会であった。

清水班長が夜、第五班の者に信号拳銃を撃たしてくれた。空に向けて撃ったが赤い尾をひいて夜の空に消えた。班長は私達に教えることで撃たしてくれたのだが、分隊長から（信号拳銃を撃たしたこと）班長が叩かれたが、班長が好意でしてくれたことに対して気の毒だと思った。皆の前で（叩く）することはないと思った。

五月二〇日土曜

今日は帰る日だ。民家の人達は親切にしてくれた。別れるときは、小母さんは泣いていた。山は今度は下り坂でなんともなかった。帰隊して安心した。

五月二一日日曜

今日は外出と聞いて嬉しかった。カンパンと菓子を持って外出。帰隊して事業服、シャツを洗濯した。

父より兄へ

小包は到着したことと思います。謙二に激励の手紙を出して下さった由、謙二よりお礼の手紙がきました。六月の末には休暇がある由、（これは内緒で）昨日の手紙に書いてありました。七月一日の検査を尋ねてきましたので、千葉で受験する旨（学年試験のある理由で）を知らせてきました。（四人とも達者ですから安心下さい）謙二は矢張り一年以前のこと等を思い浮かべているようです。会社も三菱重工業株式会社熊本

航空機製作所福岡工場と四月二八日に変更になり、午前六時五三分博多下り午後七時一五分竹下上りで自宅には午後八時に到着します。午後五時より六時半間では現場に習って残業しています。特に用事的时候は五時に退場となりました。時局柄大いに頑張っています。

五月二〇日

御身大切に

五月二二日月曜

分隊点検があつてふらふらしてもてそうになかった。受信、航空。午後衛生、陸戦（試験）大体良い。夕食菓子は大変うまかった。寝るとき家のことを考えた。

五月二三日火曜

総員起こしのときは眠かった。朝別課、朝掃除、朝食、手旗の試験・無意味が少し違った。午前 航法、受信、水雷。 昼食 午後 物理、送信、体操（縄跳び）
夕食バスへ行く。足が痛い。温習。

五月三〇日火曜

当直伝令、朝はそんなに眠たさを不思議に感じなかった。朝食は大変多かった。当直伝令で忙しかった。受信は誤字を出す。数学の試験があつたが、とても悪かった。

五月三十一日水曜

水雷の試験

父より

母上様宛の手紙は有り難く拝見しました。野外演習も無事終了して結構です。庭の木も大変繁茂しました。父は朝六時に家を出て夜は八時に帰ります。時局下大いに壮健で頑張っています。休日は第一と第三の日曜ですが、本年の休暇がまだ十一日ありますから安心下さい。二、三日前博多駅上り列車に予科練の人が乗っていました。四人とも達者で無事ですから安心して下さい。伊作の住所氏名が分かっていたら知らせて下さい。お礼状を父より差し上げたいのです。達者で元気で頑張っている由、これが人の最も幸福とするもので総て神様のお蔭と感謝して大いに軍務に精励して下さい。

一九四四年六月

六月三日土曜

援体壕の作業で猛烈にくたばった。分隊士命令温習後半に手紙を書く。桜島が非常に美しく映えていた。

六月四日日曜曇

眠たい。休暇を待つ。防空壕（援体壕作業）雨が降って作業はないだろうと思っていたが、作業があつて昨日のようにきついかなど思っていたら楽だった。中学時代と同じだった。

六月五日月曜雨

当直練習生、交替して講堂をつくらす。昼食後ツベルクリン検査体操（きついめにあった）休暇の話ばかりだ。

六月六日火曜晴

今日は朝起きて総員おこしの号令をかける。休暇利用線の調べがあつた。今日は足がつって痛い。

六月七日水曜

拳銃射撃一日中のうち射撃は二、三分であとは遊んでいた。川西大艇が水しぶきをあげて飛んで行ったのが、印象的だった。体操、砂はこびで楽だった。艦上攻撃機が宙返り、急降下をやっていた。

六月一四日水曜

今日又足が痛く感じた。兵器、通信、昼食 航法、隊内掃除で終わった。休暇が待ち遠しい。

待望の休暇。

上衣が白で下のズボンは紺の兵長姿で帰省。

六月二二日～七月一日

休 暇



甲種飛行予科練習生故郷に於ける講演要旨 第三部

- 一、甲種飛行予科練習生の使命 二、教育 三、入隊後の感想及び覚悟
- 四、志願手続

一、甲種飛行予科練習生の使命

「海を制する者は世界を制す」と言ふ言葉があるが、実に制海権の確保こそは、大東亜戦争完遂上絶対的のものであります。然し乍ら、此の制海権を得るためには、制空権の確保が絶対に必要であることは、言を俟たないところであります。即ち空を制するものは、海を制し、海を制するものは、世界を制すると言ふことであります。

現在、太平洋に或いは大陸に至る所、昼となく夜となく猛烈な空の決戦が展開され、日一日と苛烈さを加えつつあります。現在の戦争に、航空機が如何に重要な役割をしているか、そして航空兵力の強弱が、如何に戦闘に影響しているかは今更説明の要はありません。航空戦に敗れ制空権を失った艦隊は、最早殆ど勝利はありません。

制空権の獲得こそ勝利の大要件であり、これが為には航空兵力の強化を必要とすることは申すまでもありません。大東亜戦争開始さるるや、我が航空部隊の大戦果に驚いた米国は、航空兵力を強化するには、優秀なる器材を膨大なる資源と生産力にものをいわせ、大空軍の増産に必死となっています。多量に生産することも素より肝要であるが、さらに重要なことは優秀なる航空機搭乗員を養成することにあります。

一物も遮るものなき渺々たる大洋の中を、風に流され雲も分け空を衝

いて、所要の時期、所要の地点に到達し、然も転瞬の間に決せられる決戦場裡に於いて、戦略的に戦術的重大なる任務を課せらるる航空部隊の人員が、精神的にも、体力的にも、知的にも優秀なるものを要求せらるるのは当然であります。この要求に応じぜんが為に、帝国海軍は昭和五年飛行予科練習生（少年飛行兵）という独特の制度を新設し、優秀なる海鷲の養成に精進してきたのでありますが、昭和十六年東亜の風雲を告げ、航空兵力の拡充に愈々必要とするに至ったので、更に多数の優秀なる航空幹部を急速養成するため、甲種飛行予科練習生の制度を設け、これを特別教育し、猛訓練を施してきたのであります。果たせるかな大東亜戦争劈頭、ハワイ空襲、馬來沖海戦に、又ブーゲンビル島沖航空戦等に、赫々たる大戦果を挙げ、全世界を震撼せしめたのを始とし、爾来広漠たる全戦線に互り、空襲攻撃を勇猛なる空中戦士として、皇国の運命を双肩に担ひ、活躍しているのであります。現在南洋、小笠原諸島方面に於いて、皇国の興廃を賭として大決戦が展開されつつあるは、今日海軍の責務は愈々重大となり、特に海軍航空部隊の活躍こそは、全国民が非常なる期待をかけているところであります。されば愛国の熱血燃ゆる全国の青少年学徒は、奮って本練習生を志願し、光輝ある帝国海軍航空部隊の一員として奉公の誠を尽くさんこと、これを希望する次第であります。

二、我等の教育

甲種飛行予科練習生先づ指定の海軍練習航空隊に入隊する。航空隊に

於ける教育は予科練習生、及び飛行練習生を合わせて（戦時中に付き相当短縮されて居ります）終了するのでありますが、初めの予科練に於ける一年半は航空機搭乗員として、任務を遂行する必要なる基礎を作るのが目的で、主として軍人精神の鍛練と一般軍事学を教授し、後の飛練に於ける一年は、愈主眼とする航空幹部を目標に、此れに必要な操縦術偵察術等の技能と航空術に関して高等学術を併せて教授するのであります。

三、雛鷺入隊後の感想及び覚悟

田舎出の何も分からぬ私達が、昨年十月鹿児島航空隊に入隊しもったいなくも醜の御楯として、御上から戴いた七つ釦の軍服を身につけて以来、分隊長、分隊士、班長方の、心身を打ち込まれたる肉親の親も及ばぬ、厳格の内に慈愛溢るる御教育により、知徳を磨き体を練り、伝統の海鷺精神を体得しつつあり。この間陸戦に、短艇に、或いは一万米競争に、実に堪え切れない位の苦しみもありました。しかしこれらの苦痛を克服し、必ずやり遂げなければと頑張り続けて参りました。戦友は皆同年輩の者ばかり、自分より体力の劣る者もありますが、其れ等の者が皆米英撃滅を目指して、血の滲む訓練を続けて居ります。如何に米英が大なる空軍をもって来ようとも、断じて恐れるものではありません。

日本国民として君国の為一身を捧げるは、此れ勿論我々臣民たるものの当然の理であり、我らの祖先は、この精神によって大日本帝国をして今日あらしめたのであります。千古未曾有の国難に直面せる皇国の運命

を、双肩に担って立つは我々青少年であります。私達が米英の空軍の叩き潰すのももう直ぐです。必ず皆さんのご期待に副うべく働きを致す覚悟です。最後の一兵迄戦って、祖国に殉じた「タラワ・マキン」島の海の玉碎勇士或いは航空決戦を自ら指揮せられ、遂に壮烈なる戦死を遂げられた山本・古賀両元帥の英霊の報いる為にも、航空決戦に勝ち抜く決意を益々固めなければなりません。

四、志願案内

本年末に入隊の分は、只今募集中願書は締め切りは七月十日迄なるも受験当日八月上旬まで差し支えなし。「昭和十八年十月一日入隊 甲種飛行予科練習生案内」と内容同様なので省略。

以上が故郷に帰ったときの講演内容の資料である。

兄へ

兄さん元気なことと思います。八月二日を最後の外出として隊を嬉しく出て、叔父様の家にて父上さまと面会していろいろ御馳走になりました。兄さんにあげる最後の手紙かと思います。上海に行くのも間近に迫りこれが着くころにはもう汽車の旅、船の旅になっていることせう。今度会える日はいつのことやらです。上海に行けばすぐだすつもりですが、遅れるかも知れませんが、心配せずに待っていて下さい。それでは鹿児島からの便りを終ります。

お元気で さようなら

消印は一九年八月二〇日 となっている。

満州国牡丹江省東寧県大肚子川満州第763部隊川崎隊 香月大助
(叔父)

お元気で何よりだ。暑中休暇さぞかし楽しいことだろう。我々には海はない。唯赫々たる太陽と一寸先も通視できぬ塵埃とがあるのみです。相変わらず元気一杯大君の御楯として国境の一角に頑張っている。少し忙しいことが続いてお便りもゆっくり書けない悪しからず。暮々も自重自愛勉励せられんことを。

鹿児島海軍航空隊・甲種飛行予科練習生卒業

休暇まえからもう日記はつけていない。休暇が何日から何日までということも正確には私にはわかっていない。休暇前には白一色の服か紺一色がいいと言っていたが、白と紺で帰郷した。駅について家に帰宅したことで強烈に印象に残ったものがないのは何故だろう。写真の裏書きより見れば六月二〇日から六月二九日まではわかる。

一九九七年九月島田～佐藤に期間を聞いたところ六月二二日～七月一日で有るとのことだった。

休暇の十日間七つ釦は、上は紺下は白ズボンで友達と会ったり、母校を訪問したりしたが、アッというまに帰隊の日となり、明日は帰隊する

前日ともなれば一日中家に居て、母が作った料理もあまり食べず、庭を見、故郷をしっかりと胸に焼き付けておこうと思うのも、もうこの日が最後で家に帰ることは出来ないと思心の中では思っていた。けれどもそれは自分の胸の中のみで、母にも口に出しては言えなかった。

勿論、直ちに卒業というわけではないので、面会で父母には会えるであろうけれども、再び生まれ故郷を見ることはないかと思えば、縁側に立ってじっと遠くを見つめ、過去のことを思い出しては消えて行った。

あの頃物資はもう少なくなっていたときに、母はいろいろ作ってくれたが、最後の御馳走に鯛の尾頭付きを作ってくれたのに、これが最後と思うと箸をつけることもできず、これが最後だと母に言うことも出来ず、食べないことで自分の胸の内を披露していることを知ってほしかった。でも箸を付けなかったことはごめんなさいと心に残っていた。

家を出るときどんなにして出たか覚えていない。最後に振り返ったかもしれない。休暇前から日記を付けることをやめていたし、書く意志などなくなったために今そのときの景色なり、心境を回顧することは難しい。

休暇から帰隊すれば、教員たちも飛練に行くことが、分かっているし、教育が非常にゆるやかになっていたように思う。教員たちには何月頃鹿児島海軍航空隊を出るかはわかっていたと思う。

練習生の間では、飛練は上海だということがそれとなく伝わっていた。休暇後は鹿児島海軍航空隊の生活にも慣れ、バッテリーで叩かれることも怖くないようになっていた。

夜、巡検後、実戦部隊の晃部隊のところへ抜け出して、遊びに行くことがなんべんかあった。番兵も晃部隊に行くのに、別にとがめるようなことはなかった。見つければ説教であろうけれども、教員も見て見ぬふりをしていたと思う。一日や二日の抜け出しではなかったし、私達だけではなかったと思はれるので、知って知らぬふりをしていたと思う。

その頃最も知りたいのが、予科練を卒業して飛練でどんな訓練を受けるのかだった。予科練から飛練に行くと今までの倍以上叩かれ、又飛行訓練が始まるとその倍くらい叩かれるということは聞いていた。

飛練のこと、そして飛練を卒業して実施部隊に配属されるまでのことや実戦の話を書いて楽しんでた。これらのことは一部の者だったかも知れないが、非常に楽しかった。度々行ったが、どんな人と話したかはわからないが、あの人たちも恐らく私達と話をしたときが、最後となったであろう。名前も知らないがそんなときがくるのを知っていても明朗だった。台湾から帰ってくるときにバナナを積んで帰って来た話とか、飛練で毎日叩かれ、機上訓練ではさらに叩かれるらしいとか。

晃部隊に遊びに出て[一式陸攻](#)に乗せて貰ったことがあるが、ほんとうに薄く、下が丸見えという感じだった。機銃を動かしたが回転し、上下左右に動くようになっていた。ほんとになかは、スッカラカンという状態で座席があるわけでもなし殺風景だったことを覚えている。

苦しかったときもあったが、休暇後の鹿児島海軍航空隊では楽しかったという印象で別れを告げるときがきた。教員は軍機に触れるため、私達の行先は、公式にはついに教えられなかったが、概ね上海だということ

とは一般常識になっていた。

父より兄へ 七月二一日

炎暑難降雨もなく困った気候です。帰校後一度の便りでその後如何ですか。健康ですか。夏のシャツがなければ送らしましょうか。昨日鹿児島謙二より葉書が来ました。もう一回外出があるかもしれないと書いています。七月十日の午後十時一二分博多発で父一人敷皮、手帳、葉書、写真ブック、洗面用袋を持って、叔父さまの宅に十一日午前八時に到着、直ちに午前十時九分の西鹿児島駅発で叔父の宅を以て十一日の午後七時半に博多に着きました。

不幸にして十二日朝八時から外出があつて、謙二が大変残念なことをしたと書いています。二三日は第四日曜ですから万一外出があるかもしれないと母上は推察して母一人鹿児島に行かれるかも知れません。父は七月四日から寄宿舍の舎監を命じられ、三日に一度泊まります。あまり便りが無いと母が心配しますからハガキを出して下さい。

昭和一九年八月二〇日消印（終戦一年前） 手島、森下教員印判

千葉市緑町六六 東京帝大第二工学部寮二寮二九号

川島誠一様

鹿児島海軍航空隊第五三分隊第五班 川島謙二

兄さんお元気なことと思ひます。八月二日を最後の外出として隊を嬉しく出て叔父様の家にて父上様と面会していろいろと御馳走になりました

た。兄さんに上げる最後の手紙と思ひます。上海へ行くのも間近に迫り、これが着くころはもう汽車の旅、船の旅になっている事でしょう。今度会える日はいつのことやらです。上海へいけばすぐ出すつもりですが、遅れるかも知れませんが、心配せずに待っていて下さい。それでは鹿児島からの便りをおわります。お元気で。さようなら。

父より兄へ 昭和一九年八月九日付け

小包は受け取ったそうで安心しました。昨日は雨が珍しく降りました。八月一日の夜で父一人謙二の所に行き幸いに二日外出が朝より夕方まであり、悠々と話も出来大変喜びました。二日は賜暇を貰ひました。二日の夜行で帰り、朝竹下着、終日勤務して舎監宿直もやりました。なかなか元気に働いて居ます。謙二は五日の朝博多を通過したのは確実のやうです。これは駅に待つて居た人から聞いたのです。二日舎監一日帰宅の割りですから母は充分助かると喜んでおります。もう大分慣れて身体に支差はないです。検査は如何ですか水泳は結構です、大変暑いですから気を付けて下さい。四人とも壮健です。信義は通学して居ます。

上海・青島へ

築城航空隊仮入隊

鹿児島海軍航空隊の甲種飛行予科練習生を卒業したため、昭和一九年八月八カ月間の煙噴く桜島を毎日仰ぎ見、紺碧の錦江湾を眺めて来た鹿児島を離れることになった。

鹿児島より汽車に乗り、門司についた。そろそろと衣囊を持って降りて、何時間か待っていたが、船が来ていないということであった。何故そんなことになったのかは、理由は全然わからないが、軍機等からすれば全くそんな手違いがあることは許されないはずである。結局乗船する船がないので、船がくるまで築城航空隊に仮に入隊することになった。戦後帰って聞いたことであるが、この門司にごったがえすなかに、母と妹が来ていたということは、夢にも知らなかった。おはぎを作って持って来ていたそうである。会うとなお未練が残ったかもしれない。

今から考えると輸送船も少なくなっていたし、この航海でも途中潜水艦ということで、朝鮮沖に停泊したことでわかるように、制空権、制海権はなかったのである。上海まで行く間に撃沈されてもおかしくはなかったと思う。だから船が予定通りに港へ運行することは非常に大きな危険が迫っていたのである。

しかしその当時は知る由もない。船の旅は軍隊からの解放感で満ちあふ

れていた。

[築城航空隊](#)に入隊することになったが、上海から受け取りに来た教官も又鹿児島から送り出す教員も全く予期しないことのために、私達の移動はたいへんだっただろうと思う。スムーズにいても大変な仕事なのに、途中船が来ないという日程の変更が掴めず困っただろうと思う。私達は船で送られるのは安全と思ってまさか撃沈されることなんて考えもしなかった。

築城航空隊でもびっくりしただろう。思わぬ他人が急に何百人も一度に来れば食事から全部賄うのは大変だっただろう。

築城航空隊は操縦分隊であったので、複葉機の[赤トンボ](#)が操縦訓練をしていた。しかし操縦未練で赤トンボが着陸するとき、スムーズにできず、バウンドが大きくて機種が地面に突っ込み、逆立ちとなり、尾翼が大空をむいて総員整列をかけられ、総員バッターを貰っているのを見学したが、こんなことは度々あるということで珍しくないように聞いた。あのときの築城航空隊でバッターを貰った練習生は恐らく今はもう生きていないだろうと思われる。

築城航空隊で宿泊中のとき、何をしていたか、記憶にないが、恐らく受信の練習等だったと思う。この宿泊中に十二時間外出が、許可された。現在のように列車が規定時間で早ければ福岡まで中津から帰れたかもしれないが、その頃列車を調べたが、十二時間で往復ギリギリで帰福したいが帰隊時刻に遅れるほうが恐ろしく帰福したいと思いつつ、ブラブラして過ごし、心残りでもとても残念だったことを覚えている。絶対に行け

ない距離であれば何も考えなかつただろう。やはり家は恋しく父母と会いたい。特に上海に行くということがわかっていれば、尚更帰りたくなるのも人情であろう。

【九十三式中間練習機：通称「赤とんぼ」】



時速 150 km ・ 鋼管または木製骨組に羽布張り

上海行路

昭和一九年八月築城航空隊を後にして出発、いよいよ上海に向かうため汽車に乗り、門司に着いた。門司に着くと一般客とともに積み込まれ、全員船に乗ると、送りに来た教員達は小さなボートに乗って船を離れ、手を振って別れを告げた。「帽振れ」で力いっぱい遠くなる祖国の山、山を見ながら帽を振った。私は船が岸壁をゆっくりと離れて行くのを見、船尾のですりに持たれて小さくなる故郷をじっと見えなくなるまで見ていた。再び見ることはない祖国を。

船には上海海軍航空隊より一士官が先導のため乗船していたように記憶している。

予科練を卒業したことで今まで規制された行動の枠が突如としてはずされたため、自由な社会と考えが変わり、今までの苦しさを晴らすかのように、船内は煙草の煙がゆらゆらと昇り、社会生活への自由が一瞬に爆発した自由の船内の一週間だった。

三日めくらいだったろうか、朝鮮沖で潜水艦出沒のため一日停泊した。一般乗客と一緒になのでなおさら社会意識が高まり、皆甲板に集まり、練習生のなかでタップダンスの上手なのがいて舞台？に上って音楽に合わせて踊って皆の拍手喝采を浴び笑声が絶えなかった。

しかし船が再び動き出すと、黄海となり、揺れが激しくなり、船酔いするものが続出し、食事はコウリャンでバラバラしていて見た目は赤飯

みたいでも、食べられる代物ではなかったが、生きて元気をつけるためには、食べられるだけでもよかった。私は食べられたが、船酔いした者は食べることもできなかったから辛かっただろうと思う。

上海には八月についたのであるが、私は何日に着いたか全く覚えていない。

私は船にも酔わず、港に着く前から一人デッキに出て、手摺りにつかまって白波が出て行く方向が上海かとまだ見えぬ上海をどんな所だろうと見つめていた。上海近くになると、海の紺碧のなかに茶色の線が水平線に見えて、近付くにつれてだんだん茶色が広く大きくなり、海の紺碧の色は消えて行き、いつしか茶色の濁流のなかにはいり、船はゆっくりと濁流の中を進んで行った。水平線全部が濁流で、揚子江の河岸が見えず、幅がわからないのにびっくりした次第である。

いよいよ上海の港の近くになると、中国の帆船（ジャンク）とか、両方舳先が尖って前か後かわからないような中国の艦を漕ぐ船が、ぶつかりそうになって激しく行き交うように上り下っていた。それを見ているうちに、突然黒いものが浮かんで来たのを見たが、それは中国人の死体だった。どの船も気にするようすはなく船と船の間をゆっくり下流に押し流されて濁流の中に飲み込まれてしまったが、ゆうゆうと艦を漕いでゆく中国人の姿には非常に驚いた。戦争中の荒れた世ではそれも仕方のないことだったかもしれないが、現在にしても十二億の人口の一人や二人は行方不明となっても目は届かないだろう。誰が殺されても行方不明になることは、一瞬の恐怖感さえ感じられた。

上海海軍航空隊

上陸したのは昼頃だったが、真夏の上海は、カゲロウがコンクリートの上にゆらゆらと立ち上り、衣囊をかついで船のタラップからおりると、一週間船に乗っていたので、足が地面についてもゆらりゆらりと、揺れている感じで地震があっているような感じだった。衣囊と一緒にトラックに積み込まれ、内田部隊と書かれた門を通り抜けて隊内に入り、練兵場に降ろされて整列し、司令の訓話があり、終わると兵舎まで直ちに駆け足である。

ほんとに暑く兵舎内に入り、衣囊を下ろし、帽子を脱いで暑さを忘れ、初めて上海に着いたと、いう感じでほっとした。

上海海軍航空隊第三九期甲種飛行練習生第五三分隊第三班となり、飛行練習生としての第一歩を踏み出したのである。

父より兄へ

本日謙二から葉書がきました。「父上様その後お変わりありませんか。私は無事当地につき身体もこはさず元気です。鹿空にいるときより更に張り切ってするつもりです。福岡も大分暑くなったでせう。八月と云えば夏も盛りにて百道の浜も賑やかになっていることとせう。

兄さんにも鹿児島島の叔父様にも知らせて下さい。では皆げんきで母上様ご心配なさらずに安心して下さい。信ちゃん、さち子ちゃんも仲良く

元気でさようなら」早速手紙を出して励まして下さい。

佐世保局気付第一海軍軍用郵便所經由「イ参参」四三〇三川島謙二
時節柄御身大切に

当方四人とも達者です。本日は電気の都合で父は休みです。昭和一九
年九月五日

三階建寝台

上海海軍航空隊についてまずびっくりしたのは三階建の寝台だった。
三階建となると、三階に上るときは猿が木登りするような感じになる。
この三階に上ると下からは全然見えないので、なにかと便利がよくサボ
ルときは三階でさぼっていた。蚊帳を下ろすと、二階の寝台までが下り
てきて二階のものも助かった。

外出

上海では外出は団体で行い、一人での外出は禁じられていた。上海地
区は特に不安定であり、重慶のほうからスパイが入って来ていると聞いて
いた。お前たちの首には7ドル？賞金がかかっているというようなこ
とを聞いた。スパイの腕がいいのはピストルを二挺もっていて、片方の
ピストルを撃ってしまう間に片方のピストルに弾を充填して撃てるスパ
イだから外出は注意して行動するように分隊士から聞いていた。上海で
始めての外出が、上海公園であり、公園内には中国人と犬は入るべから
ずとのことが書いてあった。この意味はどこにでも用便をするので立て

られて外人と差別していた。上海でどこに外出したか団体外出のためなにも覚えていないし、特によかったという記憶もない。分隊士以上がネクタイをしてガーデnbrリッジを渡ってフランス租界へ行っていたが、内地では考えられないことであつたろう。租界では戦争中でもダンスをやっていたと聞いている。自分たちはガーデnbrリッジの前で回れ右をして帰ったことは覚えている。

戦争中に付近の橋梁は通行止めになるが、ガーデnbrリッジだけが通れるので有名になっている。「あんな橋が」というほどボロイ橋という感じが残っている。青島で仲良くなった有久は総領事の息子ということで、三角の将官旗をつけた、黒塗りのぴかぶかの車で送り迎えされていたが、その頃は自分には関係のないことで羨ましいともなんとも感じていなかった。

上海では航空兵の食事ということで、戦時の最高であつた食事だと思う。内地とは異なり、物資が多かつたということもあつたかもしれない。

ゆで卵はザル一杯で食べ切れない程毎日あつた。パイナップルの缶詰チョコレート等航空食で待遇はよかつたと思っている。

制裁（バッテリー）

上海では二日ないし三日総員整列がないと、もうそろそろあるぞという予感があり、巡検後総員整列がかかる。このころバッテリーを貰うことは普通のこととなり、班長が一振り毎に反動をつけていたので、知らな

い人を見るとおかしかっただろうと思う。もう痛いとかは思わないようになっていた。慣れというものは恐ろしいものである。叩いている班長達のほうが、汗を流して叩いているのが気の毒なくらいだった。バツターを貰うと叩かれた尻が暖かくなり、もう叩かれないという安心感も手伝って、眠るのが楽で尻が冷たいと眠られないという感じだった。

巡検後総員整列がかかり、一六〇人のバツターが終わるのは一時間三〇分もあれば終わってしまう。総員整列を十時ごろかけて眠い目をこすりながら起きて、座らされて説教をされる。これがほんとに身に伝わる。故郷にいる父母兄弟はどんなにお前たちのことを思っているか、戦地では苦しんだ戦いが今行われている。国のために皆で頑張っていくべきではないか。と順々に諭されれば、やはりあれこれ考えてとても辛い。

しかしもっと辛いのは一時間三〇分くらいで終わっても寝るだんになると、やはりあれこれと考え、すぐには寝られず眠られないため、翌日起きるのが眠くて辛かったので、説教よりもバツターのほうがすっきりと眠られ翌日もすっきりするという点では暴力はいやだけれどもバツターのほうがよかった。

第三八期

私達の横の兵舎は第三八期であった。何カ月前にきていたのか知らない。三八期の総員整列があり、叩かれるのを見ていたことがあるが、三八期も自分たちの叩かれるところを見ていただろう。三八期のの者が叩

かれて内出血をして入院して死んだということを聞いたことがある。

第四〇期 土浦航空隊からきたのであるが、体格が大きかった。

入院

入院といえば体が悪くなると入院を余儀なくされるが、入院後悪くなると内地に送られるということを話していたことがあり、冗談に入院しようかといっていたことがある。

【1945年の繁栄するニューヨーク】



上海海軍航空隊飛行練習生訓練内容

上海では一九年八月から一二月末までに地上訓練を終わり一月から機上訓練が始まる予定だった。鹿児島で二カ月早く入隊したものは機上訓練が終わったので[特攻隊](#)で戦死しているのです、二カ月早ければ南海の空に散りゆく運命となり、この世には生きてはいなかったと思われる。

予科練と飛練の差異

受信及び送信

受信及び送信は、実際に飛行機に取り付けてある空二号とか空三号による受信及び送信をするのである。その操作をするに当たって何々調整終わり、何々調整よしと云って動作を行うのであるが、順序を間違えるたびにゴツンゴツンとやられていた。訓練が終わり頃になると、通信器を五、六人に一台をもって各般に分かれ各班が基地となり、各基地と交信をするという訓練があっていた。

通信器の台数が少ないので全部の者に通信する時間はなかった。各基地と交信し、呼び出したり応答したりするのであるが、空二号や空三号の受信感度が悪く、受信器を取って聞いてみても全く交信していないように思われ、基地を呼び出してみると交信中だったりする。交信中と気がつけばよいが、気が付かないで終わると混信になっていて、本部には

大きな受信機があり、わずかにダイヤルを調整することで、はっきりと現在どこが交信中か傍受できるので、本部の受信機で混信がわかり、何時何分に送信した者は誰かと呼び出されて、兵舎に帰ってからバッテリーとなるのである。

それでも束縛がなくなることが、解放感を感じ、空二号を運んで基地となり、受信機につくものだけが神妙にやっていて、あとの者は雑談等で遊んでいた。班長たちがいない自由時間で気分的によかったと思う。

射撃訓練

射撃訓練は機銃（七，七ミリ）が台座に据えてありこれを弾倉（百発入）をつけて、操作順序を大声で云いながら、手を動かして操作するのであるが、横に班長が棒を持って立っていて間違えるたびにゴツンゴツンとくるので、あがってしまって順序を間違えそのたびにゴツンと無残だった。

この頃七，七ミリ機銃は全然使用できないものになっていた。アメリカの軍用機の風防ガラスは四センチもあり、二〇ミリで撃っても単にヒビが入るだけで貫通はしなかった。戦闘機は一三ミリから二〇ミリ更に四〇ミリを装備する時代になっていた。七，七ミリはパンパンという軽い音で、二〇ミリになるとボンボンと重い音がする。二〇ミリは見ただけで撃ったことはなかった。

中学のとき射撃部において小銃の撃ち方は練習していたし、実弾を撃ったこともあったので、予科練での射撃点はよかったと思う。ただ一回し

か実弾を撃つ機会はなかったが、本村班長がこの銃がいいと銃を選んでくれたので、一発撃って修正をして撃ったことを覚えている。小銃には右上とか右下とかくせがあって概ね一回では調節できないことは知っていた。

送信

送信の練習では大講堂の二階に上がり二階から下を見下ろす窓がある。この窓から下においてある空母、戦艦、巡洋艦等の模型が並べられていてこれに速度を示す波の大きさがそれぞれにつけられている。その光景を見て赤本（ピンク）を見ながら、暗号に変えて送信するのである。

赤本は極秘であり、軍極秘になると真っ赤な表紙の本になる。これらはその時間に借りに行くのである。

空母の速度、方向、戦艦の位置、速度、方向等を送信するのであるが速度の判定が難しかった。

手旗

上海に来て朝別課があり、練兵場にいけば必ず手旗と旗流を読まされた。予科練のときのような早さでなくとても早いので、最初は全然読むことはできなかった。それが一カ月もすると慣れてきて、全員で声を出して読むので読めるようになり、みんなと一緒に声のでるようになった。やはり練習だなどと思った。旗竿に何種類かの旗流がするするとあげられとその旗が何の旗か全くわからなかった。しかしこれもみんなにつ

れて声を出しているうちに旗の種類もわかって声を出せるようになっていた。

偏流測定

偏流測定とは飛行機が風によって押し流されるので風力、風向きによって飛行コースを修正するために測定するものである。

二階に**偏流測定器**が設置されていて、一階に幅約三メートル幅のベルトに景色にみたいな絵が描いてあり、このベルトが回っているが、左右の斜め方向に変更して回されるようになっており、このベルトの角度を二階の偏流測定器で測り、その角度を修正するのである。磁北が何度で何度左と修正するということであつた。偏流測定ヨーソロで測定していた。現在ではナビゲーションで直ちにいる位置はわかるだろうから幼稚だったなと思う。

爆撃照準器

車がついた台に**爆撃照準器**が取り付けられていて、一人が照準器を見て下にいるものが台をゴロゴロと押して行って、「ヨーソロ」照準器の中心に目的物がくると、「テエ」で発車ボタンを押すというふうにやっていた。

落下傘

落下傘はたたみ方を教えてこれは自分のものは自分でたたむというこ

とだった。たたみ方が悪いと開かないから、それは自分の責任ということであった。

落下傘が地上に降りるとき高さ三メートルぐらいから落ちる衝撃があるということで高い台から飛び降りる練習をさせられた。

【爆撃機ボーイング B-29】



通称「スーパフォートレス」(超・空の要塞)

速度時速 600km・航続距離 7000 km・防御機関砲 10 門以上搭載

上海B二十九爆撃

上海が昭和十九年十二月には、もう制空権はなく爆撃されるようになってきた。

上海から一機の陸攻が昼過ぎに飛び立って行くのを見ていたが、一時間位後であったろうか、その陸攻が敵機にやられて火ダルマで戻って庁舎の屋根すれすれに降りて来たが、搭乗員は重症だったときいている。

あるとき空襲警報がなって上空をみるとB二九が一機銀色に映えてゆうゆうと高度八〇〇メートル位を東から西へ飛んで行くのが見えていた。その頃実際に爆撃をうけて爆弾が落ちてくるのを経験していなかったせいか、こちらもゆうゆうと見上げていた。

白水教員が「今三号爆弾（時限爆弾で爆発時間を調整できる）を積んで零戦が攻撃に行ったぞ」と言ったのでB二十九の方を見ていたら、零戦が一機上昇してB二九の上方にあがり、急降下をしながら三号爆弾を投下したが、惜しくもB二十九の後方で爆発し、白い煙が見え、爆弾投下は失敗に終わった。

実戦で落としたのは、初めてで練習もしてないだろうから要領もわかっていないし、無理だったのかもしれない。しかし命中していれば、乗っていたアメリカの搭乗員十四、五人の命はなかったのである。彼らは何も知らずに今健在かもしれない。

上海には陸軍の空軍基地もあったのだが、遠くで爆弾が炸裂してドーンという地響きを感じたことがあるが、遠くに爆弾が落ちたのだろうと

いう感じで済ましていた。

上海では、団体外出で何回かしか外出していないと思う。外出からかえって演芸会があったことがあるが、渡辺ハマ子の一団が慰問に来て「支那の夜」「夜来香」等を唄ったことがある。

上海では昭和二〇年一月から飛行訓練が開始される予定だったが、日増しに爆撃が激しくなり、治安も悪くなって、飛行作業に入ることなく、内地行き、青島行き等別れる事になったが、私たちは青島行きになった。

【B-29 に搭載する爆弾：最大積載量9トン】



上海から青島へ

上海を昭和二〇年一月二十五日頃？出発したように思う。夜南京につき大きな握り飯の配給があり、これをによりかかって座って食べたように覚えている。それで南京ではなにかしらゴタゴタと混雑していたようだった。

南京過ぎて、機関車の前三両は誰も乗っていない空の客室であって、後部の貨車四、五輛？に積み込まれていた。客室はおとりとして使用していたのだと思う。外部の景色は木も緑もない砂漠みたいな不毛の土地の中で地平線がみえるだけで、小高い丘陵があるといつまでも目の前から消えない平原の中を北へ北へと走っていたように思う。

貨車の透き間から見えるだけで左右の景色を見ていたのではないので、実際にはどんな景色かわからないが、そんな景色が続いていたように思う。

乗ってから三日目くらいだったろうか、午後一機のP五十一がきて機銃掃射をしてきた。全員が貨車の両側にベッタリついて機銃掃射の止むのを待っていたという。私はこの騒ぎは、全然知らずにグウグウ寝ていたのだから、弾が当たったとしたら極楽死となっていたかもしれない。

私が起きたら汽車が止まっている。「どうして汽車は止まっている？」と聞くと「何も知らん？P五十一が機銃掃射して機関車がやられて取り替えまで一日かかる」と聞いて「へえつ」とびっくりした次第で

よく寝たなあと思った。運が悪ければこの銃撃で戦死したものが出てもおかしくはなかったと思う。

済南からの応援の機関車がきて済南の駅は大きな駅だったと記憶している。

しかしこの貨車生活の約一週間近くの風呂も入らず、顔も洗わず手も洗えないという汽車旅行でシラミが発生し、蔓延してこのシラミ退治に、青島に着いてからホトホトまいった次第である。ストーブの煙突の熱で縫い目に生み付けられたキラキラ光る卵を焼いていくのである。

【アメリカ空軍戦闘機 P-51D「ムスタング」】



時速 740 km、機関砲 6 門 ロケット弾 24 発 装備

青島海軍航空隊

青島には二月始めに着いたと思う。

寒い寒い青島であった。上海からいきなり零下の土地にきたのだから寒いのは当たり前であるが、まさかこんなに寒いとは思わなかった。洗濯物は乾かないで凍りついてしまうので、ストーブの煙突の熱で乾かしていた。

青島航空隊では吊床で、いままでずっと寝台であったので、吊り床に苦労した。新品の吊り床で締めである麻縄が堅く、又吊り床の外側の帆布も堅くて締まらないのである。吊り床のフックにかけるのに、飛び上がってかけるのがやっとだった。

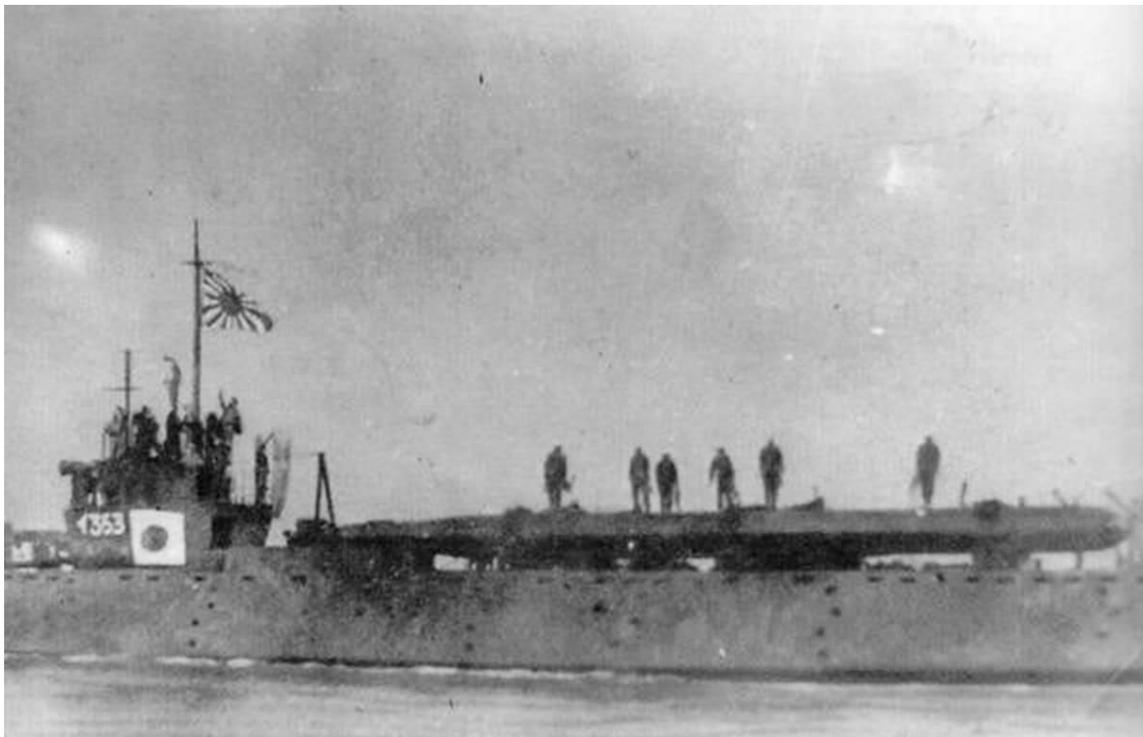
朝別課から帰ってきてみると、五～六個の吊り床の締まってないのが出してあったが、「ここに出してある者は出て来い」と通信教員が言ったので自分のがであったので出たら、吊り床で叩かれた第一号は自分だった。しかしそれ以降は吊り床での罰はなかったので最初で最後だった。

シラミ退治

貨車で約一週間乗ったままでシラミが繁殖した。シラミ退治のために選択しても全く効き目がなく、シャツ等の縫い目にシラミの卵がびっしり生み付けられていて潰すとパチパチと音がし、結局ストーブの煙突に押し当てて焼くか、捨てるしかなかった。

青島では練習生として扱われたが、もう大分教育もルーズになっていて厳しい訓練というには程遠かった。練習する飛行機もないという状態で特攻魚雷「丸四」に行く者と二つに別れる状態になったように飛行練習生とは名ばかりで、もう飛行という言葉はなくなっていた。

【潜水艦に載せられた人間魚雷「回天」(丸四)】



青島飛行場空襲

青島の飛行場は山に囲まれて平地に作られていて、山腹には高射砲が据え付けられていた。兵舎は頂上のところに建てられていて五〇メートルくらい離れたところに直線に退避壕が掘られていた。

ある日、空襲警報のサイレンがウーウーと鳴り、「総員退避」「総員退避」のスピーカーの声が大きく流れた。全員防空壕まで一目散に走ったが、そのときにはすでにP五十一はこちらに向かって機銃（十三ミリ）を撃ちながら目の前に迫っていた。

防空壕に飛び込んだ瞬間ビュツビュツと音がして砂煙がパツパツパツとあがり、自分より二～三步遅れた友は、防空壕に入る直前にバツタリと倒れ、秋山班長が倒れた友を背負って兵舎に連れて帰ったが、腹部貫通で亡くなったと聞いている。後一步遅れれば自分もこの世に生きてはいなかっただろう。その頃は友の名前も聞いてないし、聞く余裕もなかった。

空を見ると、銃撃をした敵機がグルリと旋回して再び山の陰から銃撃してきた。P五十一は五～六機だったと思うが、恐らく空母からきたものと推測される。

旋回してこちらに機首が向いているときは見上げていて畜生と思っていた。

山腹の高射砲は略水平でP五十一に発砲していたが、なかなか命中はしなかった。P五十一の機銃掃射は五回ぐらい攻撃され、練習機の模造

飛行機や練習機もやられて飛行作業は頓挫した。P五十一による機銃掃射はこれ以降はなかった。もう飛行機はないことが分かっていたのであろう。

青島海軍根拠地隊第三中隊

航空隊ではなくて根拠地隊となって、海兵隊のような兵員ということになった。大学路に移転した。元大学校ということを知っていたが、兵舎は畳でほんとに陸上生活に変化した。夜食には配食函でビールが毎日配給された。毎晩ビールが余っていたが毎晩ビールを飲ませる軍隊なんてなかっただろう。

兵舎を囲むために高さ約二、五メートルぐらい上部の厚さ約一メートルぐらいのコンクリートの擁壁を中国人に築造させていた。

私たちは、道路の横にタコツボ（自分がスッポリはいる穴）を掘ってトラックを戦車とみなして、爆弾の代わりに丸太をもってタコツボから飛び出して投げ込む練習等をさせられた。

それから中国人を五～六人使って、道路の交差点の一角の中国人家のなかにコンクリートで銃が出せるだけの穴だけを作ってトーチカみたいなものを作らせたりしていた。

宛先 山梨県東八代郡一宮村田中瑞蓮寺川島誠一様

差出人 佐世保局気付第三海軍軍用郵便所経由「イ参七」五分隊三班

川島謙二

拝啓 兄様その後お変わりありませんか。私は元気でやっておりますからご安心下さい。今度五月一日付で海軍二等飛行兵曹に進級致しました。兄さんこの事は家にも知らせました。毎日毎日研究に研究を重ねておられることと思います。信ちゃんやさち子ちゃんお母さんから手紙を貰いました。大助さんの所もしらせていただきました。新緑香るころとなり、勉強には大変都合の良いことと思います。私たちは益々張り切ってやるつもりです。兄さんしかしお体だけは大切にして下さい。くれぐれもお体を大切に 敬具

青島の写真館で写る。海軍二等航空兵曹となり、帽子の徽章が変わり、ピンクのマフラーをしていた。

中国人労務者は左手に生ネギをもって、右手にマントー（食べたことはないが、小麦を皮毎粉にしたものだったと思う。薄茶色で見た目にざらつとした感じだった）

中国人にも日本人を嫌っている人とそうでない人がいた。特に労務者のなかには怖いと思う人がいた。

あの頃まだてん足の婦人がヨチヨチと歩いていたし、字を読める中国人は少なく、新聞を読めるものがいなくて四~五人集まって読んで貰っていた。しかし道にいた中国人が「二飛曹川島」と名札に書いてあるのを中国語で読み、漢字で書くと分かってくれたように思う。

青島にいるとき中国語を習ったが、「阿」の四隅に点を打って「あ、あ、

あ、あ」と四つに使い分けできる発音練習があったが、発音が難しくて中国語をあきらめる原因となった。

青島に着いたころはまだ七つ釘がもてていたが、そのころ女子学生でも手旗が分かる子がいた。

士官の女性との関係等が色々と噂されたが、自分が全く性との交際を考えていなかったのであまり気にしなかった。

外地にいると「日本人」というだけで親密性がわき、邦人は家に行くとき寛大に扱ってくれた。同県人となればすぐに友というように話が進んだ。

青島では外出するたびに物価が上がり、中国紙幣の価値があがり、日本円は安くなって負けるたびに下がっていた。

食糧とかは金さえあればどんなものでも手に入るような状態で豊富にあったという感じが残っている。

墨で抹消された葉書

家を建て替える前にあれこれと整理していたが、墨で抹消された葉書が一枚あったので、見たときには少なからず驚いた。まさか自分が書いたものが抹消されていようとは、思いもしなかったからである。抹消されるような言葉を書いたとは信じられないのである。

があがり、中国紙幣の価値があがり、日本円は安くて二～三倍にもなっていて、負けるたびに下がっていた。

「郵便はがき」「海軍のマーク」四角に線で縁取られた「軍事郵便」真四角の「検閲済」の押印するところはすべて赤であり一見して軍事郵便

とわかるはがきだった。赤の「海軍のマーク」の印は何種類かあった。

山梨県東八代郡一宮村田中瑞蓮寺川島誠一様

差出人川島謙二佐世保局気付青島方面特大学路部隊「イ参七」派遣隊
根拠地隊

拝啓 兄さん永らくご無沙汰いたしました。僕は元気です。兄さんにはお変わりありませんか。相当暑くなって参りましたね。海水浴も昔ならば面白く愉快にというところですが、今年はそうもされないことせう。研究に忙しいことと存じます。以下墨で約2行抹消されている。

兄さん大いに奮闘して下さい。お体を大事に さようなら内容を墨で塗りつぶしてあるのは最初見たときはびっくりした。墨で塗りつぶしてあるなんて考えてもみなかったことである。同僚の者も自分が書いたものは抹消なんかされてないと思っていたらうけども、抹消されていたかもわからないのである。皆さんに見せても多分びっくりすると思われる。

懐かしい外出札

佐世保局気付

第三海軍軍用郵便書經由「イ参七」八分隊三班

この時代の外出札を持っているので殆ど実物大に写真を撮ったものである。外出留のときは此れが渡されず悔しい思をしたものである。その頃の葉書については次頁載せる。

母より兄へ 手紙の裏返しで作った封筒。 誠一様

お手紙拝見しました。小包がつかないとのこと、ほんとに悔しく思われます。

あれだけでもないものをいろいろ苦心して入れたのです。疎開でどちらにかお変わりとのこと荷物はどんなですか。夜具やなんかどうなりますか落ち着いたらお便り待ちます。

謙ちゃんにはこの頃青島から帰られて謙ちゃんが世話になっていた教員の方とかが来られてことづけを戴きました。小さい小包のなかに手紙と鉛筆とか飴とか消しゴムとかいろいろことづけていました。元気でやっているそうですからご安心下さい。信義は二年6組の組長になりました。今はまだ授業があっていますが、いかなることかと思えます。勉強させてやりたいと思えます。家では裏に防空壕を掘っていますが、まだ完成してはいません。天井板は全部はづしました。どうか元気で頑張ってください。

四 月 一 日

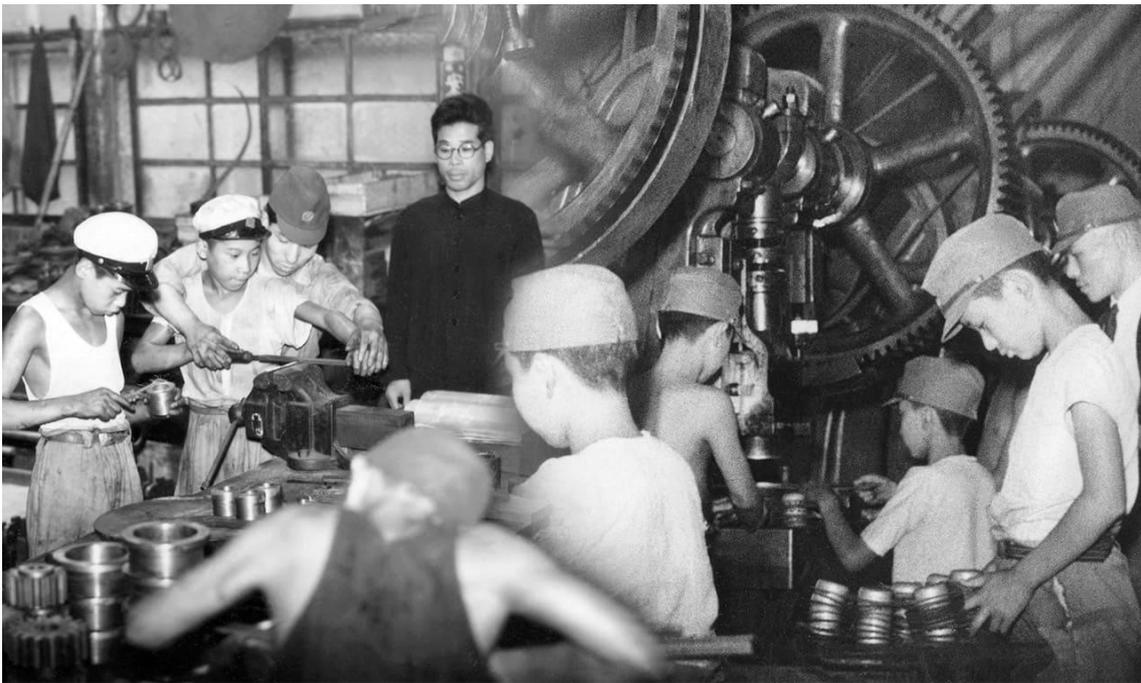
母より

残念なことに青島から帰国した人が、誰であるか全く思い出せない。後で見てそんなことがあったのかと思い、思い出そうとしたが、どうしても思い出せなかった。お世話になったのにと感謝しています。

青島で外出して売っているものをごまかしたり、洋車(やんちょ)に乗って金を少なくやったり等したこともあるが、ふざけていたのだが、中

国人は腹がたっただろう。外出では青島神社に行くくらいで、黒崎と邦人の家でピアノを引かせて貰って遊んだこともある。記憶に残っているのはほとんど無い。

【学徒動員で作業に携わる児童】



青島司令部 終戦

青島司令部では弾薬、武器はあるし、終戦間近になると、[八路軍](#)の夜間攻撃であちこちに銃声がきこえていた。終戦の日部屋にラジオで玉音放送が流された。放送後はいろいろな声が流れた。降伏前に武器をトラックに積んで海に捨てていた。

終戦後中国が武装解除するまで何日かあり、治安維持のため毎日武装し、五～六人で青島の邦人の家を毎日警備していた。しかしこの間にも暴動はなく一カ月位だったろうか。中国兵（日本海軍が教育していたので海軍と同じ服装）がきて司令部の日章旗を降ろし、中国の青天白日旗を掲げるのを敬礼して見守っていたが、このときはさすがに情けない気持ちだった思い出がある。

この頃八路軍に行けば、大尉になれるとか噂が広がっていた。青島で真っ青な海に手榴弾を投げ込んで水柱とともに魚が白い腹を見せて浮いた。誰が手榴弾を投げ込んだかも知らないが、ある日の特殊なことだったので覚えているが、断崖の上から投げ込んでいたが場所もわからない。

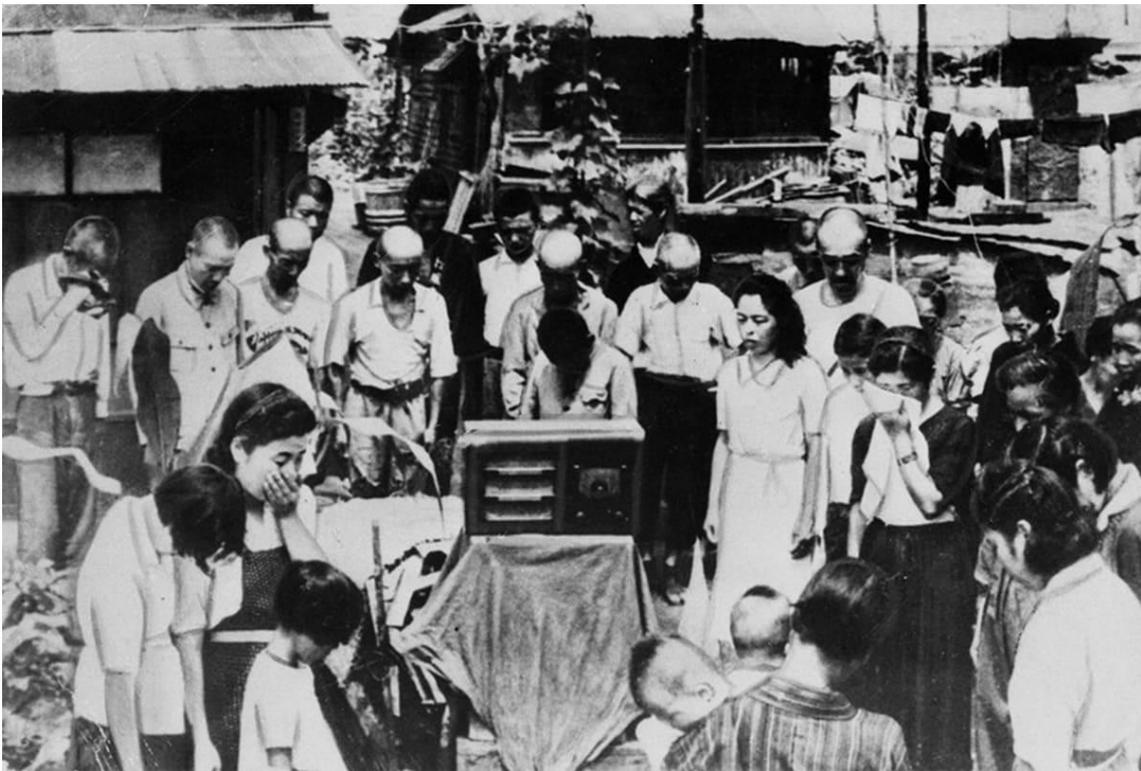
司令部にいたとき煙草は配給であったが中国の煙草（チェンメン、スリークイン等）を吸っていて配給のものは中国人にやっていた。終戦後アメリカ軍に日本人が煙草を欲しがったように。中国人は五～六人が争うように取り合っていた。

この頃同郷の有久と仲良くなり、夜になると、司令部を出て塀を乗り

越えてトラックの運転手がたむろしている場所に、毎夜隊を抜け出して遊びに行っていた。トラックの運転手のなかに古賀兵曹という人を有久は知っていた。どこでどうして知っていたのか私は知らない。この場所では毎晩酒を飲んでいて、中国酒（老酒ラオチュ等）を飲み、煙草を貰っていた。スプーンを酒につけてそれにライターで火をつけると青白い炎が出ていた。

古賀兵曹は福岡出身であったので、戦後西鉄のバスの運転手をしているということだったが話したことはなかった。

【玉音放送で敗戦を知らされる市民】



骸炭工場(コークス工場)

司令部に中国の差し回しのトラックがきて、皆それに乗ってコークス工場に運ばれ、着のみ、着のままで分隊長、分隊士も一緒に階級もなく、工場の中で寝たり、起きたりの抑留生活が始まった。コークス工場がどこにあるかもわからない。

コークス工場は広く塙に囲まれていた。仕事はなく一日中飲むか、花札、トランプの類で全く何もすることない日々が十、十一月と続いた。

私は相変わらず有久といつも飲んで航空食を盗み出したり、カンパンをかつぎ出したり、食物分捕り合戦が日課となっていた。水をいれこねると餅になる粉や、それぞれ獲得したものを食べていたが、食事がどんなになっていたか覚えていない。夜倉庫に入って番兵から追われたりしたが、捕まることはなかった。

コークス工場の抑留生活の中は、無秩序で、朝起きるのも夜寝るのも自由で私は有久と飲んでいて、皆元気だったからいいようなものであったと思う。

有久はよく頭から水をかぶって寝ていたのので、この習慣を私も取り入れて終戦後帰国して、風呂から上がる時には水をかぶっていたが、六十歳をこえて手と足と頭の部分だけにした。

福岡に帰る

帰国

昭和二〇年十一月二〇日頃コークス工場からトラックに積み込まれて青島の港に連れて行かれ、船に乗船することになった。残留邦人がたくさんいて帰国の船を待っていたと思うが、私たちは最初の船に乗り込んだ。

乗り込む前にアメリカ兵がいて「ケンジ・クアシマ」と言っ船に乗り込んだが、邦人たちは盛んに手を振って別れを惜しんだが、あの人たちは帰国できたかどうかはわからない。

船では船底に押し込められて、奥の一段高いところに銃座があり、アメリカ兵二人が二十四時間機銃に手をかけ見張っていた。銃座のすぐ前は士官たちが集められてが、話すことは自由にできた。この船の中でも何もすることはなく、乾パンに砂糖をつけて食べたり、水で練って餅を食べたりしていた。出港は昼近くだったのではないだろうか。

この船の中ではまだ軍隊を離れて帰っているとか、親兄弟に会えるから嬉しいという気持ちは全くなく、とにかく青島から帰国しているということで、軍隊生活が続いているという感じだった。

黄海に出ると丁度嵐になって揺れが物凄くひどくなり、ほとんどの人が船酔いして寝ていた、というより船酔いを我慢していた。私は船酔いはしなかったので、トイレに行くので甲板に上がって行ったら、月が左

右に九〇度以上にゆれているので手摺りに捕まっていないと海に振り落とされる状態だったのにはほんとにびっくりした。まさかこんなに揺れているとは知らなかった。用便は甲板の上でするようになっていて、アメリカ兵がやはり見張っていた。

一昼夜して朝になると嵐は止んで佐世保に着くころには穏やかになっていた。十一月二四日佐世保につき上陸すると消毒するので脱いで着替えたらもう脱いだものは返ってこなかった。大きな釜で消毒しているようだった。

衣囊一つを担いで汽車に乗って、博多駅に午前四時三〇分頃着いた。このとき四～五人といっしょだったが名前も住所もお互いに知らないで別れた。近くの旅館があいていて小母さんが、電車がくるまで休んでもいいですよと親切だった。

「西新に帰るのですが」というと「西の方は空襲で焼けてますよ」ということだったが、自分の家は焼けていないだろうと思いながら、午前六時の博多駅発の一番電車に乗った。市電を降りると、戦前と変らぬ町があり、家は雨戸が閉まり、ひっそりとしていた。

再会

昭和十八年九月三〇日入隊して、昭和二〇年十一月二五日帰郷するまで二年一カ月であったが、これから再び生きるために、食べるための必死の努力をさせられようとは夢にも知る由はなかった。

玄関は閉じられているので、横から入って、雨戸を叩いた。「どンドン」「帰ってきたよ」と言ったら、妹がじわじわ雨戸を開けた。まさか青島から帰ってきているなんて思いもしなかっただろう。「泥棒かと思った」という。そして弟が起きてきた。父母は母の妹一家がふぐ中毒で死んだので通夜に行って留守だった。

衣囊の中から砂糖とか煙草とかをだしたけどあまり関心はなかった。

通夜から帰った母が「よう帰ってきたね」と言った一言で今までのことは、忘れられて遠い遠い彼方へ消え去ってしまった。

【空襲で焼け野原になった大博通り周辺】



帰国後の道

帰国後皆それぞれの苦しい道を歩いて平和な家庭を築いていただけること
と思います。しかしもう既に他界された人も多くなりましたが、生きて
いる人はまだ人生は続いているので、この人生をまっとうすることが大
事だと思います。

帰国後の人生は、またこれから綴って行きたいと思いますので、その
節はよろしく。皆さん元気で楽しい人生を歩いて下さい。

佐久間潔班長の思い出

はじめに

鹿屋基地から昭和二〇年六月二日出撃、再び故郷の山河を見ること
なく、沖縄で散って行かれた佐久間班長のご冥福を心からお祈り致しま
す。

私の中に生きていられる、佐久間班長の教員時代の思い出を記します。

佐久間班長が亡くなられたことは、私が久留米工専に通学のとき、鳥
栖駅で上海航空隊で教員であった白水教員からでした。戦後昭和二十四
年頃だったと思います。「佐久間班長は戦死したよ」と白水教員(甲十期)
から聞きました。それ以来錦江会(鹿児島海軍航空隊)の集まりの関係
で、島田氏より昭和六十二年六月に「弱者の抵抗」「班長の弟(佐久間武)」

を送ってもらい読ませていただき、班長の無念死を知りました。

私は、いつまでも戦争なき世界をそして平和の為に努力し、戦争の空しさ言論の自由なき軍国主義に再び戻る事なく、軍国主義の中で自分の意志に反して散って行った人達の、平和の意志を後世に伝える義務を私たちが果たしたときに、佐久間班長も喜ばれるのではないかと思います。

上海海軍航空隊で分隊長、分隊士、班長の初対面があったのだろうが、その光景は覚えていない。二日目から制裁のバッターがあつてそれから二～三日おきには制裁を受けた。

一、班長の初対面の印象

班長の当番が、背が低い順ということで、佐久間班長の当番を最初にしたのが私です。班長は背が高かったので、大人と子供という感じで、班長は常に人なつっこい丸い顔で微笑しているようで何でも話せる兄さんという印象でした。

二、班長の性格

班長は自ら率先して制裁をするということはありませんでした。分隊のなかでどうしても制裁をしなくては、上司の手前仕方がない時は別として、他の教員が制裁すれば班長も付き合いでやっているという感じでした。

班長は他の班長がバッターで叩くとき、私たちの班がくると俺の班は俺が叩くと他の班長のバッターを取り上げて自ら班員を叩き、他の班長

には叩かせませんでした。

三、班長の言葉

班長の言葉の中で私に話しかけられた言葉で今も残っているのは「俺の弟のようで俺は叩く気になれん」と言われたことが、今でも忘れられません。

四、班長への甘え

班長のチェスト（衣服箱）のなかから煙草を失敬したこともあったのですが、分かっているのに一言も言わないでお目こぼししていただきました。私が甘え過ぎていたので、制裁を受けても仕方ないことと思っていました。靴下なんか私にくれました。

五、飛行服写真

あるとき飛行作業が始まるので、兵舎で飛行服に着替えていたら班長が「写真を撮ってやろう」と私と伊藤を兵舎の外で写真を取って呉れました。急げ急げとせかされて、飛行服の襟をたてたままでほんとは時間がなかったのです。写真を撮ると飛行場に3人で全速力で走って行きました。

戦争の時代、写真を撮っていたのは、班長だけでした。

六、外出写真

航空隊に入って初めての団体外出を上海の新公園で撮って呉れたものです。この写真は前述の通りです。

七、バッターの制裁忌避

班長に呼ばれて教員室に「洗濯して来い」と言われてきれいなシャツをバケツに入れて洗面所に行き、洗濯終わって帰って来ると、引き戸は閉められ向こうで総員整列でバッターの音が聞こえ、制裁があっていました。

その光景をチラッと見て今更「洗濯で遅れました」とは言えず、言えば班長の心遣いが無駄になるので、洗面所に引き返し、総員整列が終わるまで時間を過ごし制裁は受けませんでした。班長と私だけが知っている事でした。班長の班員を思う心は非常に大きく練習生に対する気持ちは、ほんとに民主主義で人間として付き合いをして呉れました。

八、特攻機出撃（班長同期の友人（甲十期）の見送り）

上海海軍航空隊から昭和十九年十一月（一九九四・十一）ごろでしょうか、（よく覚えていません）特攻隊が出撃するので見送りの位置に就くとアナウンスがあり、全員見送りの位置につきました。私たちが見送りしたのはそれが初めてで最後でした。

日はようやく西に沈んでいこうとするそんな時間でした。班長と一緒に飛行場に行きました。ゼロ戦、彗星艦上爆撃機（液冷）、九七式艦上攻撃機、等約三〇機が爆弾を装備して出撃準備が完了していました。

特攻機に乗る人の最後のもてなしの御馳走が机の上に酒、パイ缶等並べられていました。しかしそんなものに、あと何時間の命を覚悟している人が、手をつけることがあろうはずもありません。

真剣な深刻な無言の顔、顔でした。一人ずつ前を通るので知っていれば声はかけられるのですが、私が知っている人はいませんでした。私は班長のすぐ横に神妙に立っていました。だれも言葉はなく無言の静寂さがただよい、静穏な空気が覆っていました。

【特攻機の出撃を見送る女子学生】



九、班長の同期生との別れ

出撃者が半分を過ぎたころでしょうか、「おう」とどちらかともなく声が出て、班長はあの人懐っこい顔でほほ笑みました。出撃前の彼は胸に千羽鶴をかけ、額に日の丸の鉢巻、国から送られたであろうお守り等を胸につけ、軍刀をさげてこの世の最後のいで立ちに、じっと見入っていました。

班長と同期の甲十期の方でした。片道しかない燃料で明日はない人が、班長に言った最初の言葉は「お前は教員で残れるからいいなあ」班長は「どうせ俺もあとから行くよ」お互いに目を見合わせてほかには言葉もなく、友達は再び帰らぬ飛行機に登場して行きました。

出撃の旗が振られると1機また1機地上を離れる前、風防を左手で閉め、轟音とともに、ようやく水平線に日が沈み、夕焼けの残った淡い明かりの残る空に一機ずつ飛び立って行き、小さくなって消えて行きました。

あのとき「お前は教員で残れるからいいなあ」いわれた人の真意はどんなことを意味していただろうと今でもいろいろ考えます。

俺も教員で残りたい。ということは、いま出撃に行きたくない。しかし仕方がない。やはり若い命は誰でも散らしたくないというのが、人だろうと思います。出撃の五分くらい前に友達に会えば、ほんとの心境を披露するのは当たり前だと思います。

しかし友達の方も、教員で残った佐久間班長が、それから8カ月後に

は「海軍の大馬鹿野郎」と言って沖縄の海に散って行かれようとは、知らないで「お前は教員で残れるからいいなあ」と羨望の気持ちを持ち続けて出撃して行っただろうと思います。

班長とは上海で別れましたが、いつどのようにして別れたか覚えていません。50年前に別れて以来ですから、班長も忘れてられるかも分かりません。

終わりに

私と同学校で昭和十八年四月に入隊した人は、上海から二人南海の海に散ったことを復員後聞きました。

戦争はさまざまな悲劇をもたらし、有能な若い人達の命を奪い、こんな戦争を二度と起こさないように、後世の人に平和の大事さを伝えていかないといけないと思っています。

軍人勅諭

我が国の軍隊は世々天皇の統率し給ふ所にそある。

昔神武天皇躬つから大伴・物部の兵ともを率ゐ、中つ国のまつろはむものともを打ち平らけ給ひ、高御座に即かせられて、天の下しろしめし給ひしより二千五百有余年を経ぬ。この間世の様の移り換るに随ひて、兵制の沿革も亦屡なりき。古は天皇躬つから軍隊を率ゐ給ふ御制にて、時ありては皇后皇太子の代らせ給ふこともありつれど、大凡兵権を臣下に委ね給ふことはなかりき。

中世に至りて、文武の制度皆唐国風に倣はせ給ひ、六衛府を置き左右馬寮を建て防人など設けられしかは、兵制は整ひたれとも、打続ける昇平に れて朝廷の政務も漸文弱に流れければ、兵農おのつから二に分れ、古の徴兵はいつとなく壮兵の姿に変わり、遂に武士となり、兵馬の権は一向に其武士どもの棟梁たる者に歸し、世の乱と共に政治の大権も亦其手に落ち、凡700年の間武家の政治とはなりぬ。

世の様の移り換りて斯なれるは、人力もて挽回すへきにあらずとはいひなから、且は我国体に戻り、且は我祖宗の御製に背き奉浅間しき次第なりき。

降りて弘化嘉永のころより、徳川の幕府其政衰へ剩、外国の事とも起こりて其侮をも受けぬへき勢に迫りければ、朕か皇祖仁孝天皇、皇孝孝明天皇いたく宸襟を悩し給ひしこそ忝くも又惶けれ。然るに朕幼くして

天津日嗣を受けし、初征夷大將軍其政權を返上し、大名小名其版籍を奉還し、年を経ずして海内統一の世となり、古の制度に復しぬ。これ文武の忠臣良ありて朕を輔翼せる功績なり。歴世祖宗の、專蒼生を憐み給ひし御遺沢なりといへとも、併我臣民の其心に順逆の理を弁へ、大義の重きを知れるか故にこそあれ。されは此時に於て兵制を更め我国の光を耀さんと思ひ、此15年か程に陸海軍の制をは今の様に建定めぬ。夫兵馬の大権は朕か統ふる所なれば、其司々をこそ臣下には任すなれ。其大綱は朕親之を攪り、肯て臣下に委ぬべきものにあらず。子々孫々に至るまで篤く斯旨を伝へ、天子は文武の大権を掌握するの義を存して、再中世以降の如き失体なからんことを望むなり。朕は汝等軍人の大元帥なるぞ。されは朕は汝等を股肱と頼み、朕は頭首と仰ぎて其親は特に深かるべき。朕か国家を保護して上天の恵に応し、祖宗の恩に報いまらする事を得るも得ざるも、汝等軍人か其職を尽くすと尽さざるとに由るぞかし。

我国の稜威振はさることあらは、汝等能く朕と其憂を共にせよ。我武維揚りて其栄を耀さは朕汝等と其誉を偕にすへし。汝等皆其職を守り、朕と一心になりて、力を国家の保護に尽さは、我国の蒼生は永く太平の福を受け、我国の威烈は大に世界の光華ともなりぬへし。朕斯も深く汝等軍人に望むなれば、猶訓諭すべき事こそあれ。いてや之を左に述べむ。

一 軍人は忠節を尽くすを本文とすへし

凡生を我国に稟くるもの、誰かは国に報ゆるの心なかるべき。況して軍人たらん者は、心の固からては物の用に立ち得へしとも思はれず。軍人にして報国の心堅固ならさるは、如何程技芸に熟し、學術に長するも猶偶人にひとしかるへし。其隊伍も整ひ、節制も正しくとも、忠節を存せざる軍隊は、事に臨みて烏合の衆に同かるへし。抑国家を保護し国権を維持するは、兵力に在れば兵力の消長は、是国運の盛衰なることを弁へ、世論に惑はす政治に拘らず只々一途に己か本分の忠節を守り、義は山嶽よりも重く、死は鴻毛より軽しと覚悟せよ。其操を破りて不覚を取り汚名を受くるなかれ。

一 軍人は礼儀を正くすへし

凡軍人には上元帥より下一卒に至るまで其間に官職の階級ありて統属するのみならず、同列同級とても停年に新旧あれは新任の者は旧人のものに服従すべきものぞ。下級のものは上官の命を承ること実は直に朕か命を承る義なりと心得よ。己か隷属する所にあらずとも上級の者は勿論停年の己より旧きものに対しては総へて敬礼を尽くすへし。又上級の者は下級のものに向ひ聊も輕侮驕傲の振舞あるへからず。公務の為に威嚴を主とする時は格別なれとも、其外は務めて懇に取扱ひ、慈愛を専一と心掛け、上下一致して王事に勤勞せよ。若軍人たるものにして礼儀を紊り、上を敬はず下を恵ますして一致の和諧を失ひたらんには、啻に軍隊の毒たるのみかは国家の為にもゆるし難き罪人なるへし。

一 軍人は武勇を尚ふへし

夫武勇は我国にては古よりいとも貴へる所なれば、我国の臣民たらんもの武勇なくては叶ふまし。況して軍人は戦に臨み敵に当るの職なれば、片時も武勇を忘れてよかるへきか。さはあれ武勇には大勇あり小勇ありて同からず。血気にはやり粗暴の振舞などせんは武勇とは謂い難し。軍人たらむものは常に能く義理を弁へ能く胆力を練り、思慮を殫して事を謀るへし。小敵たりとも侮らず大敵たりとも懼れず、己か武職を尽さむこそ誠の大勇にはあれ。されは武勇を尚ふものは、常々人に接るには温和を第一とし、諸人の愛敬を得むと心掛けよ。由なき勇を好みて猛威を振ひたらは、果は世人忌嫌ひて豺狼などの如く思ひなむ。心すへきことにこそ。

一 軍人は信義を重んずへし

凡信義を守ること常の道にはあれと、わきて軍人は信義なくては、一日も隊伍の中に交りてあらんこと難かるへし。信とは己か言を踐行ひ、義とは己か分を尽すをいふなり。されは信義を尽さむと思はは、始より其事の成し得へきか得へからざるかを審に思考すへし。臆気なる事を、仮初に諾ひてよしなき関係を結び、後に至りて信義を立てんとすれば、進退谷りて身の措き所に苦むことあり。悔ゆとも其詮なし。始に能々事の順逆を弁え、理非を考へ、其所詮踐むへからすと知り、其義はとて守るへからすと悟りなは、速に止るこそよけれ。古より或は小節の信義を立てんとて、大綱の順逆を誤り、或は公道の理非に踏迷ひて私情の信義を守り、あたら英雄豪傑ともか禍に遭ひ、身を滅し屍の上の汚名を後世まで遺せること、其

例黜からぬものを深く警めてやはるべき。

一 軍人は質素を旨とすへし

凡質素を旨とせされは、文弱に流れ軽薄に走り趨り、驕奢華靡の風を好み、遂には貧汚に陥りて志も無下に賤くなり、節操も武勇も其甲斐なく世人に爪はしきせらるる迄に至りぬへし。其身生涯の不幸なりといふも中々愚なり此風一たび軍人の間に起りては、彼の伝染病の如く蔓延し、士風も兵氣も頗に衰へぬべきこと明なり。朕深く之を懼れて曩に免黜条例を施行し、略此事を誡め置きつれど、猶も其悪習の出んことを憂ひて心安からねは、故に又之を訓ふるそかし。汝等軍人ゆえ此訓誡を等間にな思ひそ。

右の五ヶ条は軍人たらんもの暫も忽にすへからず。さて之を行はんには一の誠心こそ大切なれ。抑此五ヶ条は我が軍人の精神にして、一の誠心は五ヶ条の精神なり。心誠ならされは、如何なる嘉言も善行も皆うはへの装飾にて何の用にかは立つべき。心たに誠あれは何事も成るものそかし。況してや此五ヶ条は天地の公道人倫の常經なり。行ひ易く守り易し。汝等軍人能く朕か訓に遵ひて此道を守り行ひ国に報ゆるの務を盡さは、日本国の蒼生擧りて之を悦ひなん。朕一人の懌のみならんや。

明治十五年一月四日

御名御璽

終わりに

私はB型慢性肝炎、食道静脈瘤、肝硬変、肝臓ガンという病名を告げられて手術した方がいいといわれて、平成八年十二月十七日医療センターに入院し、平成九年二月九日手術、三月十九日退院。毎月一回の検診を受け、平成九年九月三十日の検診でどうももう一カ所あるようだから平成九年十月十三日に入院検査して、もしガンがあつたら一応十月二十四日手術ということで予定を組んでおきます。ということでした。

そして十月十九日主治医から午後七時説明をするので家内と来てくれと婦長を通じていわれその時間に長男が家内を連れて来たので一緒に説明を聞くにして夜九時まで説明があり、2回目の手術しなければ一年半手術すれば五年ということを知られ、明日までに返事をするので今日は家に帰っていいと言われ、家に帰り、一時頃まで家内と二人で手術するかしないかを検討し、私は手術をしないということで、結論を出し、現状なんらの障害もなく元気に過ごしています。

いろいろやっていますが、とにかく現状維持はできています。これから先にどんなことが起こってもそれは仕方のないことです。

全力を振り絞って対抗して行くしかありません。内容等について書けば長くなるので、現在自分史「故郷は夢に」を作ってそれから私の青春時代、壮年時代、老年時代を作っていくつもりです。

「故郷は夢に」だけでも作って製本したいと考えています。全くの手作りで校正もままならず、つたないものかも知れませんが、私の最初の

本ですので、出来不出来は二の次でそんなことでは許されないのでしょうが、努力だけは認めてもらえれば幸甚です。

肝臓ガンに負けずに作ったこの自分史を皆さんに読んでもらい、戦争なき平和な社会がいつまでも訪れることを願っています。

著者 川島謙二

住所 〒八一四 - 〇〇〇二 福岡市早良区西新五 - 五 - 一三

電話 〇九八一八三一—四三四七

【亡くなる直前の著者が妻と主治医で撮影した最後の写真】



「故郷は夢に」デジタル版

発行:2024年12月

発行者:川島道子

編集責任者:川島義幸

Word変換:川島梨花

写真加工:田中めい

連絡先:〒814-0022 福岡県福岡市

早良区西新町5-5-13